

○竊盜ノ件

明治二十八年第一〇九〇號
明治二十八年十月二十八日宣告

○判決要旨

假下トハ現在ノ贓品ヲ假リニ被害者ニ下附スルノ謂ニシテ眞ノ還付ノコトニ
アラス從テ判決ヲ以テ之ヲ言渡スニアラサレハ法律上還付ノ効ナシトス

(參照) 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁
列スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付

ス(刑法第四
十八條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 長谷川シゲ 辯護人 的場平次
鈴木豐次郎

右竊盜被告事件ニ付明治二十八年八月三十日東京控訴院ニ於テ東京地方裁判所カ被告ヲ重禁
罰一月十五日監禁六月ニ處シ押収ニ係ル金指輪一個外三點ハ被害者ニ假下ノ儘還付スト言渡
シタル判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ服セ
ヌ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ
被告上告趣意ノ要ハ刑事訴訟法第九十八條第二項ニ由レハ證據物件ハ之ヲ被告人ニ示シテ
辯解ヲ爲サシメサル可カラス然ルニ原院カ本案證據物件タル指環二個并ニ簪二箇ヲ被告人ニ
示シテ辯解ヲ爲サシメサリシハ不法ナリト云フニアレトモ○原院カ指環又ハ簪ヲ本案ノ證據

ニ供セサリシコトハ原判決證據列記中該二品ノ記載ナキニ徴シテ明白ナリ然ラハ本論旨ハ原
判決ニ副ハサル攻撃ニシテ固ヨリ上告ノ理由トナルヘキニアラス

辯護士的場平次擴張趣意書ノ要ハ原判決ハ犯罪ノ日時場所竊盜ノ所爲及ヒ贓品ヲ列舉シタル

其盜品ノ所有主即チ何人ノ品物ナルヤヲ明示セサルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニアレト

モ○原判文事實ノ理由ニ被告シケハ東京市日本橋區通三丁目九番地時計商高野周吉方ニ被雇

申明治二十八年五月十五日雇主居室ニ於テ家人ノ隙ヲ窺ヒ十八金指輪一個云々ヲ竊取シタリ

トアリ凡ソ一家ノ内ニ存スル物品ハ其特徵アルモノヲ除キ總テ家長ノ所有物ト見做スヘキモ

ノナレハ現ニ高野周吉居室ニテ指輪其他ヲ竊取シタリト明示シアル以上ハ其物件ノ所有主ハ

高野周吉タル無論ナレハ原判決ハ其事實ノ理由ニ於テ爾ル所ナシ

同辯護士及辯護士鈴木豐次郎運署辯明書ノ要ハ原判決ニ於テ本件ノ贓物四點ハ假下ノ儘還付

スヘキモントスト下判定シタルトモ刑法第四十八條末段ハ贓物犯人ノ手ニアル場合ニ適用スヘ

ク本件ノ如ク既ニ被害者ノ手裡ニ回收セラレタルニ拘ハラス同法條ニ依リ前掲ノ判定ヲ爲シ

タルハ違法ナリト云フニアレトモ○假下ケトハ其文字ハ如ク現存ハ贓品ヲ假リニ被害者ニ下

付シタルニ止マリ眞ノ還付ニ非スシテ尙ホ犯人ノ手ニ存スルト一般ナレハ法律上ハ還付ヲ爲

サシニハ更ニ別決ヲ以テ之カ還付ハ言渡ヲ爲サハル可ラス此故ニ原院カ刑法第四十八條ニ

依リ還付スヘキモノト判決シタルハ正當ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月二十八日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十八年第一一〇〇號
明治二十八年十月二十八日宣告

○判決要旨

形式上缺點アル爲替手形ト雖モ手形トシテ他人ヲ欺クニ足ルモノハ手形偽造罪ヲ構成ス(判旨第一點)

他人ノ名義ヲ以テ電報文ヲ偽造シ郵便電信局ヲシテ發送セシメタル後之ヲ他人ニ行使シタル所爲ハ私書偽造罪ヲ構成ス(判旨第十點)

第一審 長崎地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 首藤柳太郎 辯護人 岡崎正也
林田仁平

右被告兩名カ私印私書偽造行使及ヒ詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年八月二十日長崎控訴院ニ於テ被告兩名ノ控訴及ヒ原院ノ附帶控訴ヲ審判シタル未被告ノ控訴ハ其理由ナキニ付之ヲ棄却シ檢事ノ附帶控訴ニ因リ原判決中被告兩名ニ對スル公訴ノ部分ハ之ヲ取消シ更ニ被告兩名ヲ各輕懲役六年ニ處ス押收ニ係ル爲替手形船積證書及ヒ爲替手形副證ハ之ヲ沒收シ其他

ノ押收書類印頭金員ハ各提出者ニ還付シ裁判費用ハ被告共ノ連帶負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

被告柳太郎カ上告趣旨ノ第一點ハ本件ノ爲替手形ハ商法第七百十六條ニ規定セル要件ヲ闕クテ以テ同法第七百六條ニ依レハ無効ナリ然ルニ原院カ爲替手形トシ刑法第二百九條等ヲ適用シテ處斷シタルハ不法ナリ又假ニ法律ノ要件ヲ具備スルモノトスルモ本件ノ爲替手形ハ他ノ銀行ニ於テハ荷爲替借用證書トシテ取扱居ルコトハ第十八國立銀行ノ用紙ニ依リ明白ニシテ即チ荷爲替借用證書ト雖モ其性質ヲ異ニセサルヲ以テ爲替手形ノ性質ヲ備ヘサルモノナリ云々故ニ爲替手形トシテ論シタルハ不法ナリト云フニ在リ○假ニ右論旨ハ如ク本件ハ爲替手形ハ法律ニ規定セル要件ヲ闕キタルモノトスルモ荷爲替手形トシテ他人ヲ欺クニ足ルハ文書ヲ偽造行使シタル上ハ即チ之ヲ爲替手形ハ偽造行使ト爲サハル可カラズ故ニ原院カ刑法第二百九條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ナルニ付前段ノ論旨ハ相立タズ又假リニ本件ノ爲替手形ハ他ノ銀行ニ於テ荷爲替借用證書トシテ取扱居リ其性質異ナラサルモノトスルモ爲替手形ト認ムルト否トハ承審官カ其文書ニ付認定スル所ノ事實ニシテ即チ承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ爲替手形ト認メタルヲ不法ナリト論スルハ所謂事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

同第二點ハ原院ニ於テ認メタル如ク本件爲替ノ振出入タル義務者ハ田邊周藏ナル虛偽ノ人ニ

シテ現在ノ人ニアラサレハ偽造手形ニ付テハ被害者ナキヲ以テ犯罪構成ス可キモノニ非ス然ルニ刑法第二百九條ヲ適用シタルハ疑律錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ認メタル如ク振出入田邊周藏ハ虚偽ノ人ナリト爲スモ本件ノ爲替手形ハ田邊周藏ナル虚偽ノ人ヲ振出入ト爲シタルノミナラス荒木儀八ナル現在ノ人ヲ保證入ト爲シ即チ現在ノ人ニ對シ其名義ヲ詐僞シタル事實ハ原院ノ明ニ認ムル所ナレハ此事實ニ於テ爲替手形偽造行使ノ罪ヲ構成スルニ付振出入田邊周藏カ虚偽ノ人ナルト否トハ敢テ之ヲ問フコトヲ要セサルナリ故ニ原院カ刑法第二百九條ヲ適用シ處斷シタルハ固ヨリ當然ナリトス

同辯明書ノ要旨ハ被告仁平カ被告柳太郎ニ對シ言掛チ爲ス事實ハ之ヲ證明スヘキモノアルニ共犯ト認メタルハ不法ナリト云フニ在テ○其事實ヲ糺述スレトモ要スルニ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノナレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ許サス

被告仁平カ上告趣旨ノ第一點ハ被告柳太郎カ上告趣旨第一點ノ論旨ト同一ナルニ付右ニ對スル說明ニ依テ了解スヘシ

同第二點ハ被告等三名ノ通謀ハ如何ナル場所ニ於テ之ヲ爲シタルカ又如何ナル方法ヲ以テ之ヲ爲シタルカ原判文ニ單ニ通謀トアルノミニシテ其理由ヲ付セスト云フニ在レトモ○通謀ノ場所及ヒ方法ノ如キハ犯罪ノ構成ニ關セサルモノナレハ逐一之ヲ明示スルコトヲ要セス故ニ理由ヲ付セスト論スルコトヲ得サルナリ

同追申書第一點ノ論旨ハ爲替手形ハ被告仁平ノ知ラサル所ナリ而シテ被告仁平カ認メタル他

ノ二通ノ書面ノミニテハ決シテ損害ヲ生シ得可キモノニアラサレハ絶對的ニ不能犯ナルニ私營偽造罪ニ間擬シタルハ不當ナリト云フニ在テ○要スルニ原承審官カ諸般ノ證據ニ依テ認定シタル事實ヲ非難スルニ外ナラサレハ是亦上告ノ理由ト爲ルヘキモノニ非ス

同第二點ノ論旨ハ田邊周藏ナル虚偽ノ人ノ偽印ニ付其罪ヲ問ハサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ノ當否如何ニ拘ラス被告ノ利益ニ反スル論旨ナルニ付上告ノ理由ト爲スコトヲ許サス

同第三點ハ刑法第百條ノ意義ヲ察スルニ刑ノ執行ニシテ法律ノ適用ニアラス私印偽造罪モ一個特立ノ犯罪ニアラサルコトハ原院モ認メラレタル所ニシテ法律ヲ適用シナカラ刑ノ宣告ナキハ違法ナリト云フニ在レトモ○熱讀再三到底其趣旨ノ在ル所ヲ了解スルコト能ハス隨テ之カ當否ニ付說明ヲ與フルニ由ナキモノトス

同第四點ハ原判文ニ爲替手形同副證書船積證書ト記載アル書面ヲ名付ケテ一ハ文書トシ一ハ書面トシ一ハ證書トシ同一ノ書面ニシテ斯ク名義ヲ異ニスルハ違法ナリト云フニ在レトモ○文書ト云ヒ書面又ハ證書ト云フハ要スルニ其意義ニ廣狹ノ差アルニ過キス故ニ假令原判文ニ右文字ヲ誤用シタル點アリトスルモ被告ノ利害ニ何等ノ關係ヲモ及ホス可キモノニアラサレハ此等ノ論旨ハ上告ノ理由ト爲スニ足ラサルナリ

被告兩名辯護士岡崎正也ノ擴張論旨第一點ハ原院ニ於テ立會檢事カ公訴ノ事實ニ付意見ヲ陳述セサリシハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ査閱スルニ檢事曰被告雙方ノ

申立及ヒ辯護人互ノ辯論ニテ事實明瞭トナリシヲ以テ本職ハ則ニ論告スルノ必要ナキニ至レリ云々ト記シアルハ即チ檢事ニ於テ事實ニ付テノ意見ヲ陳述シタルニ外ナラス故ニ此論旨モ亦採用シ難シ

同第二點ハ被告柳太郎カ上告趣旨第一點ト同一論旨ナルニ付右ニ對スル説明ニ依テ了解ス可シ

同第三點ハ被告柳太郎カ上告趣旨第二點ト同一論旨ナルニ付是亦右ニ對スル説明ニ依テ了解ス可シ

同第四點ハ原院ニ於テ相被告タリシ長谷川廣吉カ大阪郵便電信局ニ向テ筑紫三次郎ヨリ田邊則藏ニ宛テ不實ノ電信ヲ發送シタル所爲ヲ以テ私書偽造罪ヲ構成スルモノト判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院文ヲ查閱スルニ被告等通謀ノ上相被告タリシ長谷川廣吉カ大阪市高麗橋筑紫三次郎ハ名義ヲ以テ在長崎田邊則藏ニ宛テタル電報文ヲ偽造シ之ヲ大阪郵便電信局ニ提出シテ發送シタル其電報ヲ被告等ニ於テ三井銀行長崎支店ニ提出シタリト事實ヲ認定シアリテ筑紫三次郎名義ハ電信文ヲ偽造シ之ヲ行使シタル者ナレハ即チ私書偽造進行使罪ヲ構成スルコト勿論ナリ故ニ原院決ハ相當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十二月十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

判旨第十點

○偽證ノ件

明治二十八年第九六二號
明治二十八年十月二十九日宣告

○判決要旨

明治廿八年第七〇九號貸借偽造ノ件及
同年第九六八號恐嚇取財ノ件參看第二卷登載

公判始末書ノ有無ヲ以テ判決ノ認定ヲ左右スルヲ得ス(判旨第四點)

刑事訴訟法第二百四條ニ所謂判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル即日又ハ次ノ開廷日ニ爲スヘキ規定ハ裁判官ニ對スル訓示法タルニ過キス從テ之ニ違背シタル判決ヲ以テ直チニ無効ナリト論斷スルヲ得ス(判旨第六點)

(參照) 判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即日又ハ次ノ開廷日ニ之ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法第二百四條一項)

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 寺澤林三郎 辯護人 高木益太郎

右偽證被告事件ニ付明治二十八年七月三日名古屋控訴院ニ於テ原院決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮六月罰金五圓ニ處シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事長加納謙ハ答辯書ヲ提出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢事岩田武儀辯護士高木益太郎ノ聲明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨第一ハ原院決ニ被告ガ真正ノ事實ヲ知りナカラ故ヲニ不實ノ陳述ヲ爲シタル

公判始末書ノ効力○次ノ開廷日ニ言渡サル判決

理由ヲ示サス唯々被告カ證人トシテ陳述シタル事實カ真正ノ事實ト符合セストノ理由ノミヲ示シテ偽證ノ罪アリトモシハ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ〇原判決ニ「前署判事ヨリ訊問ヲ受クルニ當リ其真正ノ事實ハ秋カ私有ニ買入レ之ヲ村ニ貸渡シタルモノナルニ秋ヲ曲庇シ云々不實ノ陳述ヲ爲シタリ」トアリテ被告カ真正ノ事實ヲ知リナカラ不實ノ陳述ヲ爲シタルノ事實明瞭ナレハ理由ノ不備ナシトス〇第二ハ原判決ニハ刑法第二百十八條第一項ニ由リ云々トノミ揭擧シ刑期ヲ示サトルヲ以テ刑期ノ果シテ相當ナルヤ否ヲ知ル能ハサル理由不備ノ判決ナリト云フニアレトモ〇刑期及ヒ罰金ノ額ハ主文ニ記載シアレハ法律ノ理由ニ之ヲ明示セサルモ決シテ理由ノ不備ナリトモス〇辯護士ノ擴張要旨第一ハ本件ノ被告ニ對シテ檢事ヨリ偽證罪ノ公訴ヲ提起シタル形骸ナキヲ以テ(刑事訴訟法第二十條論據)豫審ニ於ケル關係人ノ調書ハ越權ノ處分ニ基クモノニシテ無効ナリ然ルニ原判決ニ於テ被告及ヒ村上秋外三名ノ豫審調書ヲ採リテ斷罪ノ證ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇刑事訴訟法第九十五條ニ依レハ證人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ者ト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ勾引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致スヘシトアリテ訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テモ豫審判事ニ送致スルコトヲ得ルモノナレハ必スシモ檢事ノ起訴アルヲ要セス苟モ裁判所ヨリ送致スルニ明治二十六年四月六日附ヲ以テ名古屋地方裁判所第二刑事部判事ヨリ同應豫審判事ニ

判旨第四點

宛テ公廷ノ供述ニ依リ被告ヲ偽證罪アルモノト思料シ刑事訴訟法第九十五條ニ依リ之ヲ送致シタルノ文書アリ然ラハ假令檢事ノ起訴ヲ記載シタル公判始末書ニ法式ヲ欠キ無効トナリテ其起訴ヲ見ルヘキモノナキモ既ニ公判判事ヨリ適法ノ送致アル以上ハ豫審判事ニ於テ之ヲ受テ豫審處分ヲ爲シテ蒐集シタル證據ハ有効ノモノナルヲ以テ原院力之ヲ採リテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニアラス〇第二ハ原判決ニ被告ハ云々證人トシテ名古屋地方裁判所ニ召喚セラレ明治二十六年四月六日其公廷ニ於テ云々不實ノ陳述ヲ爲シタリ」トアリ依テ同裁判所ノ公判始末書中同日開廷ノ部ヲ見ルニ相當官吏ノ契印ヲ闕キ該始末書ハ無効タルヲ免カレス從テ同日ノ公判ハ開廷アリタルヤ否及右公廷ニ於テ被告ハ適式ニ宣誓ヲ爲シ偽證シタルヤ否ヤノ事實ヲ認ムヘキモノナク又此點ニ付檢事ノ控訴ヲ爲シタル事實確認スヘキモノナシ然ルニ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇被告カ明治二十六年四月六日名古屋地方裁判所公廷ニ於テ偽證ヲ爲シタルコトハ原院カ職權ヲ以テ諸般ノ證據ヲ取捨シテ認定シタル事實ニシテ同公廷ニ關スル始末書ハ有無ハ其認定ヲ左右スルモノニアラス然ラハ該始末書ハ契印ヲ闕キ無効ニ屬スルモ原院ハ之ヲ以テ本件ノ證據ト爲シタルニアラス他ハ證據ヲ採リテ有罪ノ認定ヲ下シタルモノナルヲ以テ毫モ違法ハ點ナシ又檢事ノ起訴ニ付テハ第一點ノ說明ニ依リテ了解スヘシ〇第三ハ證人ニ對シテハ刑事訴訟法第二百二十三條ノ干係如何ヲ訊問セサルハ無効ノ證言ナルニ付偽證罪ヲ構成スルノ理ナシ然ルニ原判決ニ此法式ヲ履ミタル事實ヲ明示セスシテ被告ノ供述ヲ證言ノ効力アルモノト認メ之ニ對シ偽證罪成立シタルモノト判斷シ

タルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判文ニ公判延ニ於テ宣誓ヲ爲シタル上供述ヲ爲シタルコトヲ明示シアレハ誰人タルノ資格ヲ訊問シタル後供述ヲ爲シタルモノナルコトハ自ラ明カナレハ犯罪構成ノ理由ニ不備ナシトス第四ハ原院ニ於テ本件ノ辯論ハ明治二十八年六月二十四日ニ結了シタルニモ拘ラス翌月三日ニ至リ裁判ヲ言渡シタルハ刑事訴訟法第二百四條第一項ノ規定ニ違反シタルモノナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百四條第一項ハ一ハ明示法ニシテ次ハ開延日マテニ判決ハ言渡ヲ爲サハルモ之カ爲メ判決ハ無効ヲ惹起スモハニアラズ故ニ論旨ノ如ク言延ヲ延延シタリトスルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月二十九日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

判旨第六點

○酒造稅則違犯ノ件

明治二十八年第一〇五四號
明治二十八年十月二十九日宣告

○判決要旨

酒類隠蔽ノ所爲ハ繼續犯ナリ從テ之ヲ發見シタルトキハ現行犯トシテ處分スルコトヲ得ヘシ

(參照) 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科ス可シ(明治十三年九月二十七日布告)
第四十號 酒造稅則第三十一條

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 乾 新兵衛

明治二十八年七月十八日大阪控訴院ニ於テ右新兵衛ニ對スル酒造稅則違犯被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決ノ内第一被告事件ニ關スル控訴ハ之ヲ棄却ス原判決ノ内第二第三被告事件ニ關スル部分ヲ取消シ更ニ左ノ如ク判決ス第二被告事件ニ付罰金六百五十四圓九十一錢二厘ニ處シ清酒五十四石五斗七升六合ヲ沒收ス第三被告事件ニ付罰金三百十九圓三十錢八厘ニ處シ清酒二十六石六斗九合ヲ沒收ス其他押收物件並清酒保管請書ハ各差出人ニ還付スト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事長林誠一ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

上告趣意書第一點ノ要旨ハ本件ハ非現行犯事件ニテ現行犯ニアラサルコトハ原判文ニ被告ハ收稅屬石原義視等被告ノ營業場ニ臨ミ調査ヲ受ケルニ方リ左記三ヶノ所爲ヲ覺察セラレタル旨ノ記載アルニ依テ明カナルノミナラス間稅官吏ノ作成セシ臨檢調査ニモ酒造稅則違犯ノ所爲アリト思料シ酒造場ニ臨ミ搜查セシ所隱蔽シアルヲ發見シテ取調ヲ爲シタリ云々トアリテ臨檢搜查ノ末偶々發覺シタル事實ナルコト明カナリ而シテ間擄國稅犯則者處分法第五條ニ依レハ家宅搜索及物件差押ヲ爲ス時間ハ現行犯其他一二ノ場合ノ外日出ヨリ日没マテノ間ニ

限ラレアルニモ拘ラス本件ニ付收税官吏カ爲シタル處分ハ或ハ日中ヨリ日没後ニ跨リ或ハ日没後ニ初メタルモノアレハ當時作成セシ臨檢調書ハ違法ノモノナリ然ルニ原院カ之ヲ採テ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○酒類ヲ隠蔽スルモノハ其ハ隠蔽中犯罪繼續スルヲ以テ之ヲ發見シタル事由ハ如何ニ拘ラス其發見シタル時即チ現行犯トシテ處分スルコトヲ得ヘキモノトス故ニ本件ニ付收税官吏カ爲シタル處分ハ違法ハ廉ナキニ依リ原院カ右臨檢調書ヲ採テ證據ト爲シタルモ違法ニアラストス同第二點ハ本件第二第三ノ所爲ハ假リニ原院カ認メタル如キ隠蔽ノ所爲ナリトスルモ酒造稅則第十條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラスシテ同第三十一條ヲ適用セラルヘキモノナリ然ルニ原院ニ於テ右第十條ヲ適用シテ處斷シタルハ疑律錯誤ナリト云フニ在レトモ○原列文ニ明示スル事實ニ依レハ被告ハ造酒ノ石敢ヲ官廳ニ申出檢査ヲ受クルコトヲ爲サスシテ其酒類ヲ隠蔽シタルモノナルヲ以テ右第十條及第三十二條等ヲ適用シテ處斷シタルハ正當ナリ且チ第三十一條ハ已ニ酒類ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ本案ノ如キ現ニ隠蔽セルモノニ當行スヘキモノニアラサルハ勿論ナルヲ以テ同條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトノ上告論旨ハ最モ謂ハレナキモノトス因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

水件上告ハ之ヲ棄却ス

明治十九年勅令第四十六號ニ依リ豫納金ノ半額ヲ沒收ス

明治二十八年十月二十九日大審院第二部公庭ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○放火ノ件

明治二十八年第一二二六號
明治二十八年十月二十九日宣告

○判決要旨

公判ニ對スル公訴不受理ノ判決ヲ爲シタルカ爲メ豫審ニ對スル起訴ノ手續ヲ消滅セス從テ檢事ノ爲シタル豫審ノ請求ハ該判決ノ後ニ至ルモ依然トシテ其効ヲ存ス(判旨第三點)

公訴不受理ノ判決ハ公訴權ヲ消滅セシムルモノニアラス(判旨第五點)

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 花籠治郎 辯護人 宮古啓三郎

右治郎カ放火被告事件ニ付明治二十八年八月十三日宮城控訴院ニ於テ盛岡地方裁判所カ被告ノ所爲ヲ有罪ト認メ輕懲役七年ニ處ス云々ト言渡シタル判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審ノ判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事正木昇之助ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ立會檢事岩田武儀ノ意見辯護士宮古啓三郎ノ辯論ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

被告カ上告ノ要旨ハ原院ハ自分ニ對シ明治二十六年十一月二十一日午後七時頃岩手縣紫波郡

公訴不受理ノ判決

彦部村佐藤七藏カ前上ケ置キシ稻ハセニ火ヲ放チ稻凡ソ三百把ヲ燒燬シタリト事實ヲ誤認ス
 レトモ是全ク然ラス故ニ自分ハ豫審以來始終一貫シテ其實ヲ否認シ且其冤罪ヲ證明セント
 欲シ佐々木直吉内村豊治ヲ證人トシテ喚問ノ請求ヲ爲シタルニ一々之ヲ採用セス空シク被告
 ニ有益ナル證據ヲ提出セシメスシテ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ事實ヲ不當ニ認定シテ刑ヲ科シ
 タルハ擬律錯誤ノ判決ナリト云フニアレトモ○本論旨ハ承審官ノ職權ニ特任セル證憑ノ取捨
 事實ノ認定ニ對シ批難ヲ試ムルモノニ外ナラサルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ上告趣意追加書
 ハ之ヲ五項ニ分チ繼々陳述スル處アレモ專ラ平澤吉太郎トノ間ニ於ケル金員受授ノ數額ヲ記
 載シ結局被告ハ放火罪ヲ犯シタルコト決シテ之ナシト云フニアリテ○要スルニ本論旨モ亦事
 實認定ノ當否ヲ辯難スルモノニ外ナラサルヲ以テ上告其理由ナシ○當古辯護士上告理由擴張辯
 明書ノ要旨第一點本件ノ起訴トスル處ハ明治二十六年十一月二十九日盛岡地方裁判所檢事正
 木昇之助カ同職豫審判事高橋亮佑ニ對シテ爲シタル求審是ナリ然ルニ右ノ豫審ニ對シテハ無
 効云々ノ理由ニ依リ大審院ニ於テ本案ハ重罪被告事件ナルニ未タ適法ノ豫審ヲ經サルニ依リ
 公訴ヲ受理セスト判決セラレタリ云々元來該公訴ハ檢事正木昇之助ノ豫審請求ヲ以テ起リタ
 ルモノナレハ其公訴不受理トナリタル上ハ檢事ノ豫審請求ノ無効ニ歸シタルコト亦疑ナシ然
 ラサレハ全然公訴ヲ受理セスト判決スルコトヲ得サルヘケレハナリ故ニ被告人ニ對シ更ニ豫
 審ノ手續ヲ爲シ得ルモノトナセハ更ニ檢事ノ豫審請求ナルヘカラス然ルニ本件ニ於テハ已
 公ニ認不受理トナリタル前審ノ豫審請求アルノミニテ更ニ豫審請求ノ手續アルコトナシ去レ

判官第三點

ハ豫審處分ハ無効ニシテ從テ公判亦無効ニ歸ス故ニ原裁判ハ適法ノ起訴ナキニ本案ニ立入り
 審理判決シタルハ適法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○本件ハ重罪ナルニ依リ豫審決定
 ハ言渡ニ依ルニアラサレハ公訴ヲ受理スヘキモノニアラス然ルニ原裁判所カ爲シタル豫審處
 分ニハ適法ハ點アリテ其決定無効ニ歸シタルモノハナレハ該事件ハ結局豫審ヲ經スシテ爲シタ
 ル檢事ハ起訴ヲ受ケ公廷ヲ開キ審理判決シタル處法アリト云ハサルヘカラス故ニ本院ハ先キ
 ハ上告ニ對シテハ第一審及ヒ第二審ノ判決ヲ破毀シ直チニ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタルモノ
 ナレハ該判決ハ公判ニ對スル公訴ノ不受理ヲ言渡シタルニ止マリ豫審ニ對スル起訴ノ手續マ
 テチ消滅セシメタルモノニアラス要スルニ本件ニ對シ正木檢事カ爲シタル起訴即チ豫審ノ請
 求ハ公訴不受理ノ判決後ト雖依然効力ヲ有シ居ルコトハ勿論ナルニ付檢事ニ於テ再起訴即チ
 豫審請求ノ手續ヲ爲スハ要セサルモノトス因テ原院判決ハ辯護士所論ノ如キ適法ノ點アルコ
 トナシ第二點原裁判ニ於テ明治二十六年十二月一日盛岡地方裁判所豫審掛判事高橋亮佑ノ作
 成シタル豫審調書ヲ斷罪ノ證憑ニ供シタリ然レトモ大審院公訴不受理ノ裁判ノ結果トシテ前
 豫審處分ハ無効ニ歸シタルモノナリ故ニ之ヲ罪證ニ供シタルハ即チ無効ノ調書ヲ斷罪ノ證ト
 ナシタル違法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○前項ニ說明セシ如ク公訴不受理ノ判決ハ豫審處
 分ノ全部無効ナラシメタルモノニアラサル以上ハ公訴不受理ノ判決前正當ノ職權アル豫審判
 事高橋亮佑ノ作成シタル豫審調書ノ有効ナルコトハ勿論ナルニ付原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供
 シタルハ違法ニアラス第三點被告ニ對スル公訴ハ檢事正木昇之助ノ豫審請求ニ依テ起リタル

偽造罪ノ起訴手續

モノニシテ其被告事件ハ豫審ヨリ第一審第二審ヲ經上告審ニ至リ公訴ハ受理セストノ判決ヲ以テ確定シ茲ニ被告ニ對スル放火事件ノ公訴ハ落着キ告ケ即チ公訴權消滅ニ歸シタルモノナリ去レハ一旦不受理トナリタル公訴ヲ再ヒ提起スルコトヲ得ヘカラス然ルニ本件ニ於テハ再豫審處分ヲ爲シ本案ニ立入り審理判決シタルハ違法ナリト云フニアレトモ○前二項ニ說明セシ如ク本院ニ於テ爲シタル公訴不受理ハ判決ハ公訴權ヲ消滅セシメタルモノニアラスナルヲ以テ再ヒ公訴ヲ提起シタルモノニアラス因テ上告論旨ハ渾テ不成立モノトス

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月二十九日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○監守盜及官文書偽造ノ件

明治二十八年第一一三四號
明治二十八年十月二十九日宣告

○判決要旨

證人又ハ鑑定人ニシテ故意ヲ以テ不實ノ供述ヲ爲シタルトキハ裁判所ニ於テ豫審判事ニ送致スヘキモノニシテ別ニ檢事ヨリ起訴ノ手續ヲ爲スヲ要セス從テ豫審判事ハ直ニ豫審處分ヲ爲スコトヲ得

(參照) 證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思

料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取押ヘ勿引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ(刑事訴訟法第九十五條第一項)

刑事訴訟法第二百四條ニ所謂判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル即日又ハ次ノ開廷日ニ爲スヘキ規定ハ裁判官ニ對スル訓示法タル過キス從テ之ニ違背シタル判決ヲ以テ直チニ無効ナリト論斷スルヲ得ス(判旨第十七點)

(參照) 判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即日又ハ次ノ開廷日ニ之ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法第九十五條第一項)

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

公訴私訴上告人 村上 秋 辯護人 高木益太郎
私訴被上告人 安藤幸吉 加藤嘉左衛門

右秋カ監守盜及ヒ官文書偽造被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年七月三日名古屋控訴院ニ於テ公訴ニ付テハ原判決中控訴ニ係ル部分ハ之ヲ取消ス被告秋チ官文書偽造一罪監守盜二罪委託金費消一罪アリトシ重キ官文書偽造罪ニ從ヒ重懲役九年ニ處ス官報代金及ヒ其爲替料ヲ竊取シ因テ村役場ノ帳簿ヲ偽造シタルトノ被告事件ハ無罪トス公訴裁判費用ハ全部被告ニ於テ負擔スヘシ云々ト言渡シ私訴ニ付テハ被告ノ控訴ハ之ヲ棄却ス原告ノ控訴ニ依リ原判決中原告ノ請求相立タストノ部分及ヒ訴訟費用ニ關スル部分ヲ廢棄ス被告人ハ第一審判決ニ於テ賠償

ヲ命セラレタル金額ノ外金百一圓四十一錢三厘ヲ豐富村及ヒ青木村ニ金百二十二圓十八錢五厘ヲ豐富村ニ賠償スヘシ右金以外ノ原告請求ハ之ヲ棄却ス訴訟費用ハ總テ被告ノ負擔トスト
言渡シタル判決ニ對シ秋ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

公訴上告趣意書第一點ハ月長役場ノ支拂ハ原判決證據ノ部ニ明記シタル如ク何レモ金錢支拂簿ニ依リテ支拂ヲ爲シ且之ヲ明記スルモノナルカ故ニ其事項ノ詐僞ニ涉ルヤ否ヤハ當時ノ支
出帳簿タル金錢支拂簿ニ因テ論定スヘキ筋合ナルニ原院ハ何等ノ理由ヲ示スコトナク支拂以
後ニ成立シ殊ニ概テ他人ノ筆記ニ係ル出納決算簿ニ據リ被告カ官文書ヲ偽造シタルモノト認
メタルハ不法ナリ同第二點ハ金錢支拂簿ハ勿論出納決算簿ト雖モ被告ノ預ラサル他人ノ筆記
ニ係ルモノ多シ之ヲ換言スレハ他ノ役場員カ現金ノ支拂ヲ爲シ之ヲ支拂簿ニ記入シ其記入ニ
原由シテ決算簿ニ他人ノ轉載シタルモノ少ナカラス加之支拂簿ト決算簿トノ記事一致セサル
モノ亦多シ若シ職分上ノ責任ヨリ立論スレハ被告ハ之ヲ不知ニ付シ去ルヲ得スト雖モ之ニ刑
罰ヲ當行センニハ支拂簿ニ依リ支拂者及ヒ其記錄者ノ誰タルヲ明ニシ以テ責任ノ歸スル所ヲ
辨ニセサル可ラス然ルニ原判決ハ其根元ニ屬スル金錢支拂簿ヲ關キ其轉載ニ係ル出納決算簿
ヲ基本トシ被告ノ責任ニ歸セシメタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ原院ノ認メタル所
ニ依レハ出納決算簿ハ月長ノ職務上管掌スル所ノ文書ニシテ其月長タリシ被告カ之ヲ偽造セ
シトノコトナルヲ以テ官文書偽造ノ罪アリト斷定セシハ相當ナリトス其他支拂帳簿ニ依ラヌ

シテ決算簿ニ依リタルハ不當ナリト云カ如キハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ
非難スルニ過キスシテ上告理由トスルヲ得ス同第三點ハ原判決ハ出納決算簿ヲ後任村長ニ引
繼キタルヲ以テ偽造證據ヲ行使シタルモノトセシモ其引繼ヲ爲シタルハ引繼書ニ明記セル如
ク止ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ自由ナル意思ニ依リテ呈示シタルニ非ス故ニ偽造證據
行使ノ所爲トナシタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ如何ナル意思ニ依リテ引繼ヲ爲シ
タルカ原院ノ職權ヲ以テ認定スヘキ問題ニ屬シ而シテ原院文ニハ特別ノ意思アリタルヲ明
示セス單ニ引繼ヲ爲シタル旨ヲ記載スルニ過キス故ニ原院カ此引繼ノ行爲ヲ以テ行使トナシ
タルハ相當ナリトス同第四點ハ本案ノ年度ニ係ル學校ノ收支ハ郡長ノ管理ニ屬シ月長ニ分任
セラレタルモノニ非ス故ニ被告カ學校ノ經濟ヲ處理シタルハ法律上管守者タル分限ニ非ス然
ルニ原院ハ詳細ナル説明ヲ爲スコトナク唯月長奉職中ノ年度ニ係ルトノ理由ノミヲ示シタル
ハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ原院文ニハ「月長奉職中(中略)自己ノ職務上保管スル官金即
チ學校費及ヒ役場費ニ云々トアリテ既ニ職務ヲ以テ保管スル旨ヲ明示セル以上ハ則チ被告カ管
守者タル分限アリトノ理由明瞭ナルヲ以テ更ニ別段ノ理由ヲ付スルノ要ナシ同第五點ハ第一
審判決第一項ノ第七第二項ノ第十六ノ事項ハ被告カ詐欺ノ記載ヲ爲シ且該金ヲ竊取シタル證
憑十分ナラスト認メナカラ之ニ無罪ヲ宣告スヘキモノニ非ストナシ同第一審判決第二項ノ第
廿六ニ掲ケタル事項ハ證據十分ナラスト認メ之ニ對シテハ無罪ノ宣告ヲ爲シタリ右同一ノ場
合ニ於テ一ハ無罪ト宣告シ一ハ宣告セサルハ理由ノ顯赫セル不法ヲ免レスト云フニ在リ○然

レトモ原判文ニ依レハ右第一ノ場合ハ連續犯ニシテ第一審判決第一項ノ官金竊取官文書偽造罪中ニ包含シ假令有罪トスルモ合セテ一罪ヲ構成スルニ過キス第二ノ場合ハ獨立セル行為ニシテ別罪ヲ構成スヘキモノナルヲ以テ原院ハ二ケノ場合ニ付異別ノ處分ヲ爲シタルハ相當ナリトス同辯明擴張書第一ハ原院ハ被告カ監守盜ヲ爲シタルコトヲ認ムル理由トシテ明治二十年四月ヨリ明治二十二年十月迄ノ間ニ亘リ同役場内ニ於テ自己ノ職務上保管スル官金即チ學校費及ヒ役場費ヲ始終引續ノ惡意ヲ以テ左ノ如ク數回ニ竊取シ云々ト云ヒ第一項ノ第一以下竊取ニ係ル事項ヲ説明セラレタルモ第一項ノ第一乃至第三ノ金額ハ學校費ニシテ役場費ニ非ス又第二第三ノ説明中役場費ニ不足ヲ告ケ學校費ヨリ流用セシコトヲ認メナカラ役場費ヲ竊取セシト説明セルハ齟齬アリト云フニ在リ○然レトモ前掲學校費及ヒ役場費云々竊取シトアルハ第一項第一乃至第二十五ニ掲ケタル事項ニ冠スル文章ニシテ上告論旨ノ如ク第一乃至第三ノ金額ハ役場費ニ非スシテ學校費ナルモ第十二以下ノ如キハ全ク役場費ナルヲ以テ則チ冒頭ニハ學校費ト役場費トヲ併記スルノ要アルニ依リ右ノ如ク記載シタルニ過キス故ニ第一乃至第三等ニ學校費トアレハトテ其前文ト抵觸セルモノト云フヲ得ス又役場費ニ流用シトアルモ原院ハ其流用シタル行為ヲ有罪トセシニ非スシテ流用シタル殘金ヲ竊取セシ行為ヲ有罪ト認メタルモノナルハ判文上毫モ疑ヲ容ルヘキナシ同第二點ハ原院檢事ノ答辯ニ對シテ反駁セシニ過キサルヲ以テ別ニ説明ヲ與フルノ要ナシ同第三點ハ原判文ニ掲ケタル金額中違算アリ又三十三圓七十六錢ナル經費額ニ付テハ告發書又ハ甲第八號證ニ依リタルニ非ス無根ノ金額

ナリト云フニ在リ○然レトモ原判文ニハ一モ違算ノ點ナク則チ被告カ違算ナリトスルハ原判文ヲ誤解スルニ基クモノナリ又告發書等ニ記載ナキ金額ナリトコトハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス同第四ハ原院ハ二十二年度學校費六十圓餘ヲ竊取セシ旨ヲ説明シナカラ其關係ノ原第四十一號ヲ掲ケサルハ理由ヲ知ルニ由ナク訴訟法第二百三條ノ規定ニ違反スル不法アリト云フニアリ○然レトモ原院カ採用シタル證據ハ判文上之ヲ明示セルヲ以テ證據ノ明示ヲ闕ク不法ナク而シテ原院ノ採用セサル證據ハ固ヨリ之ヲ掲ケヘキモノニ非サルヲ以テ毫モ訴訟法ノ規定ニ反スルコトナシ同第五ハ原判決ハ七月三日ニ於テ言渡シタルモノナルニ其判決書ニハ七月一日トアリ是刑事訴訟法第二百五條ノ規定ニ反スルモノナリト云フニアリ○然レトモ是全ク被告カ受取リタル判決正本ノ誤字アルニ基クモノニシテ其原本ニハ明ニ七月三日トアリ故ニ原判決ニ於テハ毫モ取違アルコトナシ辯護人高木益太郎上告擴張論旨第一點ハ原判文ヲ閱スルニ其第一項第一以下ニハ「帳簿ヲ爲スニ當リ云々詐欺ノ増記ヲ爲シトアリ然ルニ法律適用ノ部ニハ管掌ノ官簿ヲ偽造シタル所爲ハ云々トアリテ偽造ナリヤ變造ナリヤヲ明記セサル不法アリト云フニアリ○然レトモ原判文ニハ其第一項ノ冒頭ニ於テ左ノ如ク數回ニ詐欺ノ記載ヲ爲シ云々トアルヲ以テ其項内ノ項目中偽増記トアルモ全ク偽造ノ旨趣ニシテ則チ冒頭ニ謂フ所ノ記載トアルニ異ナルコトナキハ敢テ疑ヲ容ルヘキナシ」同第二點ハ原判決書第二項及ヒ第三項ノ所爲ハ第一項ノ所爲ト同様ニシテ同一ノ意思ヲ以テ犯シタル連續一體ノ行為ニ過キス然ルニ其中間ニ明治二十三年法律第百

號ノ發布アリタルカ爲メ之ヲ區別シ受寄財物費消罪ト監守盜トニ間擬シタルハ擬律錯誤ノ不
 符アルモノナリト云フニ在リ○然レトモ法律ノ規定上罪ノ性質ヲ異ニスルニ至リタル上ハ同
 一ノ意思ヲ以テ犯シタルモノナルモ之カ爲メ連續犯罪ナリト云フヲ得ス故ニ原院カ各個別罪
 トシテ處分シタルハ相當ナリ同第三點ハ前項ノ論旨相立タズトスルモ原院ニ於テ第二項ノ所
 爲ニ對シ刑法第三百九十五條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法ヲ免レス何トナレハ該所爲ハ自
 己ニ保管シタル公ノ財產ヲ竊取シタルモノナレハ通常竊盜罪ニ間擬スヘキモ受寄財物費消罪
 ニ間擬スル條理ナケレハナリト云フニアリ○然レトモ此論旨ハ被告ノ不利益ニ歸スヘキモノ
 ナルヲ以テ被告ノ上告理由ト爲スヲ得ス同第四ハ本件豫審ノ書類ヲ閱スルニ官文書偽造ノ點
 ニ付テハ明治二十五年十二月十四日豫審終結ノ決定アリ監守盜ノ點ニ付テハ同年七月十四日
 豫審終結ノ決定アリテ何レモ其後確定セリ然ルニ明治二十六年ニ至リ豊宮村々長ノ第三回告
 發書ニ基キ既ニ確定シタル豫審終結決定書ニ掲ケアル犯罪ノ一部分ヲ爲スヘキ行爲ニ對シ再
 ヒ豫審終結ノ決定ヲ爲シタルハ一事不再理ノ原則ニ違背シタルモノナリ然ルニ原院カ此無効
 ノ豫審調書ヲ以テ證據ニ供シタルノミナラス違法ノ決定ニ基キ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法
 首ナリト云フニ在リ○然レトモ如何ナル部分カ再理ニ屬スルヤ書面上之ヲ知ルヲ得ス且辯護
 人ニ於テモ之ヲ指示スルヲ得サル旨申立ツルヲ以テ則チ上告論旨ノ如キ不法アリト認ムルニ
 由ナシ同第五點ハ原院カ證據ニ供シタル告發書中二通ニ對シテハ訂正願書アリ一通ニ對シテ
 ハ取消願書アリ故ニ該告發書ハ訂正願書又ハ取消願書ト相待テ完全ナル効力ヲ有スヘキモノ

ナルニ單ニ告發書ノミヲ採リタルハ不法ナリト云フニアリ○然レトモ證據ノ取捨ハ原院ノ職
 權ニ屬スルヲ以テ之カ當否ヲ論難スルヲ得サルモノトス同道申書第一點ハ訴訟記録ヲ調査ス
 ルニ寺澤林三郎偽證被告事件ニ付檢事ヨリ同人ニ對シ起訴シタル事跡ヲ認ムヘキ適式ノ文書
 ナシ依テ豫審判事カ檢事ノ請求ナキニ右ノ豫審處分ヲ爲シタルハ越權ノ措置ニシテ其訊問調
 書ハ盡ク無効ノモノナルニ原院カ其事件ノ調書ヲ以テ本件ノ證據ニ供シタルハ不法ナリト云
 フニ在リ○然レトモ刑事訴訟法第九十五條ニハ鑑定人ハ供述不實ニシテ故意ニ出
 テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ者ト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ
 依リ又ハ職權ヲ以テ取押ハ拘引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致スヘシトアリテ此場合ニ在リテハ別
 ニ檢事ハ起訴アルヲ要セス豫審判事ニ於テ直ニ豫審處分ヲ爲スヘキモノナリ而シテ寺澤林三
 郎ニ付テハ其訴訟記録中明治二十六年四月六日付ヲ以テ偽證罪アルモノト思料シ名古屋地方
 裁判所ヨリ豫審判事ニ送致スル旨ヲ記載セル適式ノ書面アルヲ以テ該豫審處分ハ適法ニシテ
 從テ其調書ノ無効トナルヘキ理ナシ同第二點ハ刑事訴訟法第九十條ニ所謂證據トハ現ニ判斷
 チ下ス事件ニ付テハ被告人ノ自白官史ノ檢證調書鑑定人參考人ノ調書等ヲ指スモノニシ
 テ他ノ事件ノ被告入又ハ證人等ノ供述ヲモ含ムモノニ非ス然ルニ原判決ニ寺澤林三郎偽證被
 告事件ノ記録中寺澤林三郎村上秋伊藤金五郎等ノ豫審調書ヲ參考シ其證據十分ナリトセシテ
 以テ採證法ニ違背シタルモノナリト云フニアリ○依テ案スルニ假令他ノ事件ニ付集取シタル
 證據ナリト雖モ本事件ニ付テモ關係ヲ有シ其證據ニ於テ取調ヲ爲シタルモノナルニ於テハ固

ヨリ本事件ノ證據トスルヲ得ヘキモノニシテ刑事訴訟法ニ所謂證據申ニハ當然之ヲ包含スルモノトス同第三點ハ原判決理由ノ部ニ六月廿七日付金二圓文會堂へ支拂ト記載シタル所爲及ヒ二月廿五日金五十五錢箱代岸清七ト記載シタル内ノ三十錢ニ關スル所爲ハ無罪トシ檢事ノ控訴ノ理由ナキ旨ヲ辯明シタルニ拘ラス其判決主文ニ於テ相當ノ判決ヲ爲サルハ不法ナリト云フニ在リテ○被告ノ上告論旨第五點ト同一ニ歸シ則テ該論旨ニ對シテ說明セシ如ク連續犯ナル一行爲ト認メタルニ依リ特ニ判決ヲ與ヘサリシモノナレハ以テ不法ト云フヲ得ス同第四點ハ原判決理由ニ官報代十圓外一點ノ事實ニ付テハ無罪ヲ言渡スヘキモノトスト云ヒ檢事ノ控訴ノ理由ナキコトヲ認メナカラ其未段ニ至リ檢事ノ控訴ハ其理由アルニ付刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニ則リ主文ノ如ク判決スト云ヒ且其主文ニ於テ檢事ノ控訴ニ係ル部分ヲ悉ク取消シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ本件ハ第一審裁判所カ無罪ノ言渡ヲ爲シタルニ對シテ檢事ヨリ控訴ヲ爲シ第二審裁判所ハ覆審ノ上有罪ト認メタルモノナレハ結局控訴ハ理由アリタルモノト謂フヘシ故ニ控訴ノ旨趣中其不當ノ點アリタルニ拘ラス單ニ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ヲ適用シタルハトテ之カ爲メ不法ト云フヲ得ス又判決主文ニ官報代金及其爲替料ヲ竊取シ因テ村役場ノ帳簿ヲ偽造シタリトノ被告事件ハ無罪トストアリテ判決理由ニ所謂無罪トアルニ適合スルヲ以テ原判決ハ此點ニ付テモ致テ稔瑾アルコトナシ同第五點ハ原院ニ於テ本件ノ辯論ハ明治廿八年六月廿四日ニ結了シタルニ拘ラス翌月三日ニ至リ裁判ヲ言渡シタルハ刑事訴訟法第二百四條第一項ノ規定ニ違背シタルモノナリト云フニ在リ

○然レモ該規定ハ裁外官ニ對スル訓示法ニ屬スルハ故ニ偶々之ニ適合セサル場合アルモ爲ニ裁判ハ無効ナラズヘキモノハニ非ス同第六點ハ原院ハ其判決ノ第三項ノ所爲ヲ以テ監守盜トシテ處斷シタルモ如何ナル法則ニ基キ上告人ニ監守者タル責アリトナスカ其事實理由ヲ明示セサル不法アリト云フニ在リ○然レトモ原院文ニハ村長ノ職務ヲ以テ受領シ同村役場ニ保管シ云々トアリ既ニ職務ヲ以テ保管スト云フ以上ハ其理由既ニ明瞭ナルヲ以テ如何ナル法則ニ依リ職務トナリタルヤノ如キハ固ヨリ之ヲ辯スルヲ要セス故ニ原判決ハ理由ヲ付セサルモノト謂フヲ得ス同第七點ハ小山學校經費トシテ受取タル金圓ヲ竊取シタル所爲ヲ以テ監守盜ナリト斷定シタルトモ該學校ノ公立ナルヤ私立ナルヤ判別セサルカ故ニ監守ノ責アルヤ否ヤチ知ルニ由ナシ然ルニ原院カ直ニ刑法第二百八十九條第二項ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レモ前項ノ如ク職務ヲ以テ保管スヘキモノナリトスル以上ハ該學校ノ公立ナルヤ私立ナルヤノ如キハ固ヨリ之ヲ辯明スルノ要ナシ則チ原院ハ監守ノ責アル者ト認メタル上刑法第二百八十九條第一項ヲ適用シタルモノナレハ竊モ不法ノ點ナシ同第八點ハ原院文ニ明治二十年申土地產帳決算費トシテ村民ヨリ徵集シタル金圓ヲ竊取シタル旨ヲ掲クルモ其當時如何ナル成規ニ基キ徵集シタルヤ判明セスト云フニ在リテ○第六點ノ上告論旨ト同一ニ歸スルヲ以テ重子ヲ辯明シ與ヘス同第九點ハ原院ハ官ノ簿冊ヲ變更シ因テ監守盜ヲ爲シタリト認メタルモノナルヲ以テ刑法第二百八十九條第二項ヲ適用スヘキ答ナルニ之ヲ適用セサルハ不當ナリト云フニ在リ○然レトモ該法ハ官吏自ラ監守スル處ノ金穀ヲ竊取シ因テ官ノ文書ノ増減等

ヲ爲シタルトキハ其文書ハ該官吏ノ管掌スルモノニ非スト雖モ第二百五條ニ依リ管掌スル文書トシテ處斷スト云フニ在リテ管掌以外ノ文書ナルトキニ於テ之ヲ適用スヘキモノナリ而シテ本件ハ其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シタルモノナルヲ以テ該法條ヲ適用スルコトナク直チニ第二百五條ヲ適用シタルモノナレハ則チ當然ノ裁判ナリトス同第十點ハ原判決理由ニ唯法律語ヲ以テ金若干ヲ竊取シタリ若クハ毀消シタリトノミアリテ竊取若クハ毀消ト認ムル所爲其モノヲ說明セス是事實理由ノ明示ナキ不法ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ竊取若クハ毀消ト云フ以上ハ其所爲既ニ明瞭ナルヲ以テ固ヨリ理由ヲ付セサルモノト云フヲ得ス同第十一點ハ原判決第一項以下ニ帳記ヲ爲スニ當リ詐欺ノ增記ヲ爲シトアリテ帳簿ヲ變造シタルモノト認メタルコト明カナリ然レニ法律ヲ適用スルニ當リ簿冊ヲ偽造シタルモノトセシハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ原院ハ終始偽造ト認メタルモノナルコトハ擴張第一論旨ニ對シテ說明セシ所ノ如シ

私訴上告趣意第一點ハ原判決第一條ニ被告カ第一回ノ和解アリトスル事實ハ原告兩村ノ各一部タル三大字ノ總代ト稱スル者ト被告トノ間ニ成立タル約束ヲ指スモノナルコトハ認ムルヲ得ヘキ旨ヲ說明シナカラ町村制ニ從ヒ原告兩村ヲ代表スル能力アルモノノ爲シタル契約ニ非ストシ終ニ原告ノ訴權ハ消滅セスト判決シタルハ不當ナリ何トナレハ本按ハ町村制實施以前ノ所爲ニ原因シ賠償ヲ求メントスルモノナルニ付其被害者ナリト稱スル者ハ町村制ナル法律ニ依リ事後ニ認メラレタル法人カ蒙リタル害ニ非ラスシテ被害ノ當時存在シタル各村即チ町村

制實施以後ノ大字カ被害者タルヘキモノナレハナリト云フニ在リ○依テ案スルニ本件ノ被害者ハ原告兩村ノ一部タル三大字ニノミ限リタルモノナルニ於テハ其三大字ノ代表者ト被告トノ間ニ成リタル契約ノ有効タルヘキハ上告論旨ノ如クナリト雖モ原院ノ認メタル事實ニ依レハ該被害者ヲ以テ原告兩村全部トナシ即チ右三大字ニ止マラサルヲ以テ其全部ヲ代表スル者ノ爲シタル契約ニ非サル上ハ之ヲ無効ナリト判決セシハ相當ナリ同第二點ハ右和解ノ當時被告ハ豐高村長ノ位置ニ在リタルニ付原判決ノ所謂町村制ニ從ヒ該村ヲ代表スル能力アル者カ和解者ノ一方タルヲ得サルハ明白ナル事情ナリトス何トナレハ町村制ニ於テ一村ヲ外部ニ代表スル者ハ獨リ村長ニ止マルコトハ載セテ條文ニ明カナレハナリ然ルニ原院ハ實際上爲シ得ヘカサル事項ヲ以テ被告ノ主張ヲ排斥シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ町村長故障アルトキハ助役ニ於テ代理スヘキモノタルハ町村制ノ規定スル處ナルヲ以テ假令被告カ村長タリシトテ一己ノ資格ヲ以テ町村ト契約ヲ爲シ得サルノ理ナシ故ニ此點ニ付テモ原判決ハ不當ノ廉ナシ右ノ外被告ヨリ辯明擴張書ナルモノヲ提出セシモ本件事實ノ要領ヲ述ヘ參考ニ供スト云フニ過キサルヲ以テ該書面ニ對シテハ別ニ說明ヲ與フルノ要ナシ以上ノ理由ナルヲ以テ本件上告ハ公訴私訴共ニ適法ノ理由ナシ因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○誣告ノ件

明治二十八年第一一九五號
明治二十八年十月二十九日宣告

○判決要旨

第一審判決ハ口頭審理ノ定則ニ背キタル不法アルモ第二審ニ於テ適式ノ公廷
ヲ開キ其判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲シタルトキハ第二審ノ裁判ハ正當
ニシテ間然スヘキナシ從テ上告審ニ至リ再ヒ一審判決ノ批難ヲ試ムルヲ許サ
ス

第一審廷ニ於テ宣誓シタル證人ノ供述ハ其公判ノ續行ニ際シ判事ニ異動ヲ生
シ更新ノ手續ヲ履マサリシ爲メ之ヲ無効トスルヲ得ス

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院
被告人 鷺見廣助 辯護人 米田 實

右廣助カ誣告被告事件ニ付明治二十八年九月二十七日名古屋控訴院ニ於テ岐阜地方裁判所ノ
判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ原判決ハ之ヲ取消ス被告廣助ヲ重禁錮三月附加罰金二
圓ニ處シ押收ノ書類ハ各差出人ニ還付ス云々ト言渡タル第二審ノ判決ヲ不法ナリトシ被告ハ

上告ヲ爲シ原院檢察長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ
履行シ辯護士米田實ノ辯論立會檢察官應當職ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
上告要旨ノ第一點第二審判決中始テ自身ノ誤記ナルコトヲ覺リタルヨリ云々ト掲ケアルモ被
告人ニ於テハ誤記シタルコトナク其當時誤記シタル事ヲ覺リタルノ事實ナシ而シテ第二審判
決ニ證據トシテ採用セラレタル各證據ニ就キ審査スルニ一モ右事實ヲ證スヘキ證據アルコト
ナク原院ハ據ルヘキノ證據ヲクシテ漫然右事實ヲ認メラレタルモノニシテ其認メラレタル事
實ニ對シ證據ヲ明示セサル違法ノ判決ナリト云フニ在レニ○該論旨ハ要スルニ原院カ認メタ
ル事實ヲ然ラスト論議スルニ外ナラスシテ即チ承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スル
ニアルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ同第二點本件第一審廷ニ於ケル第一回ノ開廷ニ列舉セシ判
事ト第二回開廷ニ列舉セシ判事ト異動アリタルニモ拘ラス最初ヨリノ審問ヲ爲サスシテ審理
ヲ續行シ之カ判決ヲ爲シタルハ違法ニシテ從テ第二回開廷ノ際審問シタル證人ノ供述ハ適法
ニ審問セラレタルモノニアラス然ルニ原院カ右不適法ノ證人ノ證言ヲ採テ斷罪ノ證據ニ供シ
タルハ違法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ニ就キ第一審廷ハ第一回及第二回ハ公判始未嘗
テ查閱スルニ該公判中陪席判事ニ異動アリタルモ被告人及辯護人等ノ同意ヲ得テ審理ヲ更
新セズ第一回ハ審理ヲ續行シタルモノハナルコトハ上告論旨ハ如シ去レハ該公判ハ法律ニ所謂
口頭審理ノ規定ニ背キタル違法アルヲ免レズト雖モ第二審公判ハ適式ニ開廷シ審理ノ末第一
審判決ヲ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲シタルモノハナレハ其第一審公判ハ手續上欠式ハ點ア
口頭審理ノ定則ニ背キタル判決○前廷ノ證人

口頭審理ノ定則ニ背キタル判決○前廷ノ證人

リトスルモ適法ニ組成セル第二審廷ノ審判ハ之ヲ違法トセス要スルニ第一審廷ニ於ケル第二
 回ノ公判ハ審理ヲ更新セザル點ニ於テハ違法ナキニアラスト雖モ同廷ニ於テ爲シタル證人ハ
 證言ハ裁判長以下法律ニ規定セル職員列舉ノ上適法ニ陳述セシメタルモハナルヲ以テ原院カ
 其證人ハ證言ヲ採テ斷罪ハ資料ニ供シタルハ違法ニアラス上告趣意擴張辯明書ノ第一第二點
 ハ上告趣意書ノ第一第二點ヲ反駁陳辯スルニ過キササルヲ以テ更ニ說明ヲ與フルヲ要セス采田
 辯護士上告理由擴張書ノ要旨原院ハ第一審ニ於ケル證人岡田市彌篠田勇太郎ノ證言ニ對シ被
 告人ニ辯解ヲナサシメサルニモ拘ラス之ヲ斷罪ノ證據ニ採用セラレタルハ刑事訴訟法第九
 十八條ニ違背セル不法ノ判決ナリト云フニアレトモ○原院公判始末書ヲ閱スルニ其第四節目
 ノ裏面ニ「裁判長ハ(中略)第一審公判始末書云々ヲ指讀シテ被告ニ問如何辯解アラハ申立ヨ答左
 様ノコトハアリマセム」ト記載シアリ而シテ其辯解セシメタル公判始末書中ニ岡田市彌篠田勇
 太郎ヲ證人トシテ詢問シタルノ事蹟アルニ依リ右兩名ノ證言ニ對シテハ被告ニ辯解セシメタ
 ルモノト云ハサルヘカラス因テ原院判決ハ辯護士所論ノ如キ違法アルコトナシ
 以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治二十八年十月二十九日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一〇三三號
明治二十八年十月三十一日宣告

○判決要旨

犯罪ニ因テ得タル證書ノ所有者明確ナル場合ニ於テ沒收ノ言渡ヲ爲シタル裁
 判ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス(判旨第三點)

(參照) 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定
 メタル者ハ各其法律規則ニ從フ「一、法律ニ於テ禁制シタル物件」ニ、犯罪ノ用ニ供シタル物
 件「三、犯罪ニ因テ得タル物件(刑法第四
 十三條)」
 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪
 ニ因テ得タル物件ハ犯罪ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之レヲ沒收スルコトヲ得
 ス(刑法第四
 十四條)

擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ判決ヲ破毀シタルトキハ其事件ヲ
 他ノ裁判所ニ移スコトナク上告裁判所ニ於テ直チニ判決ヲ爲スコシ(刑事訴訟法第
 二百八十七條)

警察署長ニ私訴ノ申立ヲ爲スモ其効ナシ(判旨第五點)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 野水庄吉 辯護人 熊倉 操

右詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年八月三日東京控訴院ニ於テ新潟地方裁判所カ被告ヲ重

犯罪ニ依テ得タル證書○警察署長ニ爲シタル私訴申立

禁錮二年罰金二十圓監視六月ニ處シ公訴費用ハ被告ノ負擔トス犯罪ニ因テ得タル地所賣返シ
 約定證一通ハ之ヲ沒收スト言渡シタル判決ニ對スル被告ノ控訴及ヒ檢事ノ控訴ヲ審理ノ未破
 告野水庄吉ニ對スル原裁判所檢事ノ控訴及ヒ被告ノ控訴ハ共ニ棄却スト言渡シタル第二審判
 決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シ以テ原判決ノ破毀ヲ要求セリ
 大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ
 被告辯護士熊倉操ノ上告趣意原院ハ第一審裁判所カ被告ニ對スル權利讓渡證書騙取ノ所爲ハ
 證據不充分ナリトテ無罪ノ旨渡ヲ爲シタル正當ナリトナシナカラ被告カ告訴人ヨリ注意上
 受取タル地所賣買約定證ハ犯罪ニ因テ得タル物件ナリトシ又告訴人ヨリ示談ノ上受取タル金
 五十四圓ハ騙取シタルモノナリト判決シタルハ理由顯赫ノ裁判ナリ第一審裁判所ハ地所讓渡人
 ハ正當ノ權利者タルヲ認メタリ其故ハ被告カ告訴人ヨリ受取リタル金圓ノ一部ハ地所讓渡人
 ニ受授シ又其一部ヲ其示談取扱人ニ贈與シタルモノニ對シテハ告訴モ告發モナク此金圓ノ受
 授ヲ正當ト認メタレハナリ表面上一切賣買濟トナリ居ルモ地所讓渡ノ當時告訴人ハ明白ナル
 犯罪ナキモ多少ノ非行アルカ爲メ地所讓渡人ニ對シテハ告訴シテハ告訴人ニ於テ金員辨償ノ
 義務アルヲ認諾シテ出金シタルカ故ニ地所讓渡人ノ受取リタル金圓并ニ示談周旋人ノ受ケタ
 ル金圓モ贓金ニアラス然ラハ被告カ告訴人ヨリ此金圓ヲ受授スル際ニ犯罪アルヲ否ヤノ一點
 ハ本案被告事件トナルヤ否ヤ唯一ノ爭點ナリ第一審裁判所ハ地所讓渡人ニ權利ヲ讓渡シタル
 ハ不正ノ行爲ニ非ラス又其證書ヲ詐取シタルモノニ非ラストシナガラ被告カ告訴人ヨリ受

取タル證書并ニ金圓ハ騙取シタルモノナリトハ明カニ裁判ノ理由ニ顯赫アル不法ノ裁判ナリ
 ト云フニ在レトモ○第一審判決文ヲ閱スルニ地所讓渡人ト告訴人トノ間ニ於ケル地所賣買ハ
 認メアルモ告訴人カ地所讓渡人ニ對シ多少ノ非行アルカ爲メ其辨償ノ義務アルコトヲ任意認
 諾シテ出金シタルモノナリトハ認メアラス又被告カ地所讓渡人ニ對スル權利讓渡證書ノ受授
 ナリテ騙取ナリトハ認メスト雖トモ是等ノ事柄ハ被告カ高橋助八及ヒ其長男徳藏ニ對スル詐
 欺取財ノ成立ニ毫モ關係セサルコトハ第一審判決文ノ認ムル事實ヲ見ルニ彼此互ニ獨立シテ成
 立シ得ヘキ場合ナルコト明カナリ然ルヲ以テ第一審判決ハ毫モ事實理由顯赫ノ點アルコトナ
 シ從テ第二審判決ニ於テモ亦々同一事實ヲ認メタルモノナレハ決シテ理由顯赫ノ不法アルコ
 トナシ

上告趣意擴張第一點本按ノ詐欺取財ハ被告カ告訴人高橋助八ノ子タル徳藏ヨリ金圓ヲ騙取シ
 タリト云フニ在リ然レトモ高橋父子ハ此證書ノ性質効力ヲ熟知シ此證書ノ返還ヲ求メタリ而
 シテ被告ト高橋父子ノ間ニ合意成立シ終ニ高橋助八ハ金圓ヲ庄吉ニ與ヘ庄吉ハ證書ヲ助八ニ
 與ヘタルナリ故ニ被告ハ證書騙取罪アリトスルモ金圓騙取ハ全然構成セス之ヲ詐欺取財ノ犯罪
 者ナリトシタルハ擬律ニ錯誤アル裁判ニシテ原院カ數罪俱發ニ問フタルモ不法ナリト云フニ
 在レトモ○原判決文ヲ閱スルニ原院ハ被告ト高橋父子ノ間ニ合意成立シ終ニ高橋助八ハ金圓ヲ
 庄吉ニ與ヘ庄吉ハ證書ヲ助八ニ與ヘタリトハ認メアラス而シテ原院ノ認ムル所ノ事實ニ據レハ
 被告ハ高橋助八ニ對シ恐喝シテ證書ヲ騙取シタルト徳藏ニ對シ欺罔シテ金圓ヲ騙取シタルト

ノ二罪ヲ認メアリ故ニ原判決ハ擬律ノ錯誤ナキハ勿論數罪俱發ニ問フタルハ固ヨリ當然ナリ
 其第二點本案ノ地所賣戻證書ハ犯罪ニ因テ得タル物件タルモ此證書ハ高橋助八ヨリ被告庄吉
 ニ渡シタルモノニシテ其證書ハ高橋助八ノ所有ナリ是ノ如ク所有者明確ナル場合ニ證書ヲ没
 收シタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ案スルニ原外文ニ於テ地所賣戻證書ハ被告ハ高橋助
 八ヨリ騙取シタル事實ヲ認メアルヲ以テ被告ノ所有ニアラス又ハ所有主ナシト云フ可ラス然
 ルハ原院カ之ニ刑法第四十三條第四十四條ヲ適用シテ沒收シタルハ擬律錯誤ハ裁判ニシテ此
 點ハ上告ノ理由アルモハトス

判旨第三點

其第三點原院ハ被告ノ所爲ヲ刑法第三百九十條同法第三百九十四條ニ該當スト判決セラレタ
 レトモ其第三百九十條第一項ヲ適用シタルカ將タ第二項ヲ適用シタルカ又第一項第二項ヲ并
 セテ適用シタルカ甚々不明ナリ是レ法律上ノ理由ヲ明示セサルモノニシテ刑事訴訟法第二百
 三條ニ違背スル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○刑法第三百九十條第二項ハ詐欺取財ニ因
 テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル案件ニ適用スヘキモノニシテ本案ノ如キ單純ノ詐
 欺取財ニ對シ適用シ能ハサルモノナルヲ以テ特ニ之ヲ明示セサルモ固ヨリ其第二項ヲ適用シ
 タルモノニアラサルコト明カナルヲ以テ法律上ノ理由ヲ明示セスト云フヲ得サルモノトス
 其第四點原院ハ高橋助八佐藤熊治耶大港駒吉榎本藤吉高橋平治ノ證言ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供
 シタルモ高橋助八ハ明治二十八年一月十六日民事原告人ニシテ佐藤熊治耶外三人ハ助八ノ親
 族ナリ是レ明カニ刑事訴訟法第二百二十三條ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○

判旨第五點

本案訴訟記録ヲ査閱スルニ明治二十八年一月十六日附テ以テ高橋助八訴訟代理人長野昌秀ヨ
 リ三條警察署長ニ對シ私訴ハ申立ヲ爲シアリト雖トモ固ヨリ此申立ハ正當法衙ニ申立タルモ
 ハニアラサルヲ以テ其効ナキモノトス其他助八ヨリ正當ニ私訴ノ申立ヲ爲シタルコトナク從
 テ裁判所ニ於テモ亦私訴ニ就テノ審判ヲ爲シタルコトナシ而シテ高橋助八ノ證言調書ヲ査閱
 スルニ刑法第二百二十三條ニ抵觸スルコトナキヲ答ヘ以テ宣誓ヲ爲シアルモノナレハ同人カ民
 事原告人ト爲ラサルコト明カナルヲ以テ原院カ高橋助八及ヒ其親族ノ證言ヲ斷罪ノ證據ト爲
 シタルモ決シテ不法ニアラス

右ノ理由ナリシヲ以テ上告趣意及ヒ上告擴張第一點第三點第四點ハ總テ其理由ナシト雖モ擴
 張第二點ハ其理由アルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ照シ原判決中證書
 沒收ノ一部分ヲ破毀シ更ニ判決スルコト左ノ如シ
 第一審判決中犯罪ニ因テ得タル地所賣戻シ約定證一通ハ之ヲ沒收スト旨渡シタル部分ヲ取消
 シ刑事訴訟法第二百二條ニ照シ地所賣戻約定證書一通ハ其所有主高橋助八ニ還付ス
 明治二十八年十月三十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私印盗用私書偽造行使ノ件

明治二十八年第一〇八五號
明治二十八年十月三十一日宣告

○判決要旨

犯罪行為ニ因リ登記ヲ得タル地所ニ對シ其取消ヲ請求スルハ刑事訴訟法第二條ニ所謂犯罪ニ因リ生シタル贓物ノ返還ヲ請求スルト同一ナリトス

(參照) 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス(刑事訴訟法第二條)

第一審 長野地方裁判所松本支部 第二審 東京控訴院
被告人 吉野四郎三郎 辯護人 岡崎正也

明治二十八年八月二十三日東京控訴院ニ於テ右四郎三郎カ私印盗用私書偽造行使被告事件ノ控訴ヲ審理シ第一審判決ヲ取消シ被告ヲ重禁錮十月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス登記願書ヲ偽造行使シタルトノ點ハ無罪押收ニ係ル書類ハ總テ各差出入ニ還付ス私訴控訴ハ其理由ナキニ付之レテ棄却スト旨渡シタル判決ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂ケル處
被告上告第一要旨ハ地所讓與證並ニ其贓本及ヒ登記委任狀ヲ偽造行使シタル所爲ハ共ニ刑法第二百十條第一項云々ニ該當シト判示セラレタレトモ地所讓與證原本ノ贓本ハ證據法上或ル場合ノ外何等ノ効力ナキモノニシテ刑法規定ノ權利義務ニ關スル證書トハ獨立シテ證據力ヲ

有スル證書ヲ指シタルモノニシテ贓本ノ自身ハ權利義務ニ關スル證書ナリト謂フヲ得ス然ルニ原院ハ證書ノ贓本ニ對シ刑法第二百十條第一項ヲ適用シタルハ疑律錯誤ノ判決ナリト云フニ在レトモ○地所讓與ニ付其證書ノ贓本ハ登記上必要ナルモノナリ故ニ其證書並ニ贓本ヲ偽造行使シタルニ於テハ刑法第二百十條一項ノ制裁ハ免カルトコトヲ得ス本件被告カ地所讓與證書並ニ贓本ヲ偽造行使シタルヲ一所爲ト爲シ刑法第二百十條一項第二百十二條ヲ適用處斷シタル原院決ハ相當ニシテ之レヲ疑律錯誤ナリトノ上告ハ其理由ナシ

同第二ハ原院文ヲ閱スルニ再犯ナルニヨリ同法第九十二條ニ依リ各本刑ニ一等ヲ加ヘ云々ト判示セラレタレトモ輕罪ニ於テ本刑ニ加重スル一等等ハ如何ナルモノナルヤ知ルニ由ナク即チ刑法第七十條ノ適用ナキニ依リ法律上ノ理由ヲ闕キタル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院決刑法第九十二條ニ依リ各本刑ニ一等ヲ加ヘタルコトヲ明示シ其範圍内ニ於テ處斷シアル以上ハ同法第七十條ノ總則ヲ揭ケサルヲ以テ法律ノ理由ヲ闕キタルモノトシ原院決ヲ破毀スルノ原由ト爲スニ足ラス

被告カ私訴上告ノ要旨ハ刑事訴訟法ノ損害賠償ハ金錢上ニテ賠償スルモノニシテ契約取消及登記取消ノ如キハ損害賠償中ニ包含セス依テ被告上告人請求ノ如キハ私訴中ニ包含セサルヤ明カナリ然ルニ原院ニ於テ私訴トシテ之ヲ受理判決セラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告上告人カ登記ハ取消ヲ請求スルハ即チ被告カ犯罪行為ニ因リ登記ヲ得タル地所ハ所有權ヲ取戻スニ外ナクハ刑事訴訟法第二條ニ所謂犯罪ニ因リ生シタル贓物ハ返還ヲ請求スルモノ

犯罪行為ニ基ク登記

ハト看做サイル可ラハ然ラハ被上告人カ私訴トシテ登記取消ヲ請求スルハ不當ニアラス因テ之レヲ受理シテ判決ヲ爲シタルハ當然ノコトニ付該上告モ亦其理由ナシ

辯護士岡崎正也カ上告趣意擴張第一要旨ハ原裁判所ニ於テ被告合意アリタリトテ吉野ペンノ豫審調書證人吉野重兵松永啓三郎等ノ調書ヲ朗讀セシムルコトナク又之レヲ被告人ニ示スコトナクシテ證據トシテ引用セラレタルハ刑事訴訟法第二百二十九條第二項ノ手續ニ違背セルノミナラス取調ヲ爲サル證據ヲ引用シタルモノニシテ手續違背ノ不法ヲ免カレサルモノト云フニ在レトモ

○豫審調書ノ朗讀ハ重ニ被告人ヲシテ辯解セシムルカ爲メニスルモノニ付若シ被告人之レ等ノ調書ヲ熟知シ朗讀ノ省畧ニ異議ナク又該調書ニ對シ辯解セシメタルニ於テハ朗讀ノ省畧ヲ爲スモ敢テ違法ト云フヲ得ス本按原公判始末書ヲ閱スルニ被告並ニ辯護人ハ書類ヲ熟知シ居ルカ爲メニ朗讀省畧ニ異存ナク又辯解ヲ爲スヘキコト之レナキカ故ニ辯解ヲ爲サリシコト明カナレハ之レカ朗讀ヲ省畧シタリトテ違法ト云フヲ得サルハ勿論又取調ヲ爲サル證據ヲ引用シタル違法ノ判決ナリト云フヲ得ス因テ該上告モ其理由ナシ

同第二點ハ吉野重兵ハ被告人ノ親戚ナルコトハ原判文ニモ親戚吉野重兵等ニ於テ云々ト判示シ明カニ認メアルニモ拘ハラズ之ヲ證人トシテ取調ヘラレタル不法ノ證人調書ヲ原裁判ニ於テ引用シタルハ不法ナリト云フト雖モ

○吉野重兵ノ豫審調書ヲ看ルニ豫審判事ハ刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係ヲ取調ヘ其抵觸ナキヲ認メ宣誓ノ上證人トシテ取調ヘ而シテ重兵ノ申立申四郎三郎ハ自分ノ隣リテアリ自分ハ同人ノ羽親ト申ス譯ニテ惡意ト云フニハアラサルカ知

テ居リマストアリテ被告ト刑法上ノ親屬ニアラサルコト明カナリ故ニ重兵ヲ證人トシテ取調ヘタル豫審調書ヲ採用シタルハ不法ニアラス

同第三點前段ハ上告第一ノ旨趣ト同一ニ歸シ後段ハ假リニ本件ノ贖本ヲ作成シタルハ私書偽造罪ヲ構成スヘキモノトスルモ如何ナル點ニ於テ被告ハ吉野ペンノ資格ヲ冒シ偽造シタルモノナリヤ事實理由ノ明示ナキハ不法ナリト云フニ在レトモ

○前段ハ被告ノ上告第一ニ對シ既明シタルヲ以テ了解スヘシ其後段ハ原判文ニ吉野ペンヨリ被告ニ宛タル前記地所四筆ノ讓與證書並ニ其贖本及ヒペンヨリ吉野伴七ニ對スル登記委任狀ヲ認メペンノ名下ニハ何レモ竊ニ取出シタル同人ノ實印ヲ押捺シ云々該登記所ニ提出シ其登記ヲ受ケタルモノト認メアリテ贖本偽造ノ事實理由ハ充分示シアルヲ以テ事實理由ノ明示ナキ不法アリトノ上告ハ其理由ナシ

同第四ハ原判決原本ヲ見ルニ其理由第二行目ニ亡父完吉ト記載シタル完ノ字ヲ削除シ定ノ字ヲ挿入シアルニ拘ハラズ右削除挿入ニ付欄外ニ於テ字數ヲ明記セサルハ違法ナリト云フニ在リ

○因テ原判決書ヲ閱スルニ亡父完吉トアル完ノ字ヲ定ト改メ其所ニ認印シ而シテ欄外ニ一字改ト記載アルヲ以テ毫モ法律ニ違背セス因テ該論旨モ上告ノ理由ナシ

同私訴上告擴張ノ旨趣ハ公訴上告趣意擴張書ノ通りナルヲ以テ私訴ノ判決モ從テ破毀相成ヘキモノト思考スト云フニ在レトモ

○公訴上告擴張論旨ハ總テ上告ノ理由ナキコトハ前説明ノ如クナルヲ以テ了解スヘシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ判決スル左ノ如シ

大審院刑事判決録

第四卷

犯罪行為ニ基ク登記

二百二十四

本案公訴私訴上告共之レヲ棄却ス

但上告ニ關スル私訴々訟費用ハ上告人ノ負擔トス

明治二十八年十月三十一日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

大審院刑事判決錄

大審院刑事判決錄 第四卷

○私書偽造行使ノ件 明治二十八年第一二五三號
明治二十八年十一月一日宣告

○判決要旨

私書偽造罪ト私印盗用罪及詐欺取財罪トハ罪質自ラ牽聯シテ互ニ密接ノ關係
ヲ有ス從テ私書偽造罪ニ付公訴ノ提起アリタルトキハ私印盗用罪及詐欺取財
罪モ亦シ其公訴ニ包括セラル、モノトス

第一審 高松地方裁判所 第二審 大阪控訴院
被告人 松原善三郎

明治二十八年十月五日大阪控訴院ニ於テ右善三郎ニ對スル私書偽造行使被告事件公訴私訴ノ
控訴ヲ審理シ第一審公訴判決ハ之ヲ取消ス被告善三郎ヲ私書偽造行使ノ罪ニ付重禁錮二年ニ
處シ罰金二十圓ヲ附加シ監視六月ニ付私印盗用及詐欺取財未遂ノ公訴ハ之ヲ受理セス偽造
筆跡事件ノ公訴

ノ金百五十圓預リ證及利子約定證各一通ハ沒収シ其他押收ノ證據書類ハ各差出人ニ運付ス公
訴裁判費用ハ被告ヲシテ全部負擔セシム云々ト言渡シタル公訴判決ヲ不當トシ原院檢察長林
誠一及被告等三耶ハ各上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ス
ル處

檢察長上告趣意ハ本案私書偽造行使私印盜用詐欺取財未遂ノ三罪ハ性質上相牽聯シ互ニ密着
シテ分離スヘカラサルモノナルヲ以テ私書偽造行使罪ノ起訴中自ラ私印盜用詐欺取財未遂罪
ノ罪ヲ併セテ起訴アリシモノト爲サトルヘカラス然ルニ原院ニ於テ右私印盜用詐欺取財未遂
ノ點ニ付テハ公訴ノ起ラサルモノトシ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リ
○因テ按スルニ私書偽造行使ハ罪ト私印盜用詐欺取財等ハ罪トハ自ラ相牽聯シ互ニ密接ノ關
係ヲ有スルモノナルヲ以テ已ニ私書偽造行使罪ニ付起訴アリタル上ハ事實上之ニ牽聯シタル
私印盜用詐欺取財ノ罪モ自ラ其中ニ包括シテ起訴アリタルモノト爲スヘキニ依リ原院ハ罪ニ
件名ノミニ拘ハリ豫審判事ハ訴ヲ受ケサル私印盜用詐欺取財未遂ハ非現行犯事件ヲ公判ニ付
シ原院判所ニ於テモ別ニ附帶犯ノ手續ヲ爲サス豫審終結決定ニ依リ之ヲ受理審判セシハ不法
ナリトハ理由ヲ以テ右二罪ニ付公訴不受理ハ判決ヲ爲シタルハ不當ニシテ本上告ハ理由アル
モノトス已ニ此點ニ付原判決全部破毀スヘキモノト認ムルヲ以テ被告ノ上告論旨ニ付テハ一
々說明スルノ要ナシ因テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件公訴判決全部ヲ破毀シ廣島控訴院ニ移ス

明治二十八年十一月一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察官安居修藏立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十八年第九七三號
明治二十八年十一月四日宣告

○判決要旨

郵便書狀ヲ開封シテ小爲替證書ヲ竊取シタル後其證書ニ受取人ノ宿所氏名ヲ
記入シ郵便局ニ提出シテ金員ヲ受領セントシタル所爲ハ私書偽造行使詐欺取
財未遂罪ヲ成立セス

甲者小爲替證書ヲ竊取シタル後乙者其情ヲ知り共謀シテ金圓取得ニ必須ナル
方法ヲ行ヒタル所爲ハ事後ノ從犯ナリトス
事後ノ從犯ハ法律上之ヲ罰スヘキ正條ナシ

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 鈴木徳次郎 辯護人 三谷退藏

右私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年七月五日東京控訴院ニ於テ東京地方裁判
所ノ判決ニ對スル檢察官工藤則勝ノ控訴ヲ審理ノ末原判決ヲ取消ス被告徳次郎ヲ重禁錮四月ニ

小爲替ノ竊取及行使未遂○事後ノ從犯

小爲替ノ竊取及行使未遂○事後ノ從犯

處シ罰金四圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス押收品中小印一個ハ沒收シ其他ハ各差出人ニ還付ス公
訴費用金二圓ハ被告豐次郎德次郎連帶ノ負擔トスト言渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告ヨ
リ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ
被告ノ上告趣意書及ヒ辯護士三谷退藏ノ上告趣意擴張書第一點ノ要旨原院ノ認メタル事實ニ
依レハ被告カ私書偽造行使詐欺取財未遂ノ所爲ハ相被告田中豐次郎ガ郵便書狀ヲ開封シ其中
ニアリシ小爲替證一枚ヲ竊取シタル其結果ナレハ私書偽造行使詐欺取財未遂罪ヲ以テ論ス可
キモノニアラス而シテ被告ハ其小爲替證竊取ニ就テハ全ク豐次郎ト共謀シタル事實ナキ上ハ
被告ノ所爲ハ事後ノ從犯ニシテ法律上罰スヘキ正條ナキヲ以テ決シテ罪トナラサルモノトス
然ルニ原院ニ於テハ被告ニ對シ刑法第二百十條第一項第二百十二條第三百九十條第三百九十
四條第三百九十七條及ヒ第三百九十二條第三百九十九條第二項ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ
法律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ○因テ原院文ヲ查閱スルニ相被告田中豐次郎ハ集配人勤務
中鹽地ロシヨリ水戸源太郎ヘ送ルヘキ郵便書狀ヲ開封シ其中ニアリシ金額一圓ノ小爲替證一
枚ヲ竊取シ被告德次郎ニ該小爲替證ヲ示シ竊取ノ情ヲ明カシ其金額ヲ郵便局ヨリ詐取センコ
トヲ德次郎ト共謀シ豐次郎ハ其小爲替證ノ喪失ヘ水戸源太郎ノ宿所氏名ヲ記入シ日本橋區通
町ノ露店ニテ水戸ト彫刻シタル小印ヲ買求メ之ヲ氏名ノ下ニ押捺シ德次郎ハ其小印ト爲替證
トナシ博ヘ深川郵便局ニ到リ水戸源太郎ナリト詐稱シ同局員ヲ欺キ小爲替證ヲ提出シテ金一圓

ヲ騙取セント爲シタルニ其源太郎ニアラサルコトヲ發見セラレ其目的ヲ遂ケサリシ者ナリト
ノ事實ヲ認メアリ此事實ニ依レハ被告德次郎カ相被告豐次郎ト共謀シテ其小爲替證ニ水戸源
太郎ノ宿所氏名ヲ記入シ水戸ト彫刻シタル小印ヲ買取テ之ヲ其名下ニ押捺シ郵便局ヲ欺キ
其小爲替證ヲ以テ金圓ヲ交付セシメントシタル所爲ハ私書偽造行使詐欺取財未遂罪ヲ以テ論
スヘキ者ニアラス何トナレハ相被告豐次郎カ該小爲替證ヲ竊取シタルハ全ク其金額ヲ得ルカ
爲メナリ而シテ被告豐次郎ト共謀シタル所爲ハ其竊取シタル小爲替證ノ金圓ヲ得ルニ必須ハ
方法ニシテ金カ事後ハ從犯ニ外ナラサルモノナレハ法律上之ヲ罰スヘキ正條ナレハナリ然
ルニ原院ニ於テ被告ニ對シ私書偽造行使詐欺取財未遂罪トシ之ニ對スル各法條ヲ適用シテ處
斷シタルハ法律錯誤ハ裁判ニシテ上告ハ其理由アルモノトス辯護士ノ上告趣意擴張第二點ノ
論旨ハ公訴費用負擔ノ判決ニ對スル論告ナレトモ已ニ前點ニ於テ説明セル如ク原院判決ヲ破毀
スヘキモノタルヲ以テ特ニ之レカ説明ヲ要セス

辯護士三谷退藏カ上告趣意擴張第三點ハ明治二十八年七月三日公判始末書ヲ閱スルニ裁判長
及ヒ裁判所書記ノ署名捺印ナク且年月日及ヒ官署ノ捺印ナキヲ以テ刑事訴訟法第二十條第二
百十條ノ規定ニ違背シタルヲ以テ無効タルヲ免レンス從テ原院判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ
○原院ノ公判始末書ヲ查閱スルニ明治二十八年七月三日ト同月五日トノ分ヲ合シテ一ノ公判
始末書ヲ作りタルモノニシテ其三日ノ分ト五日ノ分トニ契印アリ而シテ其最終ニ於テ裁判長
及ヒ裁判所書記ノ署名捺印アリ且年月日ノ記載アリ官廳ノ印モ亦押捺シアルヲ以テ毫モ違法

小爲替ノ竊取及行使未遂○事後ノ從犯

ノ點アルコトナシ故ニ此點ノ上告ハ其理由ナキモノトス
以上說明セシ如ク擴張論旨第三點ハ其理由ナキモ被告ノ上告趣意及ヒ擴張第一點ハ其理由アルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ照シ原判決中被告德次郎ニ對スル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

鈴木德次郎

原判決ノ認メタル被告ノ所爲ハ即トナラサルヲ以テ刑事訴訟法第二百二十四條ニ照シ無罪以上ノ如ク被告德次郎カ利益ノ爲メ原判決ヲ破毀シタルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十九條第二項ニ依リ其共同被告タル田中豐次郎カ原判決文第三ノ所爲中其私書偽造行使詐欺取財未遂ノ部分及ヒ其公訴費用ニ對スル原判決ヲ破毀シ直チニ判決スルコト左ノ如シ

田中豐次郎

右豐次郎カ原判決文第三ノ所爲中私書偽造行使詐欺取財未遂ノ點ハ即トナラサルヲ以テ刑事訴訟法第二百二十四條ニ照シ無罪

明治二十八年十一月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事若野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第九八七號
明治二十八年十一月四日宣告

○判決要旨

被害ノ物體ハ不正ノ占有ニ係ルモ欺罔恐喝ノ手段ヲ以テ之ヲ騙取シタルトキハ當然詐欺取財罪ヲ構成ス而シテ此場合ニ於ケル被害者ハ不正ノ占有者ニアラズシテ眞實ノ所有者ナリトス(判旨第一點)

(參照) 入テ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第三百九十九條第一項)
捺印ニハ押印ヲ包含ス(判旨第十一點)

還付ノ言渡ハ刑ノ言渡ニ非サルヲ以テ特ニ法律ノ正條ヲ明示スルノ必要ナシ(判旨第十五點)

訴訟印紙ハ一定ノ價格ヲ有スル財物ナリ(判旨第二十一點)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 羽島米吉 辯護人 平井恒之助
岩上照雄 高橋庄太郎
山崎 高橋庄太郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年七月八日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴并ニ原院檢事ノ

不正物ノ詐欺○押印○還付ノ言渡○訴訟印紙

附押送訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ更ニ被告三名ヲ各重禁錮二年罰金十五圓監禁六月ニ處シ押収セル訴訟用一圓印紙二千四百四枚ハ茨城縣廳へ信書五通書面一通ハ被告照雄へ丸額一面ハ被告米吉へ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢察長ハ答辭書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告岩上照雄上告趣旨ノ第一ハ刑法ニ規定セル財産ニ對スル罪トハ財産自身ヲ指稱スルニ非スシテ財産所有ノ權利者ニ對スルモノナリ故ニ何等ノ權利義務ヲ有セサル角田唯吉ニ對スル詐欺取財罪ノ構成スヘキモノニアラスト云ヒ第二ハ不正ノ被害者ハ法律上保護スヘキモノニアラス故ニ贓物寄藏ノ犯人ニ於テ該贓品ヲ騙取セラルルモ不正ノ被害者ナルヲ以テ之ニ對シ法律ノ保護ヲ與フヘキモノニアラスト云ヒ第三ハ本件騙取ノ物件ハ贓品ナルヲ以テ贓物ニ關スル罪ノ外決シテ成立スルヲ得ヘキモノニ非ス換言セハ不正ノ被害者角田唯吉ニ對スル罪ノ構成スヘキモノニ非スシテ眞ノ所有權者タル茨城縣廳ニ對スル罪即チ贓物ニ關スル刑律ヲ擬スルノ外アルヘカラスト云ヒ第四ハ原院ハ現ニ贓物ノ所有權者タル茨城縣廳ヲ被害者ナリトシ選付ノ言渡ヲ爲シタルニ拘ハラズ贓物ノ角田唯吉ニ對スル詐欺取財罪ノ成立ヲ認メタルハ疑律錯誤ナリト云フニ在レト

○刑法第三百九十條ハ自己ハ所有ニアラザル財産ニ對シ人ヲ欺罔又ハ恐喝シテ之ヲ騙取シタルモノハ罰スル律意ナレハ其財産ニシテ假令不正ノ占有ニ係ルモノハト雖トモ欺罔恐喝ハ手

段ヲ用ヒ之ヲ騙取シタルハ上ハ犯罪ノ構成上毫モ影響ヲ及ボスヘキモノニアラス何トナレハ其財産ハ外形上欺罔又ハ恐喝セラルルモノハ占有内ニアルモ其所有ハ實權ニ至テハ依然正當ハ所有者ニ存シ民法上被害者ト名クヘキモノハ其所有者ニ外ナラサルナリ且ツ同條ハ被害者其モノハ詐欺又ハ恐喝スル場合ハミニ限定セラレタル律意ニアラザレハナリ今ヤ本件ニ於テ被告ハ欺罔セシハ角田唯吉ナルモ被告ハ依然茨城縣廳ニシテ被告カ何人ニ對シ加害ノ行為アリシト云ハハ其被害者ハ角田唯吉ニアラスシテ即チ茨城縣廳ニ對スル加害行為アリシモノト論斷セサルヲ得ニ故ニ原院ニ於テモ被告ハ欺罔セシモノハ角田唯吉ト認メシモ其印紙ハ榊谷伸造カ茨城縣廳ヨリ窃取シ來リタル情ヲ知り唯吉カ故買シタルモノニ係ルコトヲ明示シ尙ホ判決ハ主文ニ於テ茨城縣廳ヲ被害者トシテ贓物還給ノ言渡シヲ爲シタルハ前項ハ律意ニ基キタルコト知ルヘキナリ然ルカ故ニ原院ニ於テ被告ノ所爲ヲ詐欺取財罪ト認メ判決ヲ與ヘタルハ相當ノ判決ニシテ毫モ非難スヘキモノナシ

岩上照雄上告趣旨擴張書ノ第一點其一ハ被告ハ犯罪ノ實行ニ着手セサルニモ拘ハラズ輒シテ正犯ト疑スル不法アルノミナラス又正犯タル法律ノ正條ヲモ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レト

○犯罪共謀ノ事實アル上ハ分身一體各其分擔ノ事ニ從事セシモノナレハ共謀者全體ヲ正犯ト爲スヘキモノトス又正犯ノ事實ヲ認メアレハ總則タル正犯ノ法條ヲ適用セサルモ不法ニアラス其ニハ原判決ハ目的物ノ受授ヲ以テ犯罪ノ成立ヲ認メタルニアラスシテ詐謀ヲ謀ヘテ返却セサルノ點ニ於テ處罰シタルモノナルコトハ原判決上明瞭ナリトス既ニ然レハ之ニ

携ハリタル人々ノ外決シテ罪トシテ論擬スヘカラサルヤ辯テ峻ダス然リ而シテ被告ハ是等ノ事實ニ關係ナキコト判旨自ラ明認スルニモ拘ハラス有罪視シタルハ不法ナリ加之如斯附托物件ニ對シ抛棄シタリト詐告シ最終ノ處分權ヲ執行シタルモノナレハ正ニ刑法第三百九十五條末項ニ則ラサルヘカサルニ單ニ第三百九十九條ヲ適用シタルハ疑律錯誤ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原判文ヲ查閱スルニ角田唯吉カ有本留吉ヘ犯罪ノ目的物即チ訴訟用一圓印紙ヲ交付セシトキヲ以テ犯罪成立ヲ認メタルコトハ該判文ヲ通讀セハ其意義自カラ明瞭ナリトス而シテ其以下ノ事實ハ犯罪成立以後ノ事實ヲ詳叙シタルニ過キスシテ文字上或ハ妥當ナラサル處アリトスルモ爲メニ犯罪ノ成立ヲ認メタル事實ニ瑕疵ヲ生セサレハ被告ハ假令詐謀ヲ構ヘテ返却セサルノ點ニ付關係アラサリシトスルモ被告ノ利害ニ影響ナシ從テ疑律錯誤ノ論點ニ對シ說明ヲ與フルノ要ナシ○第二點ノ其一ハ原判文中「巡查ノ爲メ發見セラレシコトヲ恐ル」餘リ云々トアルニ依レハ恐喝取財タルヘク其後段眞ニ保護シ吳ル、モノト信シ云々トアルニ依レハ詐欺取財タラサルヘカラスシテ理由阻斷アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ閱スルニ「巡查ノ爲メ發見セラレシコトヲ恐ル」餘リトアルハ犯罪直接ノ關係アルニアラスシテ角田唯吉カ印紙ヲ交付スルニ至リタルハ畢竟留吉ノ合圖ヲ受ケ眞ニ保護シ吳ル、モノト信シタルニ基因セシモノナレハ之ヲ以テ理由阻斷ノ判決ト云フヲ得ス○其二ハ留吉ト唯吉トノ間ニ如何ナル合圖アリシモノナルヤ其合圖ノ方法ヲ明示セサルハ理由不備ナリト云フニアレトモ○原判文中「留吉ハ密ニ唯吉ノ腰帶ヲ突キ云々トアリテ其方法ヲ明示シアレハ理由ノ不備ア

レコトナシ」第三點ノ其一ハ原判文中「印紙ヲ持去リ保護シ遺ルヘシト」ノ意ヲ通シトアルモ斯ル事實ハ一件記録中ニナシト云ヒ其二ハ原判決ニ依レハ被告等ハ唯吉ヲ詐稱誘導シテ日吉亭ヘ至ラシメタル如クナレトモ如斯事實ハ證據中曾テアラサリシト云フニ在レトモ○右論旨ハ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサル者ナリ○第四點ノ其一ハ原院ハ青木團次カ贓物寄藏事件ノ豫審記録ヲ犯罪ノ證據トセラレシモ同人ハ第一審ニ於テ被告ヨリ贓物寄藏ノ事實ナシトシテ無罪ノ言渡シテ受ケタルモノナリ然レハ被告ト同人トノ間ニ於テ贓物授受ノ事實ナキコトハ確定シタルモノナルニ其豫審記録ヲ探テ斷罪ノ證トセシハ不法ナリト云フニ在レトモ○本件ハ被告ト青木團次トノ間ニ贓物ノ授受アリタルコトヲ判決シタル者ニアラス而シテ同人ノ豫審記録中本件ノ證據ト爲スヘキモノアリテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルモノナレハ要スルニ右論旨ハ原承審官ノ職權ニ存スル證據ノ取捨ヲ批難スルニ過キサルモノナリ○其二ハ青木事件ノ鑑定書ヲ本件斷罪ノ具トセラレシモ其鑑定人等ハ本件ニ付宣誓セサルモノナレハ之ヲ採用セシハ不法ナリト云フニアレトモ○原院力之ヲ採用セシハ本件ニ付テノ鑑定書トシテ採用シタルモノニアラス故ニ原判決ニ於テ青木團次寄藏事件ノ字ヲ冠ラシメ之ヲ本件ノ鑑定書ト別異シアレハ上告論旨ノ如キ不法ノ探證ニアラス○第五點ノ其一ハ原院ニ於テ瀧川證太郎ナルモノハ調書ヲ證據トセラレシモ如斯モノハ何等ノ訊問ヲ受ケタルコトナシト云フニ在レトモ○原判決ニハ瀧川證太郎トアリテ證太郎ナルモノハ調書ヲ證據ニ採用シタル跡ナシ○其二ハ原院ハ包紙ニ葉ヲ證據トセラレシモ如斯包紙ハ曾テ被告ニ明示セラレサルノミ

ナラス決シテ存在スヘカラサルモノト云フニ在レトモ○原告判始未書ニ證據書類物件及ヒ訴訟印紙等悉皆ヲ各被告ニ示シ云々トアレハ之ヲ被告ヘ示シタリト認ムルノ外ナシ故ニ右論旨ハ相立ス第六點ノ其一ハ原院カ採用シタル有本留吉及ヒ泉名米作ノ豫審第一回調書ノ終リニ署名捺印セリトアルモ其名下ヲ見ルニ捺印ニアラスシテ捺印ナリ是レ違法ノ調書ナリト云ヒ其其二ハ右同人等ノ豫審第二回以下ノ調書ハ何レモ場所ヲ記載セサル不法ノモノナリト云ヒ其三ハ青木國次被告事件ノ調書ノ契印ニ書記一己人ノ小印ヲ用ヒアルハ違法ナリト云フニ在レトモ○法律上捺印トアルハ捺印モ包含セシモハナレハ捺印スヘキ場合ニ捺印アレハ殊更ニ之ヲ別記スルハ要ナシ又調書中東京地方裁判所書記某豫審判事某トアレハ同裁判所ニ於テ之ヲ作製シタルトヲ認ムルヲ得ヘシ又調書ノ契印ハ認印ヲ捺捺スルヲ以テ足レリトス故ニ官吏ノ職務印ヲ以テセサルモ違法ニアラス第七點ハ原告判決ハ斷罪ノ證據トシテ黒川本太郎角田唯吉ノ豫審調書及ヒ印紙千三百三十四枚ヲ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシメサルハ不法ナリト云フニアレトモ○右ハ第五點其二ノ說明ニ依リ了解スヘシ第八點ハ原告判決ハ印紙九百枚ハ被告カ犯罪ニ因リ得タル物件ト認メ刑法第四十八條ニ依リ處分セラレシモ被告カ在獄中何人ナルカ知ルヘカラサルモノヨリ檢事局ヘ郵送シタル贓物ナルノミナラス犯罪ニヨリ得タルモノト認ムルノ理由ヲモ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○犯罪ニ因リ得タル物件ニシテ其贓物カ犯人ノ手ニ現存セシ上ハ被告ヨリ之ヲ押収セシト否トニ關セズ刑法第四十八條ニ依リ之ヲ處分セシハ相當ナリトス又原告文中被告カ犯罪ニヨリ得タルモノト認メアレハ其認定ノ理由ヲ

判旨第十一

判旨第十五

明示スルノ要ナシ其第九點ノ其一ハ原告判決ハ贓物ヲ還付スルニ該リ單ニ刑法第四十八條ヲ用セラレシモ該條ハ二様ノ場合ヲ規定シアリテ何レノ規定ヲ適用セシカ視知スル能ハサルノミナラス本件ノ被害者ハ角田唯吉ナルニ茨城縣廳ヘ還付セラレシハ違法ナリト云フニ在レトモ○原告判決法律適用ノ部ニ於テ現在セシ印紙云々ト明示シアレハ該條ノ後段ヲ適用シタルコトヲ知得スヘシ後段ハ上告趣旨第一乃至第四ノ說明ニ依リ了解スヘシ第二ハ原院ハ信書々面等ヲ還付スルニ該リ刑法第四十八條ヲ適用セシハ不法ナリ若シ又差出人ニ還付スト枉テ解セシカ其法律ヲ明示セサルノ不法アルヲ免カレスト云フニ在レトモ○原告文ヲ閱スルニ刑法ヲ適用シタルハ贓物ノ還付ニ付テ適用シタルモノニシテ信書等ハ各差出人ヘ還付シタルモノナリ而シテ還付ハ言渡ハ刑ハ言渡シニアラサルヲ以テ法律ハ正條ヲ適用セサルモ不法ト云フチ得ス第十點ハ原告判決主文ヲ見レハ印紙二千四百四枚ハ茨城縣廳ヘ還付ストアリト云ヘトモ證據指示ノ部及ヒ還付ノ理由中ニハ千三百三十四枚トアリテ主文ト理由ト相抵觸セシモノハ蓋シ共犯者有本留吉平野甚右衛門ニ對スル贓物ヲ併セ主文ニ掲ケタルモノナランモ右兩名ニ對スル贓物ノ如キハ業已ニ第一審ニ於テ還付ノ言渡シヲ爲シ該判決確定シテ動カス可カラサルモノナルニモ拘ハラズ此確定判決ヲ擅ニ動カシ被告三名ノ贓物ニアラサル物件ヲ被告ニ對シ裁判ヲ與ヘ主文ト理由ト相副ハサルニ至リタルハ不法ノ判決ト確信スト云フニ在レトモ○原告證據指示ノ部ニアル印紙ハ證據ト爲シタル員數ヲ示シタルモノニシテ其還付ノ理由中ニハ二千四百四枚トアリテ被告言フ如キ員數ニアラザルハ主文ト理由ト抵觸アルヲ見ス而シテ

有本留吉外一名ノ贓物還付ノ點ニ付テハ被告ノ受ケタル判決ニアラサレハ之ヲ以テ被告ノ上告理由ト爲スヲ得ス

岩上照雄上告趣旨擴張ノ追加第一ハ原判決ハ青木團次ノ贓物寄藏事件ノ記録ヲ斷罪ノ證トセラレシモ團次ニ對シ檢事ヨリ起訴シタル形跡ナシ然ラハ則該記録ハ法律上無効ナリト云フニ在レトモ青木團次ニ對シ明治二十六年十二月十八日東京地方裁判所檢事森順正ヨリ贓物寄藏ノ訴名ヲ以テ同裁判所豫審判事ハ豫審請求ヲ爲シタルコトハ一件記録ニ依リ明カナレハ右論旨ハ相立タス』其二ハ有本留吉平野甚右衛門ノ贓物ハ千七十枚ニアラスシテ合計九百二枚ニ過キス然ルニ原院ハ記録ニ反シ千七十枚ト列示セシハ不法ナリト云フニ在レトモ事實ノ認定ハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ他ヨリ容喙スルヲ得ヘキモノニアラス
被告羽鳥米吉上告趣旨ノ要ハ被告ハ唯正當賣買ノ周旋ヲ爲サントシテ偶然ニモ印紙カ自己ノ懐ニ入りシヨリ惡意ヲ生シ之ヲ埋没セシムルニ至リシモノナレトモ此所爲タル刑法上罪トシテ罰スヘキモノニアラス假リニ之ヲ恐喝取財トスルモ刑法第三百九十條ニ云フ財物トハ正當ノモノヲ指スモノニシテ不正ノモノヲ指スニアラス即チ法律ハ不正ノ被害者ヲ保護スヘキモノニアラス前額ノ理由ナルニ原院カ被告ニ有罪ノ判決ヲ與ヘシハ不法ナリト云フニ在レトモ
○前段ハ原院認定以外ノ事實ヲ掲出シテ原判決ヲ非難スルモノニシテ固ヨリ適法上告ノ理由ナシ後段ハ岩上照雄上告趣旨第一乃至第四ノ說明ニ依リ了解スヘシ同人ノ上告趣旨擴張書ハ相被告兩名ノ上告趣意書ヲ以テ自分ノ擴張書トシテ審判アリタシト云フニアレハ○相被告兩

名ノ趣意書ニ對スル說明ニ依リ了解スヘシ

被告猪谷秀麿上告趣旨ノ要ハ木件被害ノ位置ニ立ツヘキモノハ角田唯吉ニ外ナラサルヘキモ唯吉カ所持セシ訴訟用印紙ハ不正ニ占有シタルモノニシテ其占有ヲ失ヒシトテ法律ノ保護スヘキ正當權利ノ上ニ於テハ何等ノ影響アラサレハ唯吉ハ決シテ本案ニ對スル被害者ト稱シ得ヘキモノニアラス故ニ本案ハ被害者ナキ一種ノ不正行爲タルニ過キサレハ刑法上何等ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス刑法第三百九十條ノ律意ヲ按スルニ蓋シ本條ノ設ケアル所以ノモノ他ナシ欺罔恫喝等不正ノ手段ニ依リ他人カ正當ニ有スル財產ヲ騙取シタルモノヲ責罰スルモノニシテ本案印紙ノ如キ現ニ所持者ノ權利ニ屬セサルモノ即チ犯罪ノ目的タルコトヲ得ヘキ法律上ノ能力ヲ失ヒタル物件ハ固ヨリ本案ノ財物ニ恰當スヘキモノニアラサルヲ以テ隨テ本案ノ如キ所爲ニ至テハ決シテ本條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス又更ニ他ノ點ヨリ之ヲ觀察スレハ凡ソ印紙ナルモノハ政府カ徵稅方法ノ一手段トシテ發行スル所ノモノナレハ其性質タル舉口徵稅切符ニ類屬スヘキモ紙幣若クハ公債證書ノ如キモノトハ全ク其性質ヲ異ニスルモノニシテ法律上財產タル性質ヲ有スルモノニアラス然ラハ則刑法第三百九十條ノ財物ナル法語カ斯ノ如キ物體ヲ包含セサルコトモ亦自カラ明ラカナルヲ以テ此點ヨリ論スルモ本案カ犯罪構成上ノ一大要素ヲ具備セサルモノタルヤ言ヲ俟タス然ルニ原院カ無罪ノ事實ヲ認メタルニ拘ハラズ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ擬律ノ錯誤ヲ以テ法律ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナリト云フ尙上告趣意第二回擴張辯明書ヲ以テ前段ノ趣旨ヲ敷衍セリ○然レモ前段趣旨ノ要ス

判例第二十

ルニ岩上照雄上告趣旨第一乃至第三ノ趣旨ト同一ニ歸着スルヲ以テ右說明ニ譲リ爰ニ再説セ
 ス其後段印紙ナルモノハ有價證券ト同視スヘカヲサルモノナルモ一定ノ價額ヲ有スルモノナ
 ハハ財物タルニ外ナラサルナリ故ニ之ヲ騙取シタルモノハ對シ刑法上ハ貴罰ヲ受ケシムヘキ
 ハ旨ヲ喚カサルナリ精谷秀麿上告趣意擴張辯明書第一ノ要ハ原院カ判示ノ事實ニ依リ觀察ス
 ルニ本案ノ事實ハ決シテ欺罔恐喝ノ手段アルコトナシ米作カ御用ト稱シ唯吉ヲ警察署ヘ引致
 シ且ツ之ヲ容易ク放免シタル如キハ彼レカ職務上ノ失體ト云フニ過キヌ又唯吉カ印紙ヲ交付
 シタル如キハ自己ノ身ニ危難ノ迫ルヲ避ケン爲メ之ヲ交付シ以テ罪證ノ湮滅ヲ謀リタルニ過
 キヌ只タ留吉カ印紙ヲ匣中ヘ投シタリト云フハ欺騙ニ相違ナキモ個ハ事後ノ所爲ニシテ犯罪
 ノ要素ト爲ス可カラヌ夫レ如斯原院カ認メテ以テ犯罪ノ所爲トセラレタル所ノ事實ニシテ已
 ニ之ヲ詐欺取財ト云フヘカヲサル上ハ結局被告ハ刑法上何等ノ責任ヲモ負フヘキモノニアラ
 スト云ヒ第二ハ原院判示ノ事實ニ依レハ被告ノ所爲ハ犯罪着手前或ル事實ニ關係シタルノミ
 ニシテ欺罔騙取ノ所爲ニ加功シタルコトナシ故ニ本案ノ事實ヲシテ假リニ罪責アルモノトス
 ルモ被告ハ全然無責任ノ位置ニアルモノナリト云ヒ尙ホ上告趣意第二回擴張辯明書ヲ以テ第
 一第二ノ趣旨ヲ敷衍セリ○然レトモ第一ノ論旨ニ基キ原院判文ヲ查閱スルニ被告等カ欺罔ノ手
 段ヲ用ヒ角田唯吉ヨリ印紙ヲ騙取シタル事實ヲ明確ニ掲載シアレハ原院判決カ本件ノ事實ヲ犯
 罪行爲トナシ處罰シタルハ決シテ不法ニアラス第二ノ論旨ハ岩上照雄趣意擴張辯明書第一點其一
 ノ趣旨ト同一ニ歸スルヲ以テ其說明ニ依リ了解スヘシ第三ハ原院判決ハ交付ノ事實ヲ以テ犯罪

成立ノトキト爲ス如クナレトモ此段落ニ於テ何等ノ斷案ヲ下スコトナク其下文ニ至リ匣中ニ
 投棄シタル旨申訴リ遂ニ其騙取ノ目的ヲ達ケ云々ト斷案ヲ下セシヲ見レハ茲ニ始テ犯罪タル
 所爲ヲ遂行シタルモノト判定シタルコト明カナリ然ラハ則原院判決ハ犯罪タル事實ト犯罪成立
 ノ時期トニ關シ前後全ク認定ヲ異ニセリト云ヒ第四ハ果シテ原院判決ノ末段ヲ以テ犯罪成立ノ
 トキトモハ其場所及年月日時ヲ明示セサルヘカヲサルニ之カ明示ヲ闕キタルハ理由不備ナリ
 ト云フニ在レトモ○右論旨ハ岩上照雄擴張辯明書第一點其二ノ說明ニ依リ了解スヘシ第五ハ留吉
 カ途中ニ於テ唯吉ヨリ物件ノ交付ヲ受ケタルヲ以テ犯罪成立ノ時トセン乎其交付ヲ受ケタル
 物件即チ訴訟用一圓印紙在中ノ風呂敷包并ニ革包各一個ハ共ニ之ヲ騙取シタルモノト云ハサ
 ル可カラス然ルニ原院カ匣中ヘ投棄シタリト欺罔シ以テ印紙ノミノ騙取ヲ遂行シタルモノト
 判定シタルヨリ見レハ其印紙ノミヲ騙取シタリト判示セシハ致テ不當ナラサルニ似タリ之ヲ
 要スルニ原院ニ於テ留吉カ物件ノ交付ヲ受ケタル所爲ニ對シ何等法律上ノ理由ヲ付セス且其
 風呂敷等ノ結果ニ對スル判示ヲ缺キタル爲メ終ニ其判旨ノ何レニアルヤヲ知り難カラシメタ
 ルモノナリ故ニ此點ニ付テモ亦タ理由不備ナリト云フニ在レトモ○此論旨ハ畢竟スルニ原院
 文ニ依レハ犯罪成立ノトキハ何レニアルカ其判旨分明ナラヌト云フニ歸着スルモノ、如クナ
 レトモ右ハ岩上照雄擴張辯明書第一點其二ノ說明ニ依リ了解スヘシ第六ハ原院ニ於テ被告ヲ正犯
 トシテ問擬セラレシモ被告カ正犯タルノ理由ヲ說明セサリシハ理由不備ナリト云フニアルモ
 ○照雄擴張辯明書第一點其一ノ說明ニ譲リ爰ニ再説セヌ第七ハ騙取シタル印紙ノ數額ヲ明示セサ
 不正物ノ詐欺○押印○選付ノ旨渡○訴訟印紙

ルハ不法ナリト云フニアレトモ○原判文事實理由ノ始メニ於テ「訴訟用一圓印紙三千三百五十枚ヲ騙取云々」トアレハ其數額ハ明示ナシト云フヲ得ス「第八ハ被告等カ豫謀シテ本太郎等ヲ日吉亭へ誑誘シタルモノ、如ク列示セラレシモ如斯ノ事實ハ證據ニ依ラサル越權ノ處置ナリト云フニ在レトモ○事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ存スルモノナレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スチ許サス」第九ハ茨城縣廳ハ被害者ニアラサルニ印紙ヲ選付セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○茨城縣廳ノ本案被害者タルコトハ上文ノ説明ニ依リ了解スヘシ「第十ハ密書數通ノ選付ナキハ不法ナリト云フニ在レトモ○押収ノ書類ニシテ選付ナキ場合ハ何時ニテモ之カ選付ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノナレハ其選付ノ言渡ナシトテ上告ノ理由ト爲スチ得ス」第十一ハ第二審ノ公判手續ニ付テハ當然刑事訴訟法第二百五十八條第一項及ヒ第二百三十六條ノ法規ニ則ルヘキモノナルニ原公判ノ場合ニ於テ立會檢事ハ曾テ被告事件ヲ陳述シタルコトナシ而シテ裁判長ハ直チニ進テ第二百十九條ノ手續ヲ履行シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告人ノ控訴ノ場合ニ於テ控訴者タル被告人ヨリ控訴ノ理由ヲ陳述スヘキコトハ條理上當然ノコトニシテ刑事訴訟法第二百五十八條第一項ノ規定ハ第一審ニ關スル規定申適用セラルヘキモノヲ適用スヘシトノ規定ナレハ立會檢事カ先ツ被告事件ヲ陳述セサリシトテ違法ノ手續ト云フヲ得ス」第十二ハ原院ハ本件ノ辯論終結シタルヨリ數次ノ開廷ヲ爲シタルノ後本件ノ判決ヲ言渡シタルハ刑事訴訟法第二百四條第一項ノ規定ニ反スル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○事件ノ煩雜其他ノ理由ニ依リ辯論終結ノ即日若クハ次ノ開廷ニ判決ヲ言渡シ能ハサル場合ハ其以後ニ

至リ之カ言渡ヲ爲スモ不法ノ判決トシ原判決ヲ破毀スヘキ原由ト爲スチ得ス「第十三ハ被告カ唯一ノ反證トシテ原院ニ向ヒ證人ノ申請ヲ爲シタルニ其唯一ノ反證ナルニモ拘ハラス之ヲ排斥セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○其必要不必要ヲ判別シ之カ許否ヲ爲スハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ原院カ之ヲ不必要ト認メ其申請ヲ棄却シタルハ不法ニアラス」第十四ハ本件ノ起端ハ實ニ明治二十六年四月中旬ナルコトハ各證憑書類ニ依リ明白ナル事實ナルニ原判決カ之ヲ明治二十六年五月初旬ト列示シタルハ理由ノ齟齬ナリト云フニ在リテ○原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルモノナレハ適法上告ノ理由ナシ」第十五ハ原判文ニ列舉シタル證據中第一審公判始末書黒川本太郎角田唯吉ノ豫審調書青木圓次三村キン瀧川證太郎ノ豫審ノ陳述及ヒ鑑定人ノ筆蹟鑑定書ナルモノハ原公判中曾テ朗讀省署ノ告示等ナキニモ拘ハラス一モ之ヲ讀聞ケラレス且ツ證據物件タル印紙并ニ包紙二葉ノ如キハ曾テ被告ニ展示セラレス隨テ何等ノ辯解ヲ爲サシメラレタルコトナシ加之一件記錄中瀧川證太郎ナルモノ、調書ハ絶テナシ然ルチ原院カ右等ノ書類物件等ヲ斷罪ノ資料トセシハ不法ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ハ各被告并ニ辯護人ニ對シテ本件ニ付證據トナル處ノ記錄ハ總テ摘讀セシメサルモ異見ナキヤト問ヒ被告等ハ異見ナキ旨ヲ答ヘ裁判長ハ尙ホ其記錄ノ要部ヲ摘讀シテ各被告ヲ訊問シ之カ辯解ヲ爲シメ云々トアリ尙他ニ筆蹟鑑定書ヲ示シ辯解ヲ爲サシメタルコトヲ明載シアレハ原院カ第一審公判始末書以下ノ書類ニ付朗讀省署ノ告示ヲ爲シ而シテ其要部ヲ摘讀シテ辯解ヲ爲サシメタルコトハ明白ナリトス而シテ

印紙并ニ包紙及ヒ瀧川某ノ調書ニ付テノ論旨ハ岩上照雄上告趣旨擴張書第五點ノ其一其二ノ說明ニ依リ了解スヘシ

岩上照雄辯護士山口憲井ニ岩上照雄羽島米吉辯護士平井恒之助及ヒ猪谷秀磨辯護士高橋庄之助連署ノ上告趣旨擴張書ノ要ハ原判文前段ニハ唯吉ニ於テハ云々盜贓品ナルヲ以テ巡査ノ爲メ發見セラレン事ヲ恐ル、餘リ云々下判示シ恐喝取財ノ事實ヲ認メナカラ判決未段ニ至リ恐喝シテ取リタルモノト認メタルハ失當ニシテ被告ノ控訴ハ結局其理由アリトシ詐欺取財犯ヲ以テ處斷セシハ前後ノ理由ニ阻礙アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○右論旨ハ要スルニ岩上照雄擴張書第二點ノ其二ト趣旨ヲ同フスルモノナルニ付右說明ニ依リ了解スヘシ辯護士平井恒之助山口憲井ノ上告論旨擴張書并ニ岩上照雄擴張書ノ要旨ハ本件ノ被害者タラサル茨城縣廳ニ對シ刑法第四十八條ヲ適用シ贓物ヲ還付シタルハ不法ナリト云フニ歸着スレトモ右ハ岩上照雄上告趣旨第一乃至第四ノ說明ニ讓リ爰ニ覆説セシ

羽島米吉猪谷秀磨辯護士高水益太郎ノ擴張書ノ第一并ニ上申書ハ原院ニ於テ審理ノ際本件ニ必要ナル證據書類ノ期讀ヲ省畧シタルハ違法ナルノミナラス殊ニ第一審判決ニ於テ採用セサル新證據即チ別事件ノ豫審書類ヲ採テ本件斷罪ノ證據トナシタルニ右書類ニ付テハ被告ニ對シ期讀シタルコトナク又被告ノ意見ヲ問ヒタルコトナキハ不法ナリト云フニ在レトモ○期讀省畧ノコトニ付テハ被告等ノ同意スル處ナレハ之ヲ省畧セシトテ不法ニアラス又第一審判決ニ於テ採用セサル證據類ニ付テモ猪谷秀磨ノ擴張書第十五ノ說明ニ揭クル如ク原公判始末書ニ被

告カ其書類ノ期讀省畧ニ同意シタルコト及ヒ裁判長カ其要部ヲ摘讀シテ辯解ヲ爲サシメタルコトヲ明載シアレハ其期讀ナキヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス第三ハ猪谷秀磨擴張書ノ第十二ノ趣旨ト同一ナルヲ以テ趣旨說明共爰ニ再記セシ

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十一月四日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○贓物故買寄藏牙保ノ件

明治二十八年第九八八號
明治二十八年十一月四日宣告

○判決要旨

盜贓故買者ヨリ更ニ之ヲ復買シタル所爲ハ仍ホ盜贓故買罪ヲ成立ス(判旨第三點)

(參照) 強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者

ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三回以上三十回以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第三百)

事件ノ併合審理ハ承審官ノ職權ニ屬ス(判旨第四點)

復故買○併合審理○増罪ノ主張○刑罰ノ指定權○輕刑不服ノ控訴○公延内ノ附帶控訴○
訊問後ノ附帶控訴

復故買○併合審理○増罪ノ主張○制裁ノ指定檢○輕刑不服ノ控訴○公廷内ノ附帶控訴○
訊問後ノ附帶控訴

一罪ノ判決ニ對シ二罪ノ主張ヲ爲スハ被告人ノ不利益ニ歸スル論旨ナルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス(判旨第十八點)

檢事ハ法律ノ正條ヲ援引シテ其適用ヲ求ムルノ外仍ホ進ンテ刑期ノ長短罰金ノ多寡ヲ指定シテ其適用ヲ求ムルノ權ヲ有ス(判旨第二十六點)

刑ノ輕重權衡ヲ得サルハ判決其當ヲ得サルモノトス從テ之ヲ以テ控訴ノ理由トシ一審判決ノ變更ヲ訴求スルヲ得(同上)

(參照) 檢事其他訴訟關係人ハ法律ニ許シタル上訴ヲ爲スコトヲ得(刑事訴訟法第二百四十二條第一項)
檢事公廷内ニ於テ附帶控訴ヲ爲ス場合ニアリテハ特ニ控訴申立書ヲ提出スルノ要ナク又相手方ニ對シ之カ通知ヲ爲スヲ要セス(判旨第二十七點)

(參照) 控訴ヲ爲スニハ其中立書ヲ原裁判所ニ差出ス可シ(裁判所ハ控訴ノ申立アリタルコトヲ速ニ相手方ニ通知ス可シ)(刑事訴訟法第二百五十四條)

控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得(控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコトヲ得)(刑事訴訟法第二百五十九條)

檢事ハ事實訊問終結後ト雖モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得(判旨第二十八點)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 石塚啓次郎
金子仲次郎
杉野文彌
角田唯吉

辯護人 高木益太郎
宮古啓三郎
花井卓
平田昌
鈴木昌
田中謙
吉澤

右贓物故買寄藏牙保被告事件ニ付明治二十八年七月七日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴并ニ原院檢事ノ附帶控訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ更ニ被告啓次郎ヲ重禁錮二年六月罰金二十五圓監視十月ニ被告清一ヲ重禁錮三年罰金參拾圓監視十月ニ被告仲次郎ヲ重禁錮二年罰金二十圓監視十月ニ被告文彌ヲ重禁錮六月罰金七圓監視六月ニ被告唯吉ヲ重禁錮三年罰金三十圓監視十月ニ處スト言渡シタル判決ニ對シ被告等ヨリ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢事ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
角田唯吉ノ趣旨ハ第一事實ノ不備并ニ亂斷アリ第二疑律ニ錯誤アリ第三法ノ命スル要點ニ對シ裁判ヲ與ヘス第四贓物ヲ誤認セラレタルニトアリ第五檢事ノ附帶控訴ヲ容レシハ訴訟法ノ精神ニ反レリト云フニ過キスシテ其不法トスル處ハ何レノ點ナルカ之ヲ指示セサレハ之カ說明ヲ與フルニ由ナシ

金子仲次郎石塚啓次郎ノ上告趣旨并ニ中澤清一辯護士宮古啓三郎ノ上告ノ趣旨ハ要スルニ被告ノ所爲ハ無罪タルヘキモノナルニ不當ニ事實ヲ確認シ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニ在リテ○原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルモノナレハ適法上

復故買○併合審理○増罪ノ主張○制裁ノ指定檢○輕刑不服ノ控訴○公廷内ノ附帶控訴○
訊問後ノ附帶控訴

告ノ理由ナシ

中澤清一上告趣旨ノ要領第一ハ被告ハ盜贓タルノ情ヲ知ラスシテ買取シタルモノト云ヒ第二ハ被告カ石塚啓次郎ヨリ買受ケタル印紙ノ種類并ニ員數ニ付原院ハ被告并ニ啓次郎ノ陳述中何レヲ採用セシカ其意ノアル處ヲ知ルニ苦シムト云フニ在レトモ○何レモ前項說明スル處ト同一ニシテ原院カ職權上爲シタル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キス第三ハ被告カ角田唯吉ニ賣渡シタル五圓ノ訴訟用印紙ハ本件以外ノ印紙ナルニ之ヲ印紙ト共ニ茨城縣廳へ還付セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○他人ニ屬スル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ得ヘキモノニアラサルノミナラス原院決ノ主文ニ依ルニ五圓ノ印紙ヲ茨城縣廳へ還付シタルノ旨波アルコトナシ」

杉野文彌上告趣旨ノ第一ハ被告カ中澤清一ヨリ買受ケタル印紙ハ竊盜贓品ニアラスシテ清一カ故買罪ニ依リ獲タル贓品ナレハ刑法第四百一條中其他ノ犯罪ニ關スル物件中ニ入ルヘキヤ明カナリ然ルニ原院カ之ヲ第三百九十九條ニ關擬シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○其贓品ニシテ元來竊盜贓タル上ハ故買者ハ手ヨリ之ヲ故買セシト爲メニ竊盜贓タルハ性質ハ變スヘキ者ニアラス故ニ原院カ被告ハ所爲ニ對シ刑法第三百九十九條ヲ關擬シタルハ相當ナリ」

第二ハ被告ハ本件ノ外尙ホ私印私書偽造行使被告事件ノ控訴院ニ繫屬スルモノアリ故ニ兩件ノ併合審理ヲ申立タルニ之ヲ認可セザリシハ不法ナリト云フニ在レトモ○二事件以上ハ一裁判所ニ繫屬シ之ヲ審理判決スル場合ニアリテ之ヲ分離スルトハ併合スルトハ其事件ハ性質ハ變ミ之ヲ定ムルモノニシテ要スルニ原承審官ハ職權ニ存スルモノナレハ其決定ハ當否ニ

判旨第三點

判旨第四點

對シ被告ヨリ論難ヲ試ムルヲ得ス

金子仲次郎上告趣旨擴張辯明書第一ハ被告カ中澤清一ヨリ印紙ノ交付ヲ受ケタルニ際シ贓品タルノ情ヲ知ラサルモノナリト云ヒ第二ハ被告カ印紙ヲ領収セシハ明治二十五年十月二十三日ニ起リシモノニシテ同年十二月ニ始マリシニアラスト云ヒ第四ハ被告ハ自宅ニ於テ印紙ヲ買受ケタルモノニアラスシテ中澤清一ノ宅ナルコトハ各證據ニ依リ明白ナルニ原院ニ於テ自宅ニ於テ買受ケシモノト判示セシハ不法ナリト云ヒ第六ノ後段ハ原院決押収品列記中「石井クマ云々」トアレトモ被告ノ關係セシハ矢島クマナリト云フニ在レトモ○何レモ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサルモノナリ」

第三ハ被告ノ捧呈シタル證據物ノ還付ナキハ不法ナリト云フニ在レトモ○證據物トノミニテ何品ナルカヲ指示セザルハ其還付ノ有無ニ付原院決文ヲ勘査スルニ由ナシ」

第五ハ原院決ハ刑ヲ言渡スニ當リ證據ノ明示ナシト云フニ在レトモ○證據ノ明示アルコトハ原院決ニ付テ知得スヘシ」

第六ノ前段ハ原院決證據列記ノ部ニ「若杉竹平ノ豫審調書」トアレトモ若杉竹平ナル者ハ本件ニ曾テ之ナシト云フニ在レトモ○原院決文ニハ若澤竹平ノ豫審調書トアリテ原院決ハ若杉竹平ナルモノノ豫審調書ヲ採用シタル事跡ノ見ルヘキナシ」

第七ハ原院決ノ附帶控訴ハ單ニ主刑ノミニシテ附加刑ニ及ハサルモノナルニ之ヲ罰金監視迄ニ及ホシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ閱スルニ原院檢事ノ附帶控訴申立ノ末文ニ「各重禁錮三年之ニ相當スル附加刑ヲ以テ處分セラレ度希望ス云々」トアリテ原院檢事カ主刑附加刑ニ對シ共ニ附帶控訴ノアリタルコトハ知ルヲ得ヘシ」

第八ハ被

告カ携帶シ居リタル印紙中二十四枚ハ押收云々ト明示アレトモ殘餘ノ破損分ニ對シ何等ノ明示ナキハ不法ナリト云フニ在レトモ○破損印紙ノコトニ付テ原院カ何等ノ事實ヲ認メタルコトナシ原院ノ認メサル事實ヲ掲出シテ原判決ヲ非難シ上告ノ理由ト爲スヘキモノニ非ス第九ハ原判決カ證據トシタル豫審調書中ニハ刑事訴訟法第二十條ニ違背シタル書類アリト云フニアレトモ○何人ノ調書中如何ナル違法ノ塵アリシヤ之ヲ指示セサレハ之カ説明ヲ與フルニ由ナシ第十ハ原院ニ於テ各證據書類ノ朗讀ヲ省略シタルハ法律ニ違背セル不法ノ裁判ナリ何トナレハ法律ハ當事者ノ合意ヲ以テ例外ト認ムル規定ナキノミナラス刑事訴訟法第二百十九條ハ單ニ被告ノ利益ノ爲メニアラス主トシテ社會ノ公益ニ基キタルモノナレハ私法上ノ規定ノ如ク當事者ノ意思ヲ以テ動シ得ヘキモノニアラサレハナリ今刑事公庭ニ於テ其朗讀ヲ爲サルトトキハ完全ニ社會ニ向ヒ犯罪ヲ確明シタルモノト云フヲ得サルノミナラス刑事訴訟法ノ規定ヲ無効ニ歸セシムルニ至ルヘシ要スルニ原判決ハ違法ノ證據ニ原因スルヲ以テ事實ノ眞確ナルヤ否ヤヲ辨ニスル能ハサル違法ノ判決ナリト云フニアレトモ○原院公庭ニ於テ裁判長ハ各被告并ニ辯護士ニ對シ本件ノ證據トナル處ノ記錄ハ總テ朗讀ヲ省略スルモ異存ナキヤ否ヤヲ問ヒタルニ各被告等ハ異存ナキ旨ヲ答ヘ而シテ裁判長ハ各證據書類ノ要部ヲ摘讀シ各被告等ニ辯解ヲ爲サシメタルコトハ載セテ原公判始末書ニアリ原公庭ニ於テハ如斯ノ手續ヲ履行シ證據調ヘヲ爲シタルモノナレハ原院ノ證據調ハ決シテ違法アルコトナシ

杉野文彌上告趣意辯明書ノ第一ハ各被告ハ共犯ニアラスシテ各自獨立シテ一罪ヲ構成シタル

モノトス然ルニ原院ハ各被告人ヲ一括シテ一通ノ判決書トナシ各被告ノ犯罪ニ對シテハ其證據ノ同一ナラサルニモ不拘其證據ノ部ニ至リ一括シテ之ヲ併記シタルハ決シテ證據ヲ明示シタル正當ノ判決ト云フヲ得スト云フニ在レトモ○原院文ニ被告ノ犯罪ニ對スル證據ヲ列記シアレハ證據ノ明示ヲ闕キタルモノニアラス而シテ其證據ノ區分ニ至テハ一件記錄ニ依リ之ヲ査閱セハ容易ニ之ヲ識別スルヲ得ヘキモノナレハ原判決ニ於テ之ヲ併記セシトテ不法ト云フヲ得ス第二ハ原院ニ於テ公判開廷ノ際事件ノ併合ヲ申請シタルニ裁判長ハ檢事ノ意見ヲ聞クコトナク其決定ヲ爲シタルハ刑事訴訟法第九十九條ニ違背スル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ閱スルニ被告ハ事件ノ併合審理ヲ申請シタルノミニシテ裁判長ノ或ル決定ニ對シ異議ヲ申立タル事蹟ノ見ルヘキナケレハ原院カ檢事ノ意見ヲ聽カス被告ノ申請ニ對シ決定ヲ與ヘタルハ相當ノコトナリトス

中澤清一上告趣旨擴張書ノ第一ハ原院カ證據ノ依ルヘキモノナキニ本件故買ノ印紙チ一万二千枚餘トセシハ架空ノ認定ナリト云ヒ第二ハ相被告内田新吾ノ判決ニ依レハ印紙被告事件ノ新聞紙ニ出テシハ明治二十五年八月二十日前後ナルモノ、如シ然ラハ則チ被告カ石塚啓次郎ヨリ印紙ノ委託ヲ受ケタリト云フ九月一日ニアリテハ被告ハ盜賊タルノ情ヲ知リタルモノト謂ハサルヲ得ス然ルニ其後被告カ新聞紙ニ依リ印紙被害ノ事實ヲ知リタリトノ證ナキニモ拘ハラス九月一日以後其情ヲ知り低價ヲ以テ買受ケタリトノ判決ハ理由ヲ付セサル判決ナリト云ヒ第四ハ被告ハ印紙賣買ノ當時盜賊タルノ情ヲ知ラサルモノナリト云フニアリテ○以上ノ

復故買○併合審理○増罪ノ主張○制裁ノ指定權○輕刑不服ノ控訴○公延内ノ附帶控訴○
訊問後ノ附帶控訴

論旨ハ何レモ原院ノ事實認定ニ對シ批難ヲ試ムルモノニ過キス第三ハ原判文ニ依レハ被告カ
石塚啓次郎ヨリ盜贓タルノ情ヲ知リ印紙ヲ故買セリトアレトモ其場所及ヒ年月日并ニ印紙ノ
員數代價ノ金高等ヲ明示セサルハ不法ノ判決ナリト云フニアレトモ○判文ヲ閱スルニ其年月
日ハ明治二十五年九月一日ニシテ印紙ノ數ハ拾錢五拾錢壹圓等ノ印紙合計一萬二千枚餘ナル
コト其代價ノ額ハ假額百圓ニ付代金三十圓ノ判ナルコト明載シアリ而シテ其場所ニ至テハ特
ニ之ヲ掲ケアラサルモ被告清一ノ自宅ナルコト判文ヲ通讀シテ知ルヲ得ヘケルハ原判決ハ不
法ト云フヲ得ス第五ハ被告角田唯吉ニ依託シ置キタル四谷間稅分署宛及ヒ東京府知事宛ノ書
面二通ハ唯吉ヨリ押收セラレタルニ之カ還付ノ言渡シナキハ不法ナリト云フニアレトモ○押
收品ニシテ還付スヘキモノハ差出人へ還付スヘキモノナレハ差出人ニアラサル被告ヨリ其還
付ナキテ理由トシ上告スルヲ得ス

角田唯吉上告趣旨辯明書ノ第一ノ其一ハ原判決事實ノ理由ニ於テ被告ノ犯罪ヲ牙保寄藏ノ二
罪アルコトヲ認メタルニモ拘ハラス法律ノ適用ノ部ニ至リ單ニ刑法第三百九十九條ニ問擬シ
タリ然レトモ本件ノ如ク二個以上ノ犯罪ヲ認メシ場合ハ刑法第百條末項ニ依リ其重キ某犯罪
ニ從ヒ處罰スヘキコトヲ明示スヘキハ裁判上關ク可ラサル事柄ナリトス然ルニ原判決爰ニ出
テサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○上告論旨ハ要スルニ原院カ被告ハ所爲チ一罪トシテ處
罰シタルハ不法ニシテ二罪タルヘキモノナリト云フニ歸スレハ右論旨ハ所謂被告ハ不利益ニ
係ル上告ナレハ憲法上告ノ理由ト爲スヲ得ス其ニハ原判文ニ清水仁平外二名各其居室ニ於テ

判旨第十八

賣渡シ云々トアリテ外二名ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○外二名ノ氏名ヲ明示
セザリシトテ犯罪ノ構成刑ノ輕重ニ影響ヲ生セザレハ之ヲ以テ原判決ヲ破毀スルノ理由ト爲
スヲ得ス第三ハ原判決事實ノ部ニ於テ印紙合計四千二百圓ヲ違藤カメ方へ預ケ置キタリトア
リ然ルニ法律適用ノ部ニ於テ違藤カメヨリ差出シタル印紙ハ合計五百七十圓(枚カ)ヲ認メラレ
シニ過キスシテ前後理由ノ組織アル判決ナリト云フニ在レトモ○原院ハ違藤カメヨリ呈出シ
タル印紙ハ被告カ同人へ預ケ置キタル印紙ノ全部ナルコトヲ認メタルコトナシ然ラハ則右論
旨ハ原院カ認メサル事實ヲ掲出シテ原判決ヲ批難スルモノナレハ固ヨリ上告ノ理由ト爲スニ
足ラス第二ノ其一ハ同辯明書第一ノ其一ト其論決チ同フシ第二ノ其二并ニ第四ハ杉野文彌上
告趣旨第一ト其論旨同一ニ歸スルヲ以テ其趣旨并ニ説明ハ爰ニ贅セス第三ハ被告ヨリ押收セ
ラレタル送金約定證金圖受取通帳石塚宛封書合計三通ノ還付ナキハ不法ナリト云フニ在レト
モ○還付スヘキモノニシテ還付ノ言渡シナキトキハ何時ニテモ還付ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノ
ナレハ其旨渡ナキヲ以テ上告適法ノ理由ト爲スヲ得ス
中澤清一辯護人宮古啓三郎擴張辯明書ノ第一第二ハ中澤清一カ自ラ呈出シタル擴張書第三ト
其論旨チ同フシ第三ハ杉野文彌辯明書第二ト其論旨同一ニ歸スレハ其趣旨及ヒ説明共ニ爰ニ
再記セス

復故買○併合審理○増罪ノ主張○制裁ノ指定權○輕刑不服ノ控訴○公延内ノ附帶控訴○
訊問後ノ附帶控訴

角田唯吉辯護人鈴木昌玄上告趣旨擴張書ノ第一ハ原院カ證據ニ採用シタル密書ハ受信人ノミ
ヲ示シテ發信人ヲ示サトルハ證據ノ明示ヲ闕キタルモノナリト云フニ在レトモ○原判文中「樹

復故買○併合審理○増罪ノ主張○制裁ノ指定權○輕刑不服ノ控訴○公庭内ノ附帶控訴○
訊問後ノ附帶控訴

谷仲造へ宛タル密書トアレハ其密書ノ何レノモノナルカチ明示シアリテ尙他ニ發信人ノ氏名ヲ掲記スルノ要ナキモノトス『第二ハ角田唯吉ノ自ラ提出シタル辯明書第一ノ其二ト第三ハ同辯明書第一ノ其一ト第四ハ同辯明書第六ト其論旨同一ニ歸スレハ其趣旨及ヒ説明ハ爰ニ再記セシ

石塚啓次郎中澤清一杉野文彌辯護人高木益太郎ノ擴張書第一及ヒ上申書ハ原院ニ於テ審理ノ際本件ニ必要ナル證據書類ノ朗讀ヲ省畧シタルハ違法ナルノミナラス殊ニ第一審判決ニ於テ採用セサル新證據即チ別件ノ豫審書類ヲ採テ本件斷罪ノ證據トナシタルニ右書類ニ付テハ被告ニ對シ朗讀シタルコトナク又被告ノ意見ヲ問ヒタルコトナキハ不法ナリト云フニ在レトモ○朗讀省畧ノコトニ付テハ被告等ノ同意スル處ナレハ之ヲ省畧セシトテ不法ト云フヲ得ヌ又第一審判決ニ於テ採用セサル證據書類ニ付テモ原公判始末書ヲ閱スレハ被告カ其書類ノ朗讀省畧ニ同意シタルコト及ヒ裁判長カ其要部ヲ摘讀シテ辯解ヲ爲サシメタルコト明白ナレハ其朗讀ヲキチ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ヌ『第二ハ石塚啓次郎ニ對スル判決中犯罪ノ場所ヲ明示セサルハ事實理由ヲ欠キタル不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○原判文ヲ閱ミスルニ上告論旨ノ如ク其場所ノ特記アラサルモ被告石塚啓次郎ノ自宅ナルコト判文ヲ通讀セハ自カラ知ルヲ得ヘケレハ其特記ナキヲ以テ理由不備ノ判決ト云フヲ得ヌ『第三ハ原判決ハ刑事訴訟法第二百四條第一項ノ規定ニ背キ相當ノ期間ヲ徒過シタルニモ不拘審理ヲ更新セシテ直チニ判決ヲ下シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○事件ノ煩雜其他ノ理由ニ依リ辯論ヲ終リタル即日

又ハ次ノ開廷日ニ判決ノ言渡シヲ爲シ得サル場合ニアリテハ其以後ニ至リ之カ言渡シヲ爲スモ違法ノ判決ト云フヲ得ヌ

金子仲次郎辯護人平田護衛上告理由擴張書ハ訴訟用印紙ハ訴訟税ノ領收證ニ過キス隨テ辨谷仲藏ノ所爲ハ竊盜ヲ以テ論スルヲ得ス然ルニ原院ニ於テ金子仲次郎カ該印紙ヲ買取リタルノ所爲ヲ以テ贓物牙保(故買カ)ノ罪トナシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○訴訟用印紙ハ有價證券ト同視スヘカラサルモ一定ノ假額ヲ有スルモノナレハ財物タルニ外ナラサルナリ故ニ之ヲ竊取セハ犯罪ノ構成スヘキコト言テ喚タサレハ原院カ被告ヲ贓物故買罪トシテ處斷シタルハ相當ナリトス

金子仲次郎辯護人花井卓藏上告趣意擴張書ノ第一ハ刑事訴訟法第二百二十條ニ依レハ檢事ハ刑ノ長短加減ヲ定メ裁判ヲ要求スルノ權ナシ故ニ刑ノ長短ニ付不服ヲ訴フル本件附帶控訴ノ如キハ裁判上採容スヘカラサルモノナルニ原院ニ於テ之ヲ採容シタルハ不法ナリト云ヒ第二ハ控訴トハ第一審判決ノ變更ヲ請求スルノ謂ヒナレハ其判決ノ當チ得サル場合ニ限レルコト自明ノ理タリ本件ニ付檢事カ附帶控訴ヲ爲シタルハ刑輕キニ失ストノ非難ニシテ判決ノ不當ヲ非難スルモノニアラス如此ノ附帶控訴ハ控訴ノ性質ニ反スルハ勿論法律モ亦上訴トシテ是認スヘキ筋合ノモノニアラス然ルニ原院カ之ヲ採容シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○檢事カ法律ノ適用中殊ニ刑ノ適用ニ付テハ只カ其法律ハ正條ヲ援引シテ其適用ヲ求ムルニ止マラシメテ其正條ハ範圍内ニ於テ相當ト認メタル刑罰金額ヲ指定シテ其適用ヲ求ムルハ決シテ

復故買○併合審理○増罪ノ主張○制裁ノ指定權○輕刑不服ノ控訴○公庭内ノ附帶控訴○
訊問後ノ附帶控訴

越權ハ處置ニアラス故ニ檢事ハ第一審ハ判決ニシテ其刑期ハ相當ナラスト認ムルトキハ此點ニ對シ控訴若クハ附帶控訴ヲ爲シ覆審ヲ求メ得ヘキコトハ當然ノコトナリトス故ニ原院カ檢事ハ附帶控訴ヲ採容セシハ不法ニアラス又刑期ハ輕キ若クハ重キニ失スルハ即チ判決ハ當チ得サルモノニシテ檢事カ此點ニ付附帶控訴ヲ爲スハ第一審判決ハ變更ヲ請求スルニ外ナリサルナリ故ニ本件檢事ハ附帶控訴ハ刑事訴訟法第二百四十二條ハ規定ニ該當セシモノニシテ原院カ之ヲ採容セシハ固ヨリ相當ノコトナリトス第三ハ原院檢事カ附帶控訴ヲ爲スニ際リ申立書ヲ差出サ、ルハ刑事訴訟法第二百五十四條ニ違背シタルモノニシテ該控訴ハ到底成立セサルモノナリト云フニ在レトモ○檢事カ公庭ニ於テ附帶控訴ノ申立ヲ爲ス場合ハ其申立アリタルコトヲ相手方ヘ通知スルハ要ナシ殊ニ第二百五十四條ハ其申立書ヲ原裁判所ヘ差出スハシトハ規定ニシテ本件ハ如キ附帶控訴ノ場合ニ適用スヘキモノニアラサルコトハ言ヲ俟タサルナリ故ニ該附帶控訴ハ決シテ不法ハモノニアラス第四ハ被告人ノ控訴ニ事實訊問終結ノ宣言アリタル上ハ檢事ハ刑事訴訟法第二百二十條ニ則リ事實并ニ法律ニ付其意見ヲ陳述スル外何等ノ權能ナキモノナリ所謂意見ナル文字中ニ附帶控訴ノ趣旨ヲ包含セサルコトハ喋々ノ辯ヲ要セサルナリ然ルニ若シ此場合ニ附帶控訴ヲ差支ヘナシトセハ裁判所ハ何レヲ以テ意見ト定メ何レヲ以テ附帶控訴ト定ムヘキカ之カ分岐ノ方向ニ惑ハサルヲ得スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百五十九條ニ控訴ハ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得トアルニ依レハ事實訊問終結後ト雖トモ檢事カ附帶控訴ヲ爲シ得ヘキコトハ法律ハ是認スル處ナレ

判旨第二十

判旨第二十

ハ右論旨ハ適法上告ノ理由ナシ第五ハ試ニ意見陳述ノ際附帶控訴ヲ爲シ得ヘキモノトスルモ此場合ニ於テハ更ニ審問ヲ開クカ若クハ被告人ノ意見ヲ聽キ之ヲ省畧スルノ二途アルノミ然ルニ若シ此兩様ノ内一モ其手續ヲ盡サレハ檢事ノ附帶控訴ナシト斷言スルヲ得ヘク若シ之ヲ以テ附帶控訴ト名ケ得ヘシトセハ原院ハ審訊ノ手續ヲ盡サスシテ判決ヲ言渡シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○事實訊問ノ未立會檢事ニ於テ訊問ノ事實ニ依レハ第一審カ被告ニ適施シタル刑ハ輕キニ失スルモノト認メ之ヨリ重キ刑ニ處セントノ趣旨ヲ以テ附帶控訴ヲ爲シタルモノナレハ殊更ニ之ヲ被告ニ告示シ再ヒ事實訊問ノ手續ヲ爲スヘキノ要ナシ故ニ原院カ更ニ之レカ手續ヲ爲サ、リシトテ不法ノ裁判ト云フヲ得ス第六乃至第九ハ金子仲次郎カ自カラ提出シタル上告趣意擴張辯明書ノ第十ト其論決ヲ同フスルモノナレハ其趣旨及ヒ說明ハ爰ニ再記セス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十一月四日大審院第一刑事部公庭ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官私文書偽造行使詐僞取財等ノ件

明治三十八年第一〇七二號
明治三十八年十一月四日宣告

○判決要旨

官職氏名ヲ刻シ職務上使用スル印章ハ刑法第九十五條ニ所謂官印ニ包含ス

(判旨第一點)

(參照) 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス(刑法第百九十五條)

拘引狀ノ効力ハ其令狀ニ記載セシ裁判所ニ引致スルヲ以テ終了ス(判旨第二點)
甲裁判所ノ發シタル拘引狀ヲ以テ乙裁判所ニ傳遞スルノ効力ナシ從テ其途次
逃走ノ所爲アルモ囚徒逃走罪ヲ成立セス(同上)

巡査ノ手續書ハ刑事訴訟法ニ規定セシ文書ニアラス從テ契印ノ法則(刑事訴訟
法第二十條)ヲ履踐セサルモ無効ニアラス(判旨第十四點)

(參照) 官吏公吏ノ作ルヘキ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シ
テ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ
其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカルヘシ(刑事訴訟法第
二十條一項)

第一審 青森地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 長水憲一郎

右憲一郎ニ對スル官私文書偽造行使官印偽造竊盜詐取財囚徒逃走被告事件ニ付明治二十八

年八月十九日東京控訴院ニ於テ本院ノ移送ニ依リ事件ヲ受理シ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス
被告憲一郎ヲ重懲役九年ニ處ス現在ノ賍金但シ原裁判所會計課ニ保管スハ青森本金庫ニ還付
シ其他ノ押收書類物件ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ全部被告ノ負擔トスト言渡シタル
判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理
スル左ノ如シ

被告ノ上告趣意ハ要スルニ刑法第九十五條ハ各官署ノ印ヲ偽造シタルモノニ適用ス可キ法
文ニシテ本件ノ如キ遞信省鐵道書記三輪重知ト刻シタル官吏ノ印ヲ偽造セシ所爲ニ對シ適用
スヘキモノニアラス故ニ原院カ刑法第九十五條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レ
トモ○官吏カ其官職氏名ヲ刻シ職務上使用スル印ハ即チ刑法第九十五條ハ官印ニ包含スル
モハハレハ原院カ本件遞信省鐵道書記三輪重知ト刻シタル印ヲ偽造シタル所爲ヲ同條ニ間擬
シタルハ相當ニシテ擬律錯誤ニアラス

被告ノ上告趣意擴張被告第一點ハ原院判決摘示事實第三ノ所爲ニ對シ刑法第四百四十四條同第百
四十二條第一項ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ律ニ正條ナキ者ニ對シ有罪ノ言渡ヲ爲シ
タル違法ノ裁判ナリ其理由ノ第二事實ニ「岐阜縣下ヨリ青森地方裁判所へ傳遞護送ノ途中云々」
ト明示セラレタリ然トモ此拘引狀ハ岐阜市ニ滞在セル被告ヲ岐阜地方裁判所ニ拘引スヘキ命
令ヲ以テ執行シタル強制的ノ召喚狀ニ過キサレハ被告憲一郎ヲ岐阜地方裁判所ニ引致スルヲ
以テ己ニ其令狀ノ効力ヲ終リタルモノトス然ルニ原院カ岐阜地方裁判所ニ拘引ス可キ命令ヲ

官吏ノ職印○拘引狀ノ効力○契印不要ノ文書

判旨第二點

ル拘引状ヲ以テ青森地方裁判所ニ傳遞送セシモノト判決セラレタルハ拘引状ノ効力ヲ及サ
 ル命令以外ノ不實行爲ヲ認メタルモノニシテ誤判ノ甚シキモノナリト云フニ在リ○依テ
 按スルニ拘引状ニハ右官印偽造等ノ事件ニ付訊問ハ筋有之當裁判所へ拘引スヘキ者也トアリ
 テ岐阜地方裁判所豫審判事田中眞民之ヲ發セリ故ニ此令狀ハ被告ヲ岐阜地方裁判所へ引致ス
 ルヲ以テ其執行ヲ了リタルモノナレハ岐阜縣下ヨリ青森地方裁判所へ傳遞ハ途中ハ此令狀ハ
 効力ナキコト明カナレハ原院カ認メタル所爲即チ岐阜縣下ヨリ青森地方裁判所へ傳遞送ハ
 途中明治二十七年五月二十一日午後六時十五分頃花泉一ハ關兩驛間陸道内瀛車進行ハ際暗黒
 ナルヲ好機トシ瀛車客室ハ窓ヲ開キ逃走シタル所爲ハ法律ニ於テ罰スヘキ正條ナキモノトス
 然ルニ之ヲ刑法第四百四十四條第四百四十二條ニ間擬シタルハ本上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ不法
 アルヲ免カレス本論旨第一ノ理由ト原判決中第三ノ事項ニ關スル論旨ニシテ既ニ無罪タルヘ
 キモノト說明セシ已上ハ更ニ說明スルノ要ナシ其第二點ノ要ハ第一審判決ハ偽造切符ヲ以テ
 斷罪ノ證據ト爲セリ然ルニ原院ハ此偽造切符ノ取調ヲ爲サスシテ判決セシハ違法ナリト云フ
 ニ在レトモ○原院ハ右偽造切符ハ斷罪ノ證據トセサルヲ以テ其取調ヲ爲サスシテ判決セシモ
 不法ニアラス其第三點ノ要ハ第一原院ハ有罪ノ證據トシテ高宮豫審判事ノ拘引状發付囑托書
 案ヲ明示セシモ右ハ刑事訴訟法第二十條ヲ履マサル無効ノ書類ナルニ之ヲ採テ斷罪ノ證據ト
 セシハ違法ナリ第二原院ハ田中豫審判事ノ拘引状ヲ以テ囚徒逃走罪ニ對スル有罪ノ證據トセ
 シハ違法ナリト云フニ在レモ○此又原判決中ノ第三ノ事項ニ關スル論旨ナレハ更ニ說明セス

第三原院ハ明治二十七年五月二十八日付被告ノ豫審調書ヲ以テ斷罪ノ證據トセリ然レトモ右
 調書中ニ錄取セラレタル供述中官私文書偽造行使官印偽造竊盜詐欺取財ノ所爲ニ對シテハ其
 取調日前已ニ起訴アリシモ囚徒逃走罪ニ對シテハ未タ曾テ檢事ノ起訴セサル已前ナルヲ以テ
 刑事訴訟法第六十七條ニ依リ無効ナルニ之ヲ採テ證據トセシハ違法ナリト云フニ在レトモ○
 囚徒逃走罪ノ起訴ハ明治二十七年五月二十八日ナレハ右豫審調書カ起訴已前ノ成立ニ係ルト
 ノ本論旨ハ謂ハレナシ其第四點ノ要スルニ原判決中明示セシ各證據ハ被告人ニ示シ辯解ヲ爲
 サシメタルコトナシト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ見ルニ問本件一切ノ證據書類期讀
 ハ書畢シテ異議ハナキヤ答別ニ異議ハアリマセントアレハ原院ノ判決ハ本論旨ノ如キ不法ア
 ルコトナシ其第五點ノ要スルニ原院ニ於テ開廷以前公訴受理スヘカラサル申立書ヲ提出シ尙
 *其趣旨ヲ公判廷ニ於テ申立タルニ何等ノ裁判ヲ與ヘスシテ直チニ本案ノ審問判決ヲ爲セシ
 ハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ見ルニ右申立ハ被告自ラ取消シタルコト明
 カナレハ本論旨ハ最モ謂ハレナシ其第六點ノ要ハ原院判決事實第二中書損ニ係ル切符用紙ニ
 枚ヲ竊取セシ所爲ニ對シ刑法第三百六十六條ヲ適用セシハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○
 書損紙ナリトモ必スシモ價ナキモノト云フヘカラス而シテ原判決モ右書損ノ切符用紙ハ無價
 物ニシテ財物ニアラザルコトヲ認メアラサレハ本論旨ハ畢竟原院ノ認メサル事實ヲ採テ漫然
 不服ヲ唱フルニ過キサレハ上告違法ノ理由トナラス其七點ノ要ハ原院ハ公訴裁判費用ノ全部
 ヲ被告ニ負擔セシムルニ當リ刑事訴訟法第二百一條ノミチ適用シ刑法第四十五條第三百三條ヲ

適用セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇刑ノ言渡ニアラサル場合ハ法條ヲ盡ク明示セサルモ違法ニアラス其第八點ノ第一ハ原判文事實ニ書損ニ係ル同切符二枚ヲ竊取シトノミ記載シテ竊取ノ方法手段ヲ明示セサルハ理由不備ナリト云フニ在レトモ〇竊取ハ特別ノ方法手段ヲ用サル竊盜罪ノ手段ナレハ其格段ニ明示スヘキ方法手段ナキヲ以テ原院ハ單ニ竊取云々ト記載セシモノナレハ理由不備ノ不法アリト云フヘカラス其第二ハ切符用紙甲乙號ニ金額ト人名ノミ記載セシモノト判決セラレタリ然レトモ偽造切符ニハ右金額人名ノ外年月日及番號數字等ノ記入アルカ故ニ此等ノ記入ハ何人ノ爲セシモノナルカヲ明示セサルハ理由不備ナリト云フニ在レトモ〇原判文ニ金額支拂切符用紙甲乙號ニ各金四百七十七圓六十一錢四厘ノ金額ト虚無ナル田中平吉外六名渡リノ文字ヲ記入シ云々トアレハ爾餘ノ記入ハ被告人ノ所爲ナルト否トニ依テ犯罪組成ニ關係ナキヲ以テ假リニ其明示ナシトスルモ理由不備ノ不法アリト云フヘカラス其第九點一ノ要ハ本件ノ贓金ハ既ニ青森本金庫ニ假下ケシタルモノナルハ一件記録中假下ケ受書ニ徴シテ明カナリ然ルニ現在ノ贓金(但原裁判所會計課ニ保管ス)ハ青森本金庫ニ還付スト言渡シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇原院カ還付ヲ言渡シタル贓金カ裁判所ニ現在スルト否トハ被告ノ利害ニ關係ナキコトナレハ上告ノ理由トナラズ其第二ノ要旨ハ本件ニハ青森本金庫ノ外加福嘉吉ナル被害者アリ然ルニ原院カ贓金ノ全部ヲ本金庫ニ還付シテ加福嘉吉ニ其幾分ヲ還付セザルハ不當ナリト云フニ在レトモ〇此又被告ノ關係ナキコトナレハ上告ノ理由トナスヘキモノニアラス其第十點ハ原院判決法律適用ノ部ニ已上第一ノ詐欺取財

判例第十四

第二ノ竊盜及官印偽造第三ノ囚徒逃走ノ罪俱ニ發シタルヲ以テ同第百條ニ照シ云々ト判決セラレタリ依テ原判決事實第二ノ理由ヲ闕スルニ右竊盜官印偽造ノ外詐欺取財及官文書偽造行使等ノ事實ヲ明示セラレタリ然ルニ前項ノ如ク第二ノ事實中竊盜官印偽造行使罪ニ對シ刑法第百條ヲ適用シテ第二ノ詐欺取財及官文書偽造行使罪ニ刑法第三百九十九條第一項ト云フニ在レトモ〇原院カ說明セシ如ク詐欺取財ト官文書偽造トハ刑法第三百九十九條第二項ニ依リ重キ官文書偽造ノ罪ヲ論スヘク官文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シタルヲ以テ同第二百六條ニ依リ重キ官印偽造ノ罪ニ從フヘキモノニシテ刑法第三百九十九條第二項同第二百六條ノ規定ニ依リ詐欺取財及官文書偽造ノ罪ハ同第百條ヲ適用スル場合ニハ一個獨立ノ犯罪トナラザルモノナレハ右詐欺取財及官文書ノ偽造ノ罪ニ刑法第百條ヲ適用セザルハ相當ニシテ原判決ハ擬律錯誤アルコトナシ畢竟本論旨ハ法律ノ誤解ニ基クモノニシテ上告違法ノ理由トナラス其第十一點ハ要スルニ巡查佐々木寅之助ノ手續書ハ刑事訴訟法第二十二條第一項ニ違背シタル無効ノ書類ナルニ原院ハ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇巡查ハ手續書ハ刑事訴訟法ニ規定セシ書類ニ非サレハ同法第二十條ニ違背シタル廉アリト雖トモ之ヲ無効ナリト云フヘカラス斷罪ノ資料ニ供シタル原判決モ不法ニアラス其第十二點ノ要ハ被告カ爲シタル異議ノ申立(公訴不受理ノ申立ナルヘシ)ニ付キ檢事ノ意見ヲ聽カス且其裁判ヲ爲サルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇本論旨ノ理由ナキコトハ上告趣意擴張第五點ニ對スル說明ニ依リ明了ナルヘシ其第十三點ハ要スルニ原判決證據

列記ノ部ニ「鑑定人元山龍吉ノ鑑定書」トノミ摘示シ何等ノ物件ヲ何等ノ必要ニ依リ何如ナル職ノ人ニ鑑定ヲ爲サシメタリトノコトヲ明示セサルハ證據ノ明示ヲ闕キタル不法アリト云フニ在ントモ○右等ノ事項ヲ判決文ニ明示スルノ必要ナキヲ以テ原判決ハ本論旨ノ如キ不法アルコトナシ其第十四點ハ要スルニ原判決事實第二ニ於テ金額支拂切符用紙二枚ヲ竊取セシ事ヲ明示シ而シテ其竊盜贓物タル切符用紙二枚ニ對シ贓物ノ處分ヲ爲サトルハ違法ナリト云フニ在レトモ○現在ノ贓物ハ其被害者ニ還付スヘキハ當然ニシテ其還付ノ音渡ハ本案ノ判決後何時ニテモ爲シ得ヘキモノナルノミナラス被告ヨリ不服ヲ唱フヘキ事項ニアラス

明治二十八年十月二十二日附上告趣意追伸書記載ノ要旨ハ上告趣意擴張第六點ト同一ナルヲ以テ更ニ説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

原判決擬律ノ部分ヲ破毀シ直チニ判決スル左ノ如シ

長木憲一 耶

原院ノ認メタル事實ヲ法律ニ照スニ第三被告カ岐阜縣下ヨリ青森地方裁判所へ傳遞護送ノ途中逃走セシ所爲ハ刑事訴訟法第二百二十四條ニ依リ無罪其他ハ原判決通り

明治二十八年十一月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢察安居修職立會宣告ス

○誣告ノ件

明治二十八年第一二〇號
明治二十八年十一月四日宣告

○判決要旨

法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

(參照) 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス(刑法第三條一項)

玩弄紙幣ハ明治廿八年法律第廿八號通貨及證券模造取締法ニ依リテ禁制セラレタル物件ナリ從テ同法頒布以前ノ所爲ニ對シ禁制品トシテ沒收シタル裁判ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス

(參照) 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券、及地方債證券ニ紛ハシキ外觀

ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス(明治二十八年法律第二十八號) 通貨及證券模造取締法第一條

第一審 新潟地方裁判所長岡支部 第二審 東京控訴院

被告人 星野吉太郎 辯護人 高木益太郎

右誣告被告事件ニ付明治二十八年九月三日東京控訴院ニ於テ新潟地方裁判所長岡支部ニ於ケル判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被告吉太郎ヲ重禁錮七月十五日罰金十圓ニ處シ現在ノ模造一圓紙幣一枚ヲ沒收ス刑事裁判費用ハ全部ヲ被告ニ負擔セシムト旨渡シタル判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ

法律不溯及○擬律錯誤

被告ノ上告趣意原院ニ於テ本件公判ノ起頭ニ檢事ヨリ被告事件ノ演述ヲ聽カサリシニモ拘ハ
 ラス直チニ被告人ヲ訊問シテ有罪ノ裁判ヲ下シタルハ不法ナリ何トナレハ刑事訴訟法第二百
 五十八條ニ依リ控訴ヲ審理スル場合ニ於テモ刑事訴訟法第二百十八條ニ則リ檢事先ツ被告事
 件ヲ陳述シ然ル後被告人ヲシテ演述セシメサル可ラス尤モ此點ニ就テハ從來ノ斷例ニ於テ反
 對ノ辯明ナキニ非ラスト雖トモ口頭辯論主義ハ裁判官自ラ關係人ノ申立ヲ聽キ直接ニ其感得
 シタル所ニ基キ裁判ヲ下スヘキモノナレハ公訴ノ趣旨ヲ聞クコトナク之ヲ書類ニ記載セル事
 項ニ讓ルコトヲ得サル可シ果シテ然ラハ原告官ヨリ被告事件ノ顛末ヲ演述セサル可ラス若シ
 其演述ナクハ裁判所ハ其被告事件ヲ知ラス之ヲ知ラサレハ從テ審理スルニ由ナシ是故ニ檢
 事先ツ公訴ノ趣旨ヲ演述スヘキモノナレハナリト云フニ在レトモ〇凡ソ訴訟ハ訴フルモノヨ
 リ先ツ其趣旨ヲ陳述スヘキヲ以テ元則トス而シテ本案ハ被告ノ控訴ニ係ルヲ以テ先ツ被告ヨ
 リ其趣旨ヲ陳述スヘキモノナリ故ニ刑事訴訟法第二百五十八條ノ規定ハ其元則ニ抵觸セサル
 所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用スルノ意ナリ而シテ控訴ノ場合ニ於テモ總テ事實ノ覆審ヲ爲
 スモノナレハ先ツ檢事ノ陳述ナキモ裁判官ハ其事件ノ顛末ヲ詳悉知り得ヘキハ勿論ナリ然ル
 チ以テ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ

辯護士高木益太郎ノ追伸書第一點抑モ玩弄紙幣ヲ法律ノ禁制シタル物件トナリタルハ明治二
 十八年法律第二十八號通貨及ヒ證券模造取締法ノ施行ニ因ル故ニ其施行以前即チ明治二十八
 年二月中ニ在テハ上告人ガ玩弄紙幣ヲ所持シタリト假定スルモ之ヲ沒收スルニ當リ原院カ其

當時未タ施行ナキ法則ニ基キ沒收ノ裁判ヲ言渡シタルハ不當ナリト云フニ在リ〇因テ案スル
 ニ沒收ハ附加刑ナリ而シテ法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得サルハ刑法第三條ハ
 規定スル所ナリ故ニ明治二十八年法律第二十八號頒布以前ハ犯罪ニシテ頒布以後ニ係ル場合
 ニ於テハ單ニ同法ニ依テ其模造紙幣ヲ處分スルハ格別ナルモ刑法ニ依テ沒收ハ言渡シテ爲ス
 チ得サルモノトス然ルニ原院ハ明治二十八年法律第二十八號頒布以前ハ犯罪即チ本案ハ模造
 紙幣ニ於テ同法及ヒ刑法第四十三條第一號同條第一項前段ヲ適用シテ其沒收ハ附加刑ヲ言渡
 シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ此點ハ上告ハ其理由アルモノトス

其第二點原院ニ於テ有罪ノ證據ニ採用シタル證人今井猶七阿部順重佐藤キミ佐藤梅吉ノ豫審
 調書等ハ被告ニ對シ朗讀ヲ爲シタルコトナク又右調書ニ就キ被告ノ辯解ヲ聽キタルコトナキ
 ハ違法ナリト云フニ在レトモ〇原院ノ公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ハ本件證據トナル記錄ノ
 朗讀ヲ爲サシメサルモ意見ナキヤヲ尋テタルニ被告ハ勿論辯護士ニ於テモ異存ナキ旨ヲ答ヘ
 タルコトヲ明記シアリテ他ニ何等ノ異議ヲモ留メサリシヲ觀レハ被告ニ於テ本件ノ證據トナ
 ルヘキ記錄ニ對シ朗讀省略ハ勿論別ニ意見ナキコトヲ知ルヘシ故ニ原院ニ於テ證人ノ豫審調
 書ヲ朗讀セス又ハ被告ニ辯解ヲ聽キタルコトヲシト云フヲ以テ上告ノ原由トナスヲ得サルモ
 ノトス

其第三點告訴ハ直チニ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スコトヲ要ス然ルニ上告人ノ差出シタル
 御用上申書ハ巡查阿部順重ノ請求ニ基キ同巡查ニ交付シタルモノナレハ無効ノ告訴ニシテ從

テ証告罪ヲ構成スヘキモノニアラス況ンヤ原判文證據列記ノ部ニ掲ケタル證人巡查阿部順重ノ豫審調書ニ依レハ右御届上申書ナルモノハ巡查ノ命令ニ依リ關係事實ヲ記載シタル尋常ノ陳述ニ過キヌシテ刑事訴訟法ニ所謂告訴ノ性質及ヒ法式ヲ具有シタルモノニアラサルニ於テヤ然ルニ原院ニ於テ此點ニ就キ充分ナル理由ノ辯明ヲ爲サスシテ輸スク右申出ニ付証告ノ成立ヲ認メタルハ違法ナリト云フニ在レトモ〇被告力差出シタル御届上申書ナルモノヲ査閱スルニ該書面ニハ被告ノ署名捺印アリ其記載ニハ犯罪ノ證據及ヒ事實參考ト爲ルヘキコトヲ繼續シアリ而シテ其宛名ニハ司法警察官タル堀ノ内分署長警部島津房親殿ト記載シアルモノナレハ告訴ニ要スル所ノ法式即チ刑事訴訟法第四十九條乃至五十一條ノ法式ニ缺クル所ナシ故ニ之ヲ告訴狀ト認ムルト否トハ專ラ事實ニ屬シ法律上ノ問題ト爲ラス而シテ原院ニ於テハ之ヲ阿部順重ノ請求ニ基キ被告ヨリ順重ニ交付シタルモノナリトノ事實ヲ認メタルコトナク又順重ノ豫審調書中ニ何等ノ記載アルモ總テノ證據ハ法律上專ラ裁判官ノ判斷ニ任シタルモノナレハ原院ニ於テ其調書中辯護士ノ援證スル部分ヲ探ラサルモ固ヨリ違法ニアラス故ニ他ヨリ該豫審調書ヲ援證シテ其御届上申書ハ巡查ノ命令ニ依リ關係事實ヲ記載シタル尋常ノ陳述ニ過キサルモノナリトシテ原判決ヲ批離スルヲ得サルモノトス然ルチ以テ原院カ其御届上申書ヲ告訴狀ト認ムヘキモノトシ以テ証告罪ノ成立ヲ認メタルハ違法ニアラス

辯護士高木益太郎カ上申書ノ要旨本案証告被告事件ニ就キ蓋キニ證據物件トシテ押收ニ係ル御届上申書及ヒ今非論七ヨリ上告人ニ宛テタル略書ノ二通ハ原院公判審理ノ際被告ニ示シテ

其解釋ヲ聽キタルモノニアラス然ルニ其判決ニ於テ右文書ヲ探テ有罪ノ證據ト爲セシハ違法ナリト云フニ在レトモ〇右二通ノ書面ハ本件ノ證據トナルヘキ記錄ノ内ニ包含シタルコト勿論ナリ而シテ其記錄ニ就テハ已ニ追伸書第二點ニ於テ説明シタルチ以テ茲ニ復説スルノ要ナシ

以上説明セシ如ク上告趣意追伸書第二點第三點上申書ノ論旨ハ適法上告ノ理由ナキモ追伸書第一點ノ論旨ハ其理由アルチ以テ刑事訴訟法第二百八十六條及ヒ第二百八十七條ニ照シ原判決中現在ノ撰造一圓紙幣一枚ヲ没収ストアル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

現在ノ撰造一圓紙幣一枚ハ刑事訴訟法第二百二條ニ照シ被告星野吉太郎ニ還付ス
明治二十八年十一月四日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○酒精營業稅法違反ノ件 明治二十八年第一二八四號
明治二十八年十一月四日宣旨

○判決要旨

密賣ノ目的ヲ以テ酒精ヲ買入レ販賣ノ準備ヲナシタル所爲ハ酒精營業稅法第十條ニ所謂ル無免許營業者トシテ處分スヘキモノトス

(參照) 無免許ニテ營業シタル者ル其現在酒精類及營業用ノ物品器械ヲ沒收シ營業稅三倍ノ罰金ニ處ス但シ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵ス(明治二十六年法律第十七號)酒精營業稅法第十條

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 長澤和吉 近藤慶吉 天野鐵次郎 古宮勇太郎
荒木重治 萩島吾三郎 鈴木清造

右酒精營業稅法違反被告事件檢事ノ控訴ニ付明治二十八年十月十一日東京控訴院ニ於テ審理ノ末本案控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ原院檢事長野村維章ハ上告ヲ爲シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告ノ要旨ハ凡ソ販賣營業ナルモノハ普通ノ公商カ自家ノ店舗ニ商品ヲ配列シ或ハ貯藏シ之カ買得テ俟テツ、アル場合ハ即チ販賣ニ着手シ營業ヲ爲スモノトスルハ何人モ異議ナカル可シ被告等カ買入タル酒精ハ素ヨリ密賣的行爲ナレハ彼ノ公商ノ商品ト均シク店舗ニ陳列スルコト能ハサルハ勿論ナレトモ之ヲ買入レ他ニ預ケ或ハ共謀者ノ内自家ニ貯藏スル所爲ハ應サニ購求者ヲ俟テ販賣セントスル時期ニシテ所謂公商カ自家ノ店舗ニ商品ヲ列シ或ハ貯藏シ買

得者ヲ俟テツ、アル時代ト其狀況恰モ同一ニテ僅ニ其行爲ニ於テ公秘ノ差異アルノミ左レハ原院カ認メタル如ク被告等カ多數ノ酒精ヲ買入レ竊ニ販賣シテ利益ヲ得ントシ多額ノ酒精ヲ買入レタル所爲ハ純然タル販賣營業行爲ニシテ業ニ既ニ販賣ニ着手シツ、アルモノト云ハサル可カラズ況ヤ酒精營業稅法第一條ニ依レハ酒精ヲ販賣スル營業者ヲ分テ二種トシ同第二條ニ其營業ヲ爲サントスル者ハ先ツ管廳ノ免許ヲ受ケヘキモノトシ同第五條ニ免許ヲ受ケタル者ハ左ノ算程ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシトアリ又同第六條ヲ視ルモ總テ酒精ノ販賣營業ヲ爲サントスル者ハ其物品ヲ買入レ販賣營業ヲ開始スル以前ニアツテ豫メ先ツ之カ免許ヲ受ケヘキ手續ヲ爲スモノナルニ於テヤ被告等ハ全然之カ手續ヲ爲サスシテ多額ノ酒精ヲ買入レ密賣營業セントスルモノナレハ同法第十條ニ依リ同第五條ヲ適用シ相當ノ罰金ヲ科スヘキモノナルニ原院ハ其事實ヲ認メナカラ無罪ヲ言渡シタルハ疑律ノ錯誤ナリト云フニ在リ○因テ密接スルニ被告等ハ何レモ酒精營業稅法第一條ハ甲乙種ニ屬スル營業免許ヲ受ケサル者ナルニ協同シテ多數ノ酒精ヲ買入レ竊ニ販賣シテ利益ヲ得ント決議シ横濱居留地外國商館ヨリ二回ニ酒精都合百五十箱ヲ買入レ之ヲ東京ニ送り其中若干ヲ被告和吉方ニ儲藏シ餘ハ之ヲ他ニ預ケ置ク中事發覺シタルモノハニシテ未ダ其酒精ヲ販賣スルニ至ラズト雖モ販賣ノ目的ヲ以テ既ニ之ヲ買入レ何時ニテモ買得者ハ需ニ應ジ之ヲ販賣シ得ルハ城ニ達シタルモノナレハ即チ無免許ニテ營業シタルモノト謂ハサル可カラズ稅法第十條但書ニ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵ストアルニ依ルモ本件ノ如キ未ダ賣捌ニ至ラサルモノハ仍ホ無免許營業トシテ

處分不可キハ法意ナルコト知ル可シ然ルニ原院ハ右ノ事實ヲ認メナカラ單ニ販賣ノ目的ヲ以テ酒精ヲ買入レタルニ止マリ未タ販賣ニ着手セサルモノナレハ之カ營業ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス即チ被告事件罪ト爲ラサルヲ以テ第一審裁判所カ無罪ヲ言渡タルハ相當ニシテ原裁判所檢事正ノ控訴ハ其理由ナキニ付之ヲ棄却スレト判決シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ判決ナレハ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ本院ニ於テ破毀更正スヘキモノトス然ルニ原判決ハ右ノ事實ニ關スル證據ヲ明示セサルノミナラス被告等カ買入レタル酒精ノ石數ヲモ示サルヲ以テ本院ニ於テ直チニ判決スルニ由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス

明治二十八年十一月四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○官私文書偽造等詐欺取財ノ件

明治二十八年第一二二四號
明治二十八年十一月五日宣告

○判決要旨

村長及助役ノ職印ハ明治廿三年法律第百號ニ所謂ル公署ノ印ニ包含ス

(參照) 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス(刑法第百九十五條)

刑法中官廳官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印文書及免狀鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印文書及免狀鑑札ニ適用ス(明治廿三年)

第一審 高松地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 上原牧太郎 辯護人 高木祖來

右牧太郎カ官私文書官私印偽造行使官印盜用詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年九月十四日大阪控訴院ニ於テ高松地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴及ヒ檢事ノ附帶控訴ヲ審理シ原判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重懲役九年ニ處シ前發ノ刑輕禁錮一月ト通算ス云々ト言渡タル判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原控訴院檢事長林誠一ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士高木祖來ノ辯論立會檢事應當融ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

被告カ上告ノ要旨ハ原判決中助役山本林太ノ印ヲ公印トシ刑法第百九十五條ヲ適用處斷セラレタルハ不當ナリ村長又ハ助役ノ印ハ職印ニシテ官署ノ印ニアラス然ルヲ前條ニ擬シタルハ

村長助役ノ職印

擬律ノ錯誤ナリ被告ハ國方榮吉ヨリ日當金貳拾五錢ヲ貰ヒ米盛書ヲ石田繁造方ヘ持行タルコトアル而已ニテ本件ニ毫モ關係シタルコトナシト云フニアレトモ○該論旨申村長又ハ助役ハ職印ノ如キハ即チ其職權上使用するハキモハニシテ明治二十三年法律第百號中ニ所謂公署ノ印ニ包含シ居ルコト勿論ナリトス故ニ原院カ前陳法律及ヒ刑法第百九十五條ヲ當行處斷シタルハ相當ニシテ違法ニ非ス其他ハ原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ批難ニアルヲ以テ上告適法ノ理由ナシ』上告趣意擴張書ハ要スルニ上告ノ趣旨ヲ敷衍シ喋々陳述スルニ過キサルヲ以テ更ニ說明ヲ與ヘス』高木辯護士上告趣意擴張ノ第一ハ刑法第百九十五條ノ偽印ヲ使用トアルハ其使用必ス或ル目的ニ向テ使用スルコトナラサル可ラス本件ハ原院ノ認メタル事實ノ如ク必用モナキ場合ニ或ル目的即チ決意モナク交付シタルハトテ是ヲ以テ偽印ヲ使用シタルモノトハ云ヒ難シ然ルニ偽印使用ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ナリト云フニアレトモ○被告カ詐欺ノ手段トシテ該偽印ヲ有用ニ使用シタルノ事實ハ原院文中明カニ判示シアルニ依リ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ』同第二ハ原院公判始末書ヲ閱スルニ後段裁判宣告ノ節ハ開廷ノ事柄ハ記載シアルモ公行ノ記載ナシ即チ公行シタルヤ否ヲ見ルヘキモノナシ要スルニ公行ナキ裁判ト見ルノ外ナシ是レ違法ノ判決ナリト云フニアレトモ○原院公判始末書ヲ查スルニ其冒頭ニ本件ノ審判及ヒ判決言渡ハ之ヲ公行スト明記シアリ而シテ公判始末書ハ刑事訴訟法第二百十條ノ規定ニ從ヒ判決言渡ヨリ三日内ニ書記之ヲ整頓スヘキモノナレハ假令審判數日ニ渉ルモ書記ハ之ヲ一括シテ三日内ニ整頓スレハ足ルモノナルヲ以テ本件ハ審理ト判決ト同日ナラサル

モ其冒頭審判云々ノ記載ニ依リ終始之ヲ公行シタルモノナルコトハ明カナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ

以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十一月五日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○毆打致死ノ件

明治二十八年第九七一號
明治二十八年十二月七日宣告

○判決要旨

檢事ハ非現行犯ノ場合ニ於テ檢證調書ヲ作り及ヒ鑑定書ヲ作ラシムルノ權能ナシ從テ其調書並ニ鑑定書ヲ罪證ニ供シタル判決ハ不法ナリ

第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 須藤文作 辯護人 今村 幾

右文作外一名ニ對スル毆打致死被告事件ニ付明治二十八年七月十日東京控訴院ニ於テ宇都宮地方裁判所カ被告文作ニ對スル罪證十分ナリトシ刑法第三百六十三條末段ニ依リ文作ヲ死刑

檢事ノ檢證調書

ニ處シ被告ツチニ對スル罪證十分ナラストシ無罪ヲ言渡シタル判決ニ對シ被告文作宇都宮地方裁判所檢事山本辰六郎ノ控訴及原院檢事小宮三保松ノ附帶控訴ヲ受理シ審理ノ末原判決ヲ取消ス被告須藤文作同ツチ各死刑ニ處ス被告文作ノ控訴ハ之ヲ棄却ス公訴裁判費用ハ被告兩名連帶ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ服セス被告等ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告兩名辯護士今村幾ノ上告趣意擴張ノ要ハ本件ハ現行犯事件ニアラサルニ檢事カ職權ナクシテ作製シタル檢證調書及ヒ同シク職權ナクシテ命シタル解剖ノ結果タル醫士秋山金也宮原功崇連署ノ鑑定書ヲ本案斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在リ

○依テ案スルニ明治二十七年八月二十九日附田沼分署長友崎乘彬巡查古谷政治カ佐野區裁判所檢事ニ宛タル報告書ヲ視ルニ右ハ若野上村大字作原野上川ニ溺死セルヲ本朝午前七時頃發見セル旨同村大字作原六十一番地須藤清二郎ヨリ同日午後二時頃届出ニ付云々トアリテ本件ハ豫審處分ニ着手シタルハ犯限ヲ行ヒ終リタル際ニアラサルコト明カナレハ現行犯事件ニアラサルコトモ亦明カナリ故ニ檢事ニ於テ假リニタモ豫審處分ヲ爲スハ職權ナキコト勿論ナレハ檢事自非武成ハ檢證調書及ヒ同檢事ハ命令ニ基キ作製シタル醫士秋山金也外一名連署ノ鑑定書ハ無効ナリ此無効ハ書類ヲ採テ原院カ本件斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニシテ本上告論旨ハ原判決ハ全部ヲ破毀スヘキ理由アルモトス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキ理由アルモノト認ムル以上ハ他ノ上告論旨ハ總テ聲明スルノ必要ナシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移送ス

明治二十八年十一月七日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事若田武儀立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治二十八年第一一七一號
明治二十八年十一月七日宣告

○判決要旨

巡查駐在所へ遺失物拾得ノ届出ヲナシタルモノアルトキハ之ヲ領収シテ警察本署又ハ分署へ廻送スヘキモノトス而シテ其未タ廻送ニ至ラサル間ハ當然巡查ノ保管スヘキモノタリ從テ之ヲ竊取シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ論ス

(參照) 官吏自ラ監守スル所ノ金銀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百八) 第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 伊藤直三郎 辯護人 高木益太郎

明治二十八年九月十三日東京控訴院ニ於テ右直三郎カ監守盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ第一審判決ヲ取消シ被告ヲ輕懲役六年ニ處ス公訴費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法ト

巡查ノ監守盜

シ被告ハ上告ヲ爲シ其趣意書ヲ差出シタリ
 大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂ケル處
 被告カ上告ノ要旨ハ刑事訴訟法第二百五十條ニ依リ控訴ノ裁判ニ付テハ渾テ地方裁判所ノ
 第一審ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノナレハ被告人ノ控訴ヲ審理スル場合ニ於テモ刑事訴訟
 法第二百十八條ニ則リ原告官タル檢事ヨリ先ツ被告事件ヲ演述シ然ル後被告人ヲシテ演述ヲ
 ナシシメサル可カラズ原告官ノ演述ナケレハ裁判所ハ其被告事件ヲ知ラズ被告事件ヲ知ラザ
 レハ又之ヲ審理スルニ由ナシ是故ニ檢事先ツ公訴ノ趣旨ヲ演述シ續テ被告人ヲシテ公訴ノ趣
 旨ヲ述ヘシメ之ヲ訊問スヘキモノナリ然ルニ原院ノ審理手續爰ニ出テサリシハ違法ナリト云
 フニ在レトモ○控訴ハ其訴アル者ヨリ先ツ其趣旨ヲ陳述スヘキチ原則トス本案ハ被告ノ控訴
 ニ係ルチ以テ先ツ被告ヨリ其趣旨ヲ陳述スヘキモノナリ故ニ刑事訴訟法第二百五十八條ノ規
 定ハ其元則ニ抵觸セサル所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用スルノ意ナリ因テ原院ニ於テ先ツ被
 告ニ對シ控訴ノ趣旨ヲ陳述セシメタルハ當然ノ事ニ付之レテ違法ナリトノ上告ハ其理由ナシ
 辯護士高木益太郎カ上告辯明書ノ要點ハ遺失物ニ就キ巡査ハ職務章程上監守ノ責アルモノニ
 アラス然ルニ原院ハ上告人カ遺失物ノ竊取ニ付只巡査ノ職ヲ奉シタル原チ以テ監守盜ノ法則
 チ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○巡査駐在所ハ得遺失物ハ届出ヲ爲シ
 タル者アリタルトキハ之レヲ領收シテ警察本署又ハ分署ヘ廻送スヘキモノトス而シテ其領收
 シタル物品金錢等ハ警察本署又ハ分署ヘ廻送スル迄ハ間ハ當然巡査ハ保管スヘキモノナリ然

レハ其保管者タル巡査カ其物品等ヲ竊取シタルニ於テハ刑法第二百八十九條ハ制裁ヲ免カレ
 ルコトヲ得サルハ勿論ナリ故ニ被告カ所爲ニ對シ同法條ヲ適用處斷シタル原判決ハ適當ナル
 チ以テ擬律錯誤ナリトノ上告ハ其理由ナシ
 右ノ如クナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ判決スル左ノ如シ
 本案上告ハ之レヲ棄却ス

明治二十八年十一月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事應當職立會宣告ス

○私書偽造行使及詐欺取財ノ件

明治二十八年第一一八〇號
 明治二十八年十一月七日宣告

○判決要旨

恐喝取財罪ハ被害者ヲシテ畏怖心ヲ生セシムルヲ以テ成立ス而シテ其恐喝ノ
 事實ハ必スシモ直接ナルヲ要セス(判旨第四點)

書類朗讀ノ省畧ニ付テハ檢事ノ意見ヲ徵スルヲ要セス(判旨第七點)

(參照) 刑事ハ被告事件ニ付被告人ヲ訊問スヘシ必要ナル調査其他證據書類ハ書記ヲシ

恐喝取財罪ノ成立○書類朗讀ノ省畧

テ明瞭セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他證憑ノ取調ヲ爲ス可シ若シ被告人ノ自白アリタル場合ニ於テ檢察官原告人ノ異議ナキトキハ他ノ證憑ヲ取調フルニ及ハス

第一審 静岡地方裁判所濱松支部 第二審 東京控訴院

被告人 伊藤豊吉 辯護人 花井卓藏

右私書偽造行使及詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年九月二十五日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理ノ末第一審裁判所カ被告ヲ重禁錮十月罰金十圓監視六月ニ處シタル判決ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ棄却シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢察官ハ答辯書ヲ提出サス

大審院ニ於テ刑訴訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告趣旨ノ要領第一ハ被告ニ於テ池端小作ヨリ白紙委任狀ヲ受領シタリトノ事實ハ小作ノ供述ヲ外ニシ他ニ立證スルノ材料ナキニ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ證據ヲ外ニシテ專ラ情況ニ重キヲ措キタルモノト如シ右ハ證據ヲ明示セサルニ歸スル不法ノ判決ナリト云フニアリ第二ハ本件偽造文書ノ罪體タル白紙委任狀ノ存在セサルコトハ小作カ第一第二ノ豫審調書ニ於テ自供スル處ナルニ原院ニ於テ被告カ之ヲ基本トシテ文書ヲ偽造セシモノト爲シタルハ法律ニ背キ架空ノ事實ヲ認定シタル不法アルモノナリト云フニ在レトモ○諸般ノ證憑ニ心證ヲ實リ事實ノ認定ヲ爲スハ原承審官ノ職權ニ屬スルモノナレハ其認定ニ對スル論難ハ適法上告ノ理由ト爲スヲ得ス

辯護士花井卓藏上告趣意擴張書ノ要旨第一ハ原判文前段ニ「小作ニ對シ金百九十圓ノ預ケ金アリト申懸ケ云々」トアリテ欺罔ノ手段タルヲ認メ其後段ニ至リ「渡瀬源次郎ニ對シ裁判ハ願ツテモ取ルト恐喝シ云々」トアリテ恐喝ノ手段タルヲ認メ判決ノ基本タル事實認定ノ理由ヲ明白ニ表彰セサル不法アルモノニシテ結局理由不備ノ裁判タルヲ免カレスト云フニ在レトモ○其前段ハ犯罪ノ基固タル事實ヲ認メ其後段ニ至リ犯罪成立ノ事實ヲ認メタルモノナレハ原判決ハ理由不備ノ點アルコトナシ其第二ハ假リニ原判決ノ後段ヲ以テ犯罪事實ノ認定ト爲スモ「裁判ニ願ツテモ取ルト」ノ一語ハ未ダ以テ恐喝ノ事實ヲ認定スルノ語辭ト爲スニ足ラスシテ寧ロ欺罔ノ意義ニ解釋スルヲ至當トス然ルニ原院カ本件ヲ以テ恐喝ニ基ケル詐欺取財罪ト判決シタルハ疑律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ノ認メタル事實ニ依レハ恐喝ニ基ケル詐欺取財タルコト明白ナレハ畢竟スルニ右論旨ハ言ヲ疑律ノ錯誤ニ歸リ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルモノナレハ適法上告ノ理由ナシ第三ハ原院ハ本件ニ付現ニ被害者池端小作ヲ恐喝シタル事實ヲ認メヌ又被害者於テ直覺的ニ畏怖ノ念ヲ生シタリヤ否ヤヲ確定セス他人乃チ渡瀬源次郎ヲ恐喝シタリトノ事實ヲ以テ輔ク被害者池端小作ニ對スル恐喝取財ナリト斷定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判文事實理由ハ末段ニ於テ「遂ニ同年四月四日自宅ニ於テ該證書引換ニ源次郎ハ手ヲ經テ小作ヨリ示談金トシテ金二十圓ヲ騙取シタリ」トアリテ其恐喝タルハ直接ニ小作ヲ恐喝シタルモノニアラサルモ小作ニ畏怖ノ念ヲ生シシメ遂ニ示談金トシテ金二十圓ヲ出金スルニ至ラシメタルコトハ判文上自カラ

明瞭ナレハ、原判決ハ、上告論旨ノ如キ不法アルコトハ、其第四ハ、原公判始末書ヲ見ルニ渡瀬源次郎外二名ノ豫審調書ノ或ル部分ニ付裁判長カ摘讀ヲ爲シタル記事アルモ、細田孫平外四名ニ對スル調書ハ、全然省略シテ朗讀ヲ爲サス從テ其意見辯解ヲ徵シタル蹤跡アルコトナシ而シテ、雖ク之ヲ探テ斷罪ノ料ニ供シタルハ、違法アルモノト信ス但シ同公判始末書ニ「裁判長ハ、記録云々ニ付辯解アラハ、辯解スヘク云々」ト告知シタル記事アルモ、右ハ、單ニ摘讀ニ係ル渡瀬源次郎外二名ニ對スル豫審調書ト解釋スヘキヲ至當トス何トナレハ、被告人ハ、讀聞セラレサル調書ニ付辯解ヲ爲シ得ヘキ道ナク、レハナリト云フニ在レトモ、○原公判始末書ヲ閱スルニ、記録ノ朗讀ハ、省略シテ異存ナキヤ、辯護人及ヒ被告ハ、一同ニ異存アリマセメ、裁判長ハ、記録及ヒ前ニ示シタル證據書類ニ付尙辯解アラハ、辯解スヘク云々」トアリテ、其辯解ヲ求メタル記録ハ、渡瀬源次郎外三名ノミノ調書ニアラスシテ、全部ノ記録タルコトハ、前問答ノ文字ヨリ之ヲ讀下シ來レハ、知得スルニ足レリトス而シテ、朗讀省略ノ告知ニ對シ、被告カ異存ナシト答ヘタルハ、畢竟スルニ被告ハ、其書類ノ何事ヲ記録シアルカヲ知悉セシヨリ、斯クノ答ヘヲ爲シタルモノト見做サ、ルヲ得サレハ、其辯解ヲ求メタル記録ハ、朗讀ヲ省略シタルモノヲ除キ、裁判長カ摘讀ニ係ル渡瀬源次郎外二名ノ豫審調書ニ限定セラレタルモノト解釋スルヲ得サルナリ、故ニ原判決ハ、上告論旨ノ如ク、意見辯解ヲ徵セサル細田孫平外四名ノ調書ヲ斷罪ノ證據ニ供シタル不法アルコトナシ、第五乃至第八ハ、要スルニ原院ハ、本件ニ付其朗讀ヲ省略シ置キナカラ直チニ細田孫平外四名ノ豫審調書ヲ探テ罪證ニ供シタルハ、不法ナリ何トナレハ、必要ナル調書其他證據書類ハ、必ス書記ヲシテ

之ヲ朗讀セシムヘシトハ、刑事訴訟法第二百十九條ニ於テ明カニ規定セル所ニシテ、絶テ其手續ノ省略ヲ是認シタル法律アルコトナク、レハナリ、又刑事訴訟法ハ、強行法ニシテ、聽用法ニアラサルコト及ヒ、成文ノ法律ハ、不文ノ例外ヲ認メサルコト若クハ、契約ハ、公法ヲ動カスノ力ナキ等ノ定則ヨリ、論斷スルモ、朗讀省略ノ不法タルコトハ、言ヲ曉タスト云フニ、歸着スレトモ、○本件記録ノ朗讀ヲ省略セシコトニ付、被告人ノ異存ナキコトハ、載セテ原公判始末書ニ明カナレハ、朗讀省略ノ調書ナレハ、トテ、其辯解ヲ求メ之カ反證ヲ提出スルヲ得ヘキコトヲ告知シタル上ハ、之ヲ以テ、斷罪ノ證據ニ供セシモ、違法ノ判決ト云フヲ得ス、第九ハ、右第五乃至第八ノ論旨不相立トスルニ、刑事訴訟法第二百十九條末項ノ律意ニヨレハ、書類朗讀省略ニ付テハ、少クトモ、被告人ノ外檢事ノ意見ヲ徵シ其異議ノ有無ヲ問クヘキ筋合ナリト信ス何トナレハ、刑事訴訟法ニ於テ、公訴事件ニ原被告兩造ノ當事者ヲ認メタル精神ニ反スレハ、ナリト云フニ在レトモ、○書類朗讀ハ、省略ニ付立會檢事ニシテ、若シ意見アレハ、之ニ對シ、異議ヲ陳述スヘキ答ナルニ、本件ニ於テ、檢事カ異議ヲ述ヘタル事蹟アルコトナシ、然レハ、則チ省略ニ付檢事ノ意見ヲ徵シタルコトナシトテ、違法ト云フヲ得ス、

右ノ理由ニ付、刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ、本件上告ハ、之ヲ棄却ス、
明治二十八年十一月七日、大審院第一刑事部公庭ニ於テ、檢事若田武儀立會宣告ス、

○詐欺取財ノ件 明治二十八年第一二三六號
明治二十八年十一月八日宣告

○判決要旨

辯論終結ノ後再ヒ開廷シテ審理不盡ノ點ヲ訊問シ及其辯論ヲ爲サシムルハ法律ノ禁スル所ニアラス(判旨第六點)

供述ノ幾部トハ裁判上探容シタル供述ノ部分ヲ云フ(判旨第十點)

等ノ字ニ二義アリ行文列記ヲ總括スル其一ナリ列記以外ヲ包含セシムル其二ナリ(同上)

第一審 岐阜地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

公訴私訴上告人 井上卯三郎 神谷健次郎

私訴被上告人 山田孝市

右井上卯三郎神谷健次郎カ詐欺取財事件ノ公證及ヒ附帶私訴ニ付明治二十八年十月十一日名古屋控訴院ニ於テ岐阜地方裁判所ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴ヲ審判シ本件控訴ハ之ヲ棄却ス私訴ノ控訴費用ハ控訴人ノ負擔トスト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告二名ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
被告卯三郎ノ上告要旨第一原院ハ被告ノ所爲ニ對シ詐欺取財ヲ以テ論シ其手段トシテ玩弄紙幣賣買ニ事寄セ金員ヲ騙取シタル者トシ有罪ノ判決ハ不法ナリ第二本件第一審裁判所ニ於テ

相被告人包比佐吉ノ親屬中村周治郎ヲ證人ト爲シタル判決ハ違法ナル旨ヲ被告カ原院公延ニ於テ辯明シタルニヨリ中村周治郎ノ證人ヲ除キ判決相成タルモ控訴棄却ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ナリ第三以上ノ事實ニ證人トシテ採用シタル證憑ハ法律ニ背キタルモノナリト云フニ在レモ○中村周治郎ノ豫審調書ヲ檢スルニ被告人等ト刑事訴訟法第二百二十三條ニ記載シタル關係ナキニ付宣誓ヲ爲シタル旨明記シアリテ包比佐吉ト親屬ナリト認ムヘキモノナク又原公延ニ於テ被告カ其旨ヲ辯明シタル事跡モナシ其他單ニ原院判決ヲ違法ナリト云フニ止マリ要スルニ上告適法ノ理由ナキモノトス其私訴判決ニ對スル上告要旨本件第一審判決未タ確定ニ至ラサルハ明白ナルニ原院ニ於テ確定判決ト認メ控訴ヲ棄却シタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○原院判決ニ依レハ被告ハ第一審裁判ニ於テ刑ノ言渡アリタルハ不服ナリト申立タルニ止リ私訴ニ對シ何等ノ申立ナキヲ以テ私訴判決ハ既ニ確定セルモノト認メサルヲ得ストノ理由ヲ以テ控訴ヲ棄却シタルモノナレハ毫モ違法ノ點ナシ其擴張辯明書ノ要旨第一本件第一審ニ於テ審理中立會判事ニ更迭アリタルヲ以テ更ニ取調ヲ爲ス旨ヲ告ケ刑事訴訟法第二百八條第一項ノ訊問ヲ爲シタルモ其第二項ノ手續ヲ履行セス直チニ事實ノ訊問ヲ爲シタルハ違法ナル第一審判決ヲ破毀更正セサル原院判決亦違法ナリト云フニ在ルモ○本件ハ原控訴院ニ於テ正當ノ手續ヲ履行シ第二審ノ判決ヲ爲シタルニ因リ假令第一審公判ノ手續上ニ瑕疵アリトスルモ其判決ニ影響ヲ及ボスヘキモノニ非サレハ之ヲ以テ第二審判決ヲ違法ナリト爲スコトヲ得ス第二ハ上告趣意第二ト同一ナルヲ以テ別ニ說明ヲ與ヘス第三本件ノ事實ニ對シ證人再開廷○供述ノ殘部○等ノ字

永田徳右衛門ノ豫審調書ヲ證據ト爲シタルモ豫審ノ證人中ニ永田徳右衛門ナル人名ナシ然ルニ第一審第二審共ニ永田徳左衛門ヲ徳右衛門ト誤認シ其調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○判文ニ永田徳右衛門トアルハ徳左衛門ノ誤記ナルコト明白ナレハ文字ノ誤記ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス第四第一審判決言渡ノ際裁判長判決主文ノミヲ朗讀シ其理由ヲ背畧シ又其要領ヲ告ケサリシハ違法ナリト云フニ在ルモ○第一審公判始末書ニ裁判長ハ法廷ヲ公開シ別紙判決書ノ主文ヲ朗讀シテ判決ヲ言渡シ其理由ハ口頭ニテ之ヲ告知シタリト記載シアリテ違法ノ點アルコトナシ

被告健次郎ノ上告要旨第一ハ被告卯三郎ノ擴張辯明書第一ト同一ナルヲ以テ別ニ説明ヲ與ヘス第二第一審裁判所ハ明治廿八年六月三日午前本案ノ辯論終結シタル者トシテ道テ判決言渡ス旨ヲ告ケ退廷セシメ午後被告入等ヲシテ出廷セシメ審理洩レタル事由アルニ付再ヒ開廷スル旨ヲ告ケ民事原告人及被告人ヲシテ公訴ノ事實ニ付論争ヲ爲サシメタルノ違法アリ又判決言渡ノ際立會セラレタルハ山下檢事ナルニ判決書ニ柴山檢事立會シタル旨記載シタルハ失當ナリ以上違法ノ點アル原判決ヲ更正セサル原院ノ判決ハ違法ナリト云フニ在ルモ○辯論終結ハ後再ヒ開廷スルコトヲ禁スルハ規定ナキニ因リ其調へ落ハ廉アルヲ以テ更ニ辯論ヲ爲サシメタルハ違法ニ非ス又一審判決言渡ノ際檢事柴山重幸立會シタル旨公判始末書ニ記載シタルニ因リ判決書ト差異アル事ナシ第三ハ被告卯三郎ノ擴張辯明書第四ト同一ナルヲ以テ別ニ説明ヲ與ヘス其私訴判決ニ對スル上告要旨第一前述公訴判決ニ於テ違法アル上ハ其手續ニ因テ言

再開延

渡サレタル返還賠償ノ義務ハ被告カ負擔スヘキ理由ナシ要スルニ私訴判決モ違法ナリ第二私訴判決書ヲ閱スルニ本件ノ事實ハ第一審判決書ニ掲ケタル所ト同一ナルニ付引用ストアリテ第二審判決ニ於テ其事實ノ記載ヲ背畧シタルハ一審ト二審トヲ混交シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在ルモ○前ニ說明スル如ク公訴ノ判決違法ト認ムヘキ點ナク從テ私訴判決モ相當ニシテ違法ノ點ナシ又原判決ハ第一審判決ヲ相當ト認メ其理由ヲ明示シテ控訴棄却ノ旨言渡ヲ爲シタル者ナレハ其事實ノ記載ヲ背畧シタルモ違法ト爲スコトヲ得ス其辯明書ノ要旨第一ハ上告第一論旨ヲ反覆辯明スルニ過キサレテ以テ別ニ説明ヲ與ヘス第二凡ソ玩弄紙幣ナル者ハ出版法ノ禁制物ナルモ夫ノ流通スヘキ若クハ流通ヲ保證スルト云フヘキ紙幣類似ノ印刷物ノ如キハ刑法第百八十二條以下ノ禁制物ニシテ兩者別物タル言ヲ啖タス然ルニ原判文ニ流通スル玩弄紙幣千圓ヲ云々先方カ流通ヲ保證スル云々右玩弄紙幣ノ賣買ヲ承諾セシメ云々トアルハ前述玩弄紙幣ト復造紙幣ヲ混雜シ理由前後錯誤アル違法ノ裁判ナリト云フニ在ルモ○本件ハ被告等ニ於テ山田孝市ニ對シ流通シ得ル玩弄紙幣ヲ賣買スル者アリト稱シ以テ孝市ヲ欺罔シタルモノニシテ其玩弄云々トハ被告等ノ言語ヲ記載シタル者ナレハ毫モ違法ノ點ナシ第三原判決ノ事實ニ依レハ被害者孝市ハ玩弄紙幣賣買ノ不正ノ所爲ナルコト又法律上罰セラルヘキ行爲ナルコトヲ知悉シナカク其不正ノ利得ヲ得ントシテ終ニ被告等ノ術中ニ陥リ財物ヲ詐取セフレタルモノニシテ被害者ノ意思行爲タル法律ノ禁戒ヲ犯シ若クハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取セント圖リテ遂ケサリシモノタルヤ明瞭ナリ然ラハ被告等カ被害者ノ金品ヲ詐取セシ事實ア

リトスルモ道ハ法律ヲ守ラサル者ヲ許害シタルモノニシテ所謂法律ハ法律ヲ守ル者ヲ保護ス
 自己ノ犯罪行為ヲ口實トシテ自己ノ權利ヲ回復セントスル者ハ法律之ヲ保護セストノ法理ニ
 照シ被告等ノ所爲ハ法律ノ羈絆ヲ脱スヘキモノナルニ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ナ
 リト云フニ在ルモ○詐欺取財ノ罪ハ人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタルニ因リ成立スルモノニシテ
 其欺罔手段ノ如何ヲ以テ犯罪ノ成否ヲ判スヘキモノニ非ス被告等ニ於テ玩弄紙幣買即チ不
 正ノ行為ヲ口實ト爲シタルモ既ニ之ヲ以テ被害者ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタル上ハ其詐欺取財
 ノ罪アルヲ論テ俟タス故ニ原判決相當ニシテ毫モ違法ノ點ナシ『第四第一審判決證憑列記ノ部
 ニ』外三郎健次郎供述ノ幾部云々預リ證書等ニ依リ證憑十分ナリトアル幾ノ字等ノ字ハ範圍空
 漠不定ノ語字ニシテ等字中如何ナル證據物件ヲ包含スルカ幾字ハ何ノ部分ヲ證據ニ採用シタ
 ルモノナルカ其明示ヲ關ケル判決ハ不法ナルニ原院判決カ之ヲ更正セザリシハ違法ヲ免レス
 ト云フニ在ルモ○供述ノ幾部トハ其供述中採用スヘキ部分ヲ指稱シタルモノニシテ證憑ハ取
 捨ニ付其如何ナル部分ヲ採用シタルトハ理由ヲ舉示スルヲ要セサルモノトス等ノ字ニ二義ア
 リテ其上文ニ記載セシ數箇ノ物件ヲ總稱スルモノト其上文ニ記載スル以外ノ物件ヲ包含スル
 モハトハ別アリ第一審判決文中預證書等トアルハ其上文ニ列舉セシ被告ハ供述證人ハ調書押取
 ノ證書等數箇ハ證憑ヲ總稱シタルモノニシテ其證憑以外ノ物件ヲ包含シタルニ非サルヤ一讀
 瞭然タリ故ニ第一審判決文違法ハ點ナシ『第五原判決文末段ニ被告等ハ金員證書類ヲ携ヘタル儘逃
 走シタルモノトストノミ單ニ財物ヲ携ヘ逃走セシ事實ヲ以テ騙取ノ所爲ト斷定シタルハ理由

例百第十點

不備ナリト云フニ在ルモ○既ニ被害者ヲ欺キ差出サシメタル金員證書類ヲ携ヘタル儘直チニ
 逃走シタルハ即チ騙取ノ所爲タルヤ明瞭ニシテ理由不備ノ點ナシ第六本件私訴ニ付テハ被害
 者カ進テ法律ノ禁戒ヲ犯シタル行為ヨリ損害ヲ招キタルモノナレハ法律ノ保護ヲ與フヘキモ
 ノニ非ス然ルニ被告等ニ賠償ノ義務アリト判定セラレタルハ不法ナリト云フニ在ルモ○前ニ
 説明スル如ク被告等ニ於テ被害者ノ金圓ヲ騙取シタルモノナレハ其騙取ノ金額ヲ賠償スヘキ
 ハ當然ニシテ私訴ノ判決モ亦相當ナリトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件被告兩名カ公訴私訴ニ對スル上告
 ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴上告ノ費用ハ上告人ノ負擔タル可シ

明治二十八年十一月八日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事安居修職立會宣告ス

○偽造貨幣行使ノ件

明治二十八年第一二四七號
明治二十八年十一月八日宣告

○判決要旨

玩弄紙幣ヲ行使シテ物品ヲ詐取シタル所爲ハ詐欺取財罪ナリトス

第一審 甲府地方裁判所

第二審 名古屋控訴院

被告人 飯島爲政

明治二十八年十月十四日名古屋控訴院ニ於テ右爲政ニ對スル偽造貨幣行使被告事件ノ控訴ヲ
 審理シ本件ノ控訴ハ之ヲ棄却スト旨渡タル判決ヲ不當トシ被告人ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事長
 加納謙ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處上告
 趣意書ノ要旨ハ刑事ニ於ケル被害者タル者ハ尙ホ民事ニ於ケル原告人ト同シク勢自己ノ利害
 ナ計リ被告人ニ對シ不利益ノ陳述ヲ爲スモノナレハ其陳述ハ證據タルヘキ力ナキモノナルニ
 原院於テ被害者タル山田勘次郎ノ口頭届出聽取書及同人ノ告訴狀ヲ採テ斷罪ノ證據ト爲シタ
 ルハ違法ナリト云フニ在レトモ○刑事ニ於ケル證據ニ就テハ法律上之カ制限ヲ爲シタルモノ
 ナキニ付キ苟モ不法ノ證據ニアラサル上ハ其効力ノ有無強弱ヲ識別シテ之ヲ取捨スルハ一ニ
 事實裁判官ノ職權ニ在ルヲ以テ其取捨ニ付キ他ヨリ批難スルヲ得サルモノトス『辯護士上告道
 加書第一ノ要旨ハ原判決ノ事實ニ依ルモ山田勘次郎ハ唐草染木綿賣買ノ約ヲ取結ヒタル際ニ
 於テ既ニ其物品ヲ引渡スヘキ決意ヲ爲シ而シテ之ヲ引渡ニ際シテハ其決意ヲ實行シタルモノ

ナリ然ハ該物品ノ受授ハ詐欺ノ誘導ニ依テ成立シタルモノニアラスシテ真正ノ合意ニ依リ引
 渡シタルニ外ナラス而シテ其代金トシテ支拂ヒタル行爲ハ其引渡ニ伴フヘキモノニシテ物品
 ヲ渡サシムヘキ手段ニアラス故ニ本件ハ物件騙取ヲ以テ論スヘキモノニアラサルナリ抑玩弄
 紙幣ノ行使ハ惡事タル勿論ナリト雖トモ本年法律第二十八號實施以前ニ在テハ之ヲ罰スヘキ
 法律ナシ其之ヲ罰スヘキ法律ナキヲ以テ強テ此惡事ヲ懲罰センカ爲メ詐欺取財ニ引當テント
 スルニ至テハ其失當タル勿論ナリト云フニ在レトモ○原院カ認メタル事實ニ依レハ被告ハ豫
 テ山田勘次郎ナル者ト爲シ置キタル代替物賣買ハ實行ニ際シ惡意ヲ以テ其物品ヲ詐取セント
 企テ玩弄札ヲ以テ真正ハ紙幣ナリトシ之ヲ勘次郎ニ拂渡シテ其物品ハ引渡シ受ケタルモハハ
 レハ則其物品ヲ得タルハ欺罔手段ニ依テ遂ケタルモノニシテ己ニ得タル物品代金ハ支拂ニ付
 キ初メテ詐欺ノ行爲ヲ施シタルモハト同視スルヲ得ス故ニ原院カ之ヲ詐欺取財ノ犯罪トシテ
 處斷シタルハ相當トス『同第二ハ第一審公判始末書ヲ閱スルニ被告人チシテ利益トナルヘキ證
 憑ヲ出スヲ得ヘキコトノ告知ナク又最終ニ被告チシテ供述セシメタルコトノ記載ノ只調書中
 ニ間只今讀聞ケタル書類ニ對シ反證アリキ答反證ハナシトアルモ右ハ警察署ノ聞取書ニ對シ
 テ反證ノ有無ヲ問フタル迄ニシテ刑事訴訟法第九十八條ノ手續ニ違背セルモノナリ然ルニ
 原院ハ右ノ如キ第一審裁判ノ手續ニ瑕疵アルニ拘ラス控訴棄却ノ旨渡ヲ爲シタルハ不法ナリ
 ト云フニ在レトモ○第一審審理手續ニ付テハ假シ上告論旨ノ如キ瑕疵アリトスルモ原院ニ於
 テ已ニ完全ノ手續ヲ盡シテ審理ヲ遂ケタル上ハ今更第一審々理手續ノ瑕疵ヲ以テ原判決ニ對

スル上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト
左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十一月八日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○管掌職務不執行ノ件

明治二十八年第一二五七號
明治二十八年十一月八日宣告

○判決要旨

村役場ノ書記村長ノ命令ニ戻リ村長ニ屬スル責任ヲ盡サ、ル所爲ハ法律上罪

トナラス

(參照) 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタ
ル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第三
條)

第一審 仙臺地方裁判所

第二審 宮城控訴院

被告人 佐藤福之助

辯護人 野澤鶴一

右福之助カ管掌ニ係ル職務ヲ執行セサル被告事件ニ付明治二十八年九月二十七日宮城控訴院
ニ於テ仙臺地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ヨリノ控訴ヲ審理シ第一審判決ハ之ヲ取消ス被告
福之助ヲ輕禁錮十五日ニ處シ罰金二圓五十錢ヲ附加ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト旨渡
タル第二審ノ判決ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ原控訴院檢事長犬塚盛雄ハ答辯書ヲ差出
シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士野澤鶴一ノ辯論立會檢事岩野新
平ノ意見ヲ聽キ遂審理處

上告ノ要旨上告人ハ原判文ニ認ムル如ク未丁年者ニシテ宮城縣宮城郡岩切村役場ノ書記ナリ
シ明治二十五年宮城縣訓令第三十一號第七條ニ行旅人ニシテ云々捨置難キモノアルトキ其地
市町村長ハ相當ノ救護ヲ加ヘ云々トアリテ該訓令ヲ施行スヘキモノハ市町村長ナルヤ明カナ
リ然リ而シテ村役場ノ書記ハ明治廿三年法律第百號ニ依リ官吏ノ例ニ照シ處罰セラルハハ勿
論ナリト雖モ公吏必ス市町村長ノ管掌ニ係ル其責任ヲ有スルモノニアラサルナリ上告人ハ當
時村役場ノ宿直員タリシニ相違ナキモ村長ノ代理者ニアラス又其宿直ハ村長ヨリ命セラレタ
ル職務ヲ帶ヒ居タルモ其職務ハ書記ノ職務内ニ存スルモノニ止マリ町村長ノ職務ヲ當然帶ヒ
タルモノニアラス是レ町村制ノ規定ニ依テ書記ハ町村長ヲ代理スルモノニアラサルヲ以テ明
カナリ去レハ右訓令第三十一號ヲ施行スヘキ任アルモノハ町村長ニシテ書記ニアラサルコト
亦明カナルニ刑法第二百七十三條ヲ適用シテ輕禁錮ノ刑ニ處セラレタルハ一ハ町村制ヲ無視
シ一ハ法律ノ適用ヲ誤リタル不當アリト云フニアリ○茲ニ之ヲ審按スルニ被告ハ村役場書記

權外命令ノ不執行

マ奉職シ同役場ノ宿直員タリシ際曾テ村長ヨリ行旅病人アルトキハ相當ノ所置ヲ爲スヘキ旨
 ノ命ヲ受ケ居リタルニ其命令ニ戻リ相當ノ處置ヲ爲サリシ事實アリトハ原判文ノ認ムル處
 ナレトモ書記カ村長ノ命令ニ戻リ其職務ヲ盡サレハトテ宮城縣訓令ヲ以テ村長ニ命シタル
 行旅病人取扱手續ニ違背シタル廉アリトナシ村長ニ屬スル責任ヲ直ニ之ヲ被告ニ負ハシ
 △ルヲ得可ラサルハ勿論ナリトス故ニ被告ハ所爲ハ職務上怠慢ノ點ナキニ非ラストルモ法
 律上罪トシ罰スヘキモノニアラス然ルニ原院カ被告ニ法律上ノ責アリトシ宮城縣訓令第三十
 一號刑法第二百七十三條ヲ適用處斷シタルハ上告論旨ハ如ク法律ヲ不當ニ適用シタル違法ハ
 裁判タルヲ免レサルモノトス已ニ此點ニ於テ破毀スヘキモノト認メタル上ハ辯護士擴張論旨
 ニ付テハ別ニ説明ヲ與ヘス
 以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第二百八十七條ニ則リ原判決ノ擬律ヲ破毀シ本院ニ於テ直
 ニ判決スルコト左ノ如シ

佐藤福之助

原院カ認メタル事實ニ依ルニ被告ノ所爲ハ罪トナルヘキモノニアラサルヲ以テ刑事訴訟法第
 二百二十四條ニ從ヒ無罪トス

明治二十八年十一月八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十八年第一二七五號
 明治二十八年十一月十二日宣告

○判決要旨

擅ニ保證人ノ名義ヲ記入シ且有合印ヲ押捺シ之ヲ以テ恰モ保證アル借用證書
 ノ如ク作成シ債權者ニ交付シテ物品ヲ詐取シタル所爲ハ詐欺取財罪ナリトス
 偽造ノ借用證書ヲ利用シテ物件ヲ詐取シタル後之ニ對スル利子ヲ辨濟シタル
 事實並ニ元物ヲ返還スルノ意思アリシトスルモ一旦成立シタル詐欺取財罪ヲ
 消滅セシムルヲ得ス

(參照) 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲
 シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四回以上四十回以下ノ罰金ヲ附加ス因テ官私ノ文
 書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑法第三
 第一審 仙臺地方裁判所石巻支部 第二審 宮城控訴院)

被告人 西郡只治 辯護人 沼田宇源太

右只治カ私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年九月二十四日宮城控訴院ニ於テ本
 件控訴ハ之ヲ棄却スト旨渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百
 八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ上告趣意第一點ハ原院ニ於テ被告カ古内千藏外
 一名ヨリ叙一石ヲ騙取シタリト認定シ詐欺取財ノ犯罪アリトセラレタルハ不當ナリ何トナレ

保證名義ノ記入ノ犯後ノ意思

ハ被告ハ借用證書ヲ差入レ債務者トナリ借用シタルモノニシテ爾來數回其利子ヲ拂ヒタルノ
 ミナラス借用證書ヲ差入タル以上ハ被告ノ資産ヲ盡シテ其義務ヲ果タサ、ルヲ得サルカ故ニ
 該證書中保證人高橋長十郎ノ署名押印ハ偽造シタルモノトスルモ私書偽造ノ一罪ニ止マリ詐
 欺取財トシテ處罰セラルヘキ理由ナシ然ルニ原院ハ債權ノ完全ニ成立シタル事實ヲ認めメナカ
 ラ粗一石ヲ騙取シタリトセシハ事實理由ノ顯赫シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ同第二點
 ハ凡ソ犯罪ノ構成スルニハ惡意實害ノ二要素ヲ具備セサル可ラス然ルニ本件ノ事實ニ依レハ
 被告ハ主タル債務者ノ位置ニ立チ且年々利子ヲ拂入レ元粗モ請求ヲ受クルトキハ何時ニテモ
 辨濟スルモノナレハ何人モ實害ヲ受ケタル者ナシ是レ犯罪構成ノ一要素ヲ闕クモノナリ又保
 證人ノ一人ハ被告ノ姪ニシテ他ノ一人ハ被告ノ極惡意ナルヲ以テ最初承諾ヲ得スト雖モ後日
 必ス承諾ヲ得ルコトヲ期シ一時ノ間ニ合セニナシタルモノナレハ決シテ惡意アリタルニ非サ
 ルコト明白ナリ要スルニ本件ハ犯罪構成ニ闕クル所アルヲ以テ原判決ハ法律ニ違背シタルモ
 ノナリト云フニ在リ辯護士沼田宇源太上告趣意擴張書即チ上告趣意第三點ハ凡ソ詐欺取財ニ
 ハ騙取ノ故意アルヲ必要トス故ニ本件ニ於テ詐欺取財ナリト斷定スルニハ必ス自己ニ返濟ノ
 意思ナキ事實ヲ認めメサル可カラズ然ルニ單ニ保證人ノ偽印偽署ヲ以テ詐欺取財ヲ構成スルモノトスル
 シタルモノトスルハ不法ナリ假リニ保證人ノ偽印偽署ヲ以テ詐欺取財ヲ構成スルモノトスル
 モ其場合ハ單ニ保證人ヲ信用シテ取引セシメタリトノ事實ヲ認めメサル可カラズ即チ債權者ノ
 着眼シタルハ債務者其人ニアルヲ將々保證人ニアルヲニヨリテ異ナルモノトス然ルニ原院ハ

此事實ノ斷定ヲ爲サスシテ詐欺取財ト斷斷シタルハ理由ノ不備ヲ免レスト云フニ在リ〇然レ
 トモ原判決ニハ被告ハ(中略)古内千藏及ヒ其長男古内差平ニ保證人付借用證書ニテ粗一石借入
 レ度シト申込ミ其承諾ヲ得右兩人宛ノ其借用證書ニ高橋長十郎沼倉孫治ヲ保證人トシテ記載
 シ其各名下ニハ有合印ヲ押捺シ以テ其偽造ヲ完成シ古内差平宅ニ於テ之ヲ差平ニ交付シ以テ
 粗一石ヲ騙取シタルモノナリトアリ由是觀之差平等ハ保證人付借用證書ヲ差入ルハ於テハ
 粗一石ヲ貸渡スヘキ旨ヲ承諾シタルモノナルニ被告ハ保證人付借用證書ヲ偽造シ真正ナル保證
 人付證書ト詐言シ粗一石ヲ取受シタリトハ下ナルヲ以テ原院ハ貸借契約ハ完全ニ成立タルコ
 トヲ認めタルニ非ス又最初取受シタルハ詐欺ハ手段ニ因ルトキ即チ一旦詐取シタル事實アル
 以上ハ既ニ實害ヲ生シタルモノナレハ假令自己ノ責任アル證書ヲ差入レ及ヒ利子ハ仕拂ヲ爲
 シ且他日元物ヲ辨濟スヘキ意思ナリシトスルモ犯罪構成ニ付テハ何等ハ殺害ヲ生スヘキモ
 ハニ非ス殊ニ保證人付證書ナルニ於テハ貸渡スヘシトハ承諾ヲ爲シタル者ニ對シ偽造證書即
 チ保證人ナキト同一ナル證書ヲ交付スルニ於テハ其惡意タルヲ顯然ナリ且右ノ如キ承諾ナル
 ニ於テハ保證人ヲ目的トシタルモノナルコト亦最モ明瞭ナリトス故ニ原判決ハ一モ不法ノ點
 ナク從テ各上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治二十八年十一月十二日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一二九四號
明治二十八年十二月十二日宣告

○判決要旨

私書ヲ偽造行使シテ詐欺取財ヲ犯シタル所爲ハ二罪牽聯シテ分離スヘカラス
從テ一所爲ニ對スル公訴ノ提起ハ他ノ所爲ニ對スル公訴ヲモ包含ス

第一審 京都地方裁判所宮津支部 第二審 大阪控訴院
被告人 田中仙太郎

右田中仙太郎カ詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年十月四日大阪控訴院ニ於テ京都地方裁判
所宮津支部ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴及ヒ檢事ノ附帶控訴ヲ審判シ原判決ヲ取消シ更ニ詐
欺取財ノ罪ニ對シ被告ヲ重禁錮十月罰金十圓監視六月ニ處ス私書偽造罪ニ對スル公訴ハ受理
ス可カラサルモノトス押収書類中騙取ニ係ル書類三通ハ波多野茂吉ニ其他ハ各差出人ニ還付
スト旨渡シタル第二審判決ヲ不當ナリトシ同控訴院檢事池上三郎ハ公訴不受理ノ事件ニ對シ
被告仙太郎ハ刑ノ旨渡ヲ受ケタル事件ニ對シ各自上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八
十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

檢事ノ上告要旨ハ本案私書偽造行使被告事件ニ對シ起訴アラサルヲ理由トシ公訴不受理ノ判
決ヲ爲シタリト雖トモ本案詐欺取財ノ要素ハ地所賣渡證書偽造行使ニ在リ行使ナクハ詐欺
取財ヲ構成セサルナリ換言スレハ行使即チ詐欺取財ニシテ性質上二者密着シテ分離スヘカラ
ス二者一ヲ缺ケハ犯罪構成ニ要素ナク從テ一所爲ノミ獨立シテ犯罪ヲ構成セサルモノトス故
ニ二者中其一ニ對シ起訴アレハ他モ含蓄スルモノニシテ假令私書偽造行使ノ文詞ナキモ兩ツ
ナカラ起訴アリシモノト論定セサルヘカラス然ルニ第二審ニ於テ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタ
ルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリト云フニ在リ○因テ之ヲ審按スルニ本件被告人ハ地所
賣渡證書ヲ偽造行使シ以テ金圓及ヒ證書類ヲ騙取シタルモノニシテ私書偽造ハ即チ詐欺取財
ハ所爲ニ牽聯シタルモノハナレハ既ニ檢事ニ於テ詐欺取財ハ起訴ヲ爲シタルトキハ其詐欺取財
ハ事實中ニ私書偽造行使ハ所爲ヲ包含スルモノトス然ルニ原控訴院カ私書偽造罪ニ對シ檢事
ハ起訴ナシトノ理由ヲ以テ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタルハ違法ニシテ上告論旨ハ正當ナルヲ
以テ破毀ノ理由アルモノトス而シテ被告カ上告スル所ノ事件ハ數罪俱發ノ關係アリテ其論旨
ノ當否ニ拘ハラズ共ニ破毀スヘキモノナルニ因リ被告ノ上告論旨ニ對シテハ別ニ辯明ヲ與ヘ
ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ本件公訴ノ判決ヲ破毀シ名古屋控訴院
ニ移シ更ニ審判セシム

明治二十八年十一月十二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○恐喝取財ノ件

明治二十八年第三九七號
明治二十八年十一月十四日宣旨

○判決要旨

豫審請求書ハ刑事訴訟法第二十條ノ法則ニ從ヒ所屬官署ノ印ヲ用ヒ年月日場所ヲ記載シテ署名捺印スヘキモノトス而シテ此方式ニ欠缺アル請求書ハ無効ナルヲ以テ法律ハ之ニ依リテ公訴ノ提起ヲ是認スルコトナシ

(參照) 官吏公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカル可シ (刑事訴訟法第二十條一項第)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 吉田金太郎 辯護人 花井卓藏
高木益太郎 羽田彦四郎

右金太郎ニ對スル恐喝取財被告事件ニ付明治二十八年二月二十八日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ受理シ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告辯護人高木益太郎上告趣意辯明書ノ趣旨ハ一件記録ニ基キ被告人松澤文明ニ對スル檢察ノ豫審請求書アリヤ否ヤヲ調査シタルニ豫審判事ヨリ檢察宛ノ通知書アリテ其末尾ニ「了承起訴候也」下ノ六字ヲ記載シアルニ止マリ該起訴狀ニハ檢察局ノ官印ヲ捺捺シアラサルノミナラス檢察ノ官氏名及年月日場所ノ記載ヲ關キタルヲ以テ則チ刑事訴訟法第二十條ニ基キ無効ノ文書ナリト謂ハサルヲ得ス從テ同人ニ對シテ檢察ノ豫審請求アリタルモノト確認スヘカラサルヲ以テ豫審判事力檢察ヨリ適式ノ起訴ナキニモ拘ハラス非現行犯事件ニ付出庭シタル參考人ヲ直チニ被告入トシテ訊問ヲ遂ケタルハ違法ノ處置タルヲ免カレヌ是故ニ右文明ノ豫審判問調書ハ有効ノモノト云フヘカラサルニ原院ニ於テ右調書ニ基キ有罪ノ裁判ヲ下シタルハ法則ニ違反シタルモノナリト云フニ在リ ○依テ記録ニ就キ之ヲ調査スルニ被告松澤文明ニ對スル起訴狀ト認ムヘキモノハ本論旨所論ハ如ク豫審判事ハ通知書ノ末尾ニ「了承起訴候也」下書シ檢事長森藤吉耶ト刻シタル職印ヲ捺捺シアルハミニシテ官印ハ捺捺ナク又年月日場所署名等ハ記載アルコトナシ故ニ此書面ハ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ從ヒ作製スヘキ起訴狀トシテハ全ク無効ハモノト謂ハサルヘカラス從テ同人ニ對スル適式ノ起訴ナキモノナレハ豫審判問調書モ亦無効ナリ然ルニ原院ハ右文明ノ豫審調書ヲ採テ本件斷罪ハ證トセシハ不法ニシテ被告金太郎ニ對スル原判決全部ヲ破毀スヘキ理由アルモノトス既ニ此點ニ於テ全部破毀ノ理由アルモノト認ムル上ハ他ノ上告論旨ハ一々説明スルノ必要ナシ

豫審請求書ノ方式

原判決中被告吉田金太郎ニ對スル全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移送ス

明治二十八年十一月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

〇故殺ノ件

明治二十八年第一〇二四號
明治二十八年十一月十四日宣告

〇判決要旨

法律ハ酒癖者ノ飲酒シタル事實ヲ以テ知覺精神ノ喪失ヲ推測スルコトナシ(判旨第三點)

(參照) 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セス(刑法第七)

證據調ノ許否ハ裁判官ノ特權ニ屬ス(判旨第四點)

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 藤崎常吉 辯護人 齊藤孝治
磯部四郎

右常吉ニ對スル故殺被告事件ニ付明治二十八年七月三十一日東京控訴院ニ於テ千葉地方裁判所カ罪證充分ナリトシ刑法第三百六十二條第一項同第三百五十五條第四十三條第二號ヲ適用シ死

刑ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル銃壹挺ハ之ヲ沒収シ公訴裁判費用ハ被告ノ負擔タルヘキ旨言渡シタル判決ニ服セス被告ノ爲シタル控訴ヲ受理シ審理ノ末本案控訴ハ之ヲ棄却スト旨言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

辯護人齊藤孝治磯部四郎上告趣意ハ原院ハ被告ニ對シ死刑ヲ言渡シタリト雖モ其判決ヲ見ルニ被告カ平素酒癖アル事實及ヒ犯罪行爲アリタル當時ハ飲酒酩酊シ在リタル事實ヲ認メ而シテ其殺害ノ原因ハ父ノ言語ニ對シ不平心ヲ起シタリト云フニ過キサレハ其事實情況刑法第三百六十二條第一項ニ規定セル子カ其父ヲ謀殺故殺シタルモノト自ラ異ナルノミナラス被告ノ所爲ハ謀殺故殺二者孰レノ所爲ナルヤ原院判決文之ヲ知ルニ由ナシ加之ナラス原判決カ死刑ノ言渡シアル法條ノ適用ヲ見ルニ刑法第三百五十五條第二項第三百六十二條第一項ヲ明示シタルニ過キサレニ刑法第三百五十五條第二項ノ規定ハ養子其養家ニ於ケル親屬ノ例ハ實子ニ同シト云フニ止マルモノナレハ養子タル被告ニ對シ死刑ヲ言渡スニハ右法條ノ外尙ホ刑法第三百十四條ノ規定ヲ適用セサレハ判決ノ理由ヲ具備セルモノト云フヘカラスト云フニ在レトモ〇原院判決文ヲ査閱スルニ(前略)一旦同室ナル爐ノ傍ニテ寢臥シタルモ先キニ孫左衛門ノ言語少シク劇シカリシヲ遺憾シ不平心ヲ起シ憤懣ニ堪ヘス忽然同人ヲ殺害セントノ念ヲ生シ直チニ起キ上リ云々トアレハ其殺害ノ念ヲ起シタル事由明白ニシテ且ツ其所爲刑法第三百六十二條ニ謂フ所ノ故殺タルコトモ明瞭ナリ而シテ被告ト孫左衛門ハ養父子ノ間柄ニシテ其親屬ノ例ハ實子ニ同シ

トノ同法第百十五條ヲ適用スル已上ハ第三百六十二條ヲ適用スルニ於テ理由ノ闕如スル處一
 モ之レアルコトナシ故ニ本論旨ハ毫モ上告適法ノ理由ナシ
 被告常言上告趣意ハ本案ハ刑法第七十八條ニ依リ處斷スヘキモノナルニ之ニ反シタル判決ヲ
 與ヘラレタルハ不當ナリト云フニ在レトモ〇原判文ヲ見ルニ被告カ犯罪ノ當時知覺精神ヲ喪
 失シタリトノ事實ヲ認メアラサレハ本趣旨ハ必竟スルニ原院ノ認メサル事實ニ基キ没ニ不服
 ナ唱フルニ過キサレハ上告適法ノ理由トナラス
 辯護人兩名ノ上告趣意擴張第一點ハ原院ノ判決ハ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリ其理由ハ本
 件ノ被告常言ハ平素甚々酒ヲ嗜ミ酩酊スルトキハ粗暴ノ行爲アリトハ原院ノ認ムル所ナリ而
 シテ被告本人ノ辯解ニ因レハ凶行ノ當時ハ多量ノ飲酒ヲ爲シテ知覺ナカリシト云ヒ各證人ノ
 申立ニ因ルニ多量ノ飲酒ヲ爲シタル申立ヲ爲シ居レリ若シモ被告本人辯解ノ如ク飲酒ノ爲メ
 知覺精神ヲ喪失シ因テ是非ヲ辯別セサル者ノ所爲ナルニ於テハ刑法第七十八條ノ宥恕ヲ受ク
 ヘキモノナリトス故ニ原院ニ於テハ辯護人ヨリモ醫師ノ鑑定ヲ請求シタルニ之レヲ採用セス
 シテ酒癖アル事實ヲ認メナカラ知覺精神喪失有無ノ判決ヲ爲サリシハ理由ヲ附セサル不法
 ノ判決ナリト云フニ在リテ〇其趣旨ノアル處甚々明瞭ナラス判決ヲ爲サリシハ理由ヲ附セサル
 附セサルトハ自ラ別問題ニ屬ス故ニ知覺精神喪失有無ノ判決ヲ爲サリシハ理由ヲ附セサル
 不法ナリト云フハ全ク訴訟法上意味ナキ文詞ナリ或ハ原院ノ審理申知覺精神喪失ノ事實有無
 カ一ノ争點トナリタルニ之ニ對シ理由申示セサルハ不法ナリト云フノ意ナラシ乎原院ハ凶

行ノ事實ヲ認メ有罪ノ判決ヲ爲ス已上ハ特ニ知覺精神ヲ喪失セサリシコトヲ示スノ要ナシ又
 或ハ酒癖アル事實ヲ認メタル已上ハ知覺精神喪失有無ハコトヲ特ニ判示スヘキモノナリトハ
 意ナラシ乎法律ハ酒癖アル者ハ飲酒スルトキハ知覺精神ヲ喪失スルモノナリトハ一應ハ推測
 ナモ爲カハルヲ以テ酒癖アル者飲酒シタリトモ果シテ知覺精神ヲ喪失シタルハ否ヤハ全ク事
 實ハ認定ニ屬ス故ニ其事實ナシト認メ有罪ノ判決ヲ爲ス已上ハ特ニ其事實ナキ旨ノ理由ヲ
 附スルヲ要セス且ツ知覺精神ヲ喪失シタルハ否ヤハ全ク事實ノ認定ニ屬スル已上ハ醫師ノ鑑
 定ニ依ルト否トハ全ク原院ノ職權ニ屬ス要スルニ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ其第二點ハ原
 院判決ハ刑事訴訟法第百九十八條ノ規定ニ違背シタル不法ノモノナルヲ以テ同法第二百六十
 八條ニ從ヒ破毀セラルヘキモノト信ス其理由ハ被告人ニ免責ノ立證ヲ爲ス權利アルコトハ勿
 論ナルノミナラス立法官ハ此權利ノ施行ヲ遺忘セシメサルコトニ特ニ注意シ刑事訴訟法第百
 九十八條ヲ以テ當局裁判官ヨリ毎事被告人ニ立證ノ權利アルコトヲ告知スヘシト命令セリ
 蓋シ片歐以テ審理ノ公平ヲ保ツコト難キカ故ナラシ乎是ニ由テ之ヲ觀レハ苟モ被告人若クハ
 其辯護人ヨリ免責ノ立證ヲ爲サント申立ツル已上ハ裁判官ハ悉ク之ヲ排斥スルノ職權ナカル
 可シ他ナシ若シ之ヲ排斥スルノ職權アルモノトセハ前記第百九十八條ノ規定ハ徒法ニ屬スル
 ヲ以テナリ抑本件ノ被告人飲酒度ヲ過キテ知覺精神ヲ喪失スル者ナルハ否ヤノ問題ハ有罪無
 罪ノ相岐ルト點ナルヲ以テ辯護人等ハ被告人ト共ニ被告人ノ心神上ニ酒量ノ及ホス可キ影響
 如何ヲ相當技術家ニ鑑定セシメラシムコトヲ申請シタル事實ハ原院ノ公判始末書ニ徴シテ明

判旨第四點

原ナリ裁判官ハ既ニ差出シタル證據ヲ取捨スルノ全權ヲ有ストハ聞知スル所ナリト雖トモ立
 證ノ途チ遮斷スル職權ヲ有セラルトモノトハ被告人ノ曾テ信セサル所ナリ然ルニ原院ニ於テ
 右立證ノ申請チ排斥セラレタルハ刑事訴訟法第九十八條ノ規定ニ違背シタル裁判ト信シテ
 疑ハサル次第ナリト云フニ在レトモ〇證據ハ必要ナルト否トハ原院ハ職權ヲ以テ定ムル處ナ
 レハ從テ證據調ノ許否モ亦其職權ニ屬ス本論旨ハ右ハ職權ニ對スル不服ナレハ上告適法ハ理
 由トナラス其第三點ハ原院判決ハ無効且違法ノ證據ヲ以テ斷罪ノ具ニ供シタル違法ノ裁判ナ
 リ原院判決ハ有罪ノ證據トシテ藤崎タケ藤崎ヨリノ豫審調書ヲ明示セリ然レトモ此調書ハ無
 効且違法ノモノト云ハサルハカラス刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ依レハ官吏公吏ノ作ル可
 キ書類ニハ其所屬官署ノ印ヲ用ユルコトヲ要シ而シテ若シ之ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於
 テハ其事由チ記載スルコトヲ要シ此規定ニ反スルトキハ其書類ノ効ナキモノナリ今右調書チ
 閱スルニ千葉縣印幡郡和田村米月藤崎常吉宅ニ於テ作成シタルヲ以テ應即チ用ヒストアルニ
 拘ハラス千葉地方裁判所ノ署印捺捺シ在リ然レハ此調書ハ孰レノ處ニ於テ作成セラレタルモ
 ノナルヤ明確ナラサル無効ノモノナリ若シ右記載アルニ拘ハラス官署ノ印チ捺捺シテ違法ニ
 非ストモハ法律ニ於テ官署ノ印チ用ユル能ハサル云々ノ規定ヲ設クルノ要ナク出張先作成ノ
 調書ハ後日ニ於テ官署ノ印チ捺捺シテ可ナルノ結果チ生スルニ至ル然レトモ調書作成ノ場所
 ニ於テ定式ヲ具備スルハ其調書ノ信表力ヲ確然ナラシムルニ要アルヲ以テ官署ノ印チ用ユル
 能ハサル場合ニ對スル特別ノ規定ヲ設ケタルモノナルニ該調書ノ如クナルトキハ官署ニ於テ

作成シタルモノナルヤ出張先ニ於テ作成シタルモノナルヤ正確ナラス其信表力ナキモノナレ
 ハ斷罪ノ具ニ供スヘキモノニ非ス要式ノ不足ニシテ無効チ生スル已上ハ其要式チ不明確ナラ
 シムル事項ノ附加ハ亦無効チ生スルモノト謂ハサルハカラス實ニ附記ノ事實ノ如クナレハ官
 署ノ印ノ存スヘキ理由ナク又裁判所ニ於テ作成セラレタルモノナレハ其場所ノ附記アルヘキ
 理ナク不正確ナル調書ナルニ此無効且違法ノ證據ヲ以テ斷罪ノ具ニ供セラレタルハ違法ト云
 ハサルヘカラスト云フニアレトモ〇藤崎タケ藤崎ヨシノ調書ヲ閱スルニ其末尾云々藤崎常吉
 宅ニ於テ作成シタルヲ以テ下アレハ其作製ノ場所明瞭ニシテ此ノ場合ニ於テ所屬官署ノ印チ
 用非サルモ當然有効ナルモノナレハ偶官署ノ印チ捺捺スルモ爲メニ其調書ノ無効トナルヘキ
 理由アルコトナシ刑事訴訟法第二十條ハ所屬官署ノ印チ用ユヘキ場合ニ之ヲ用非サルトキニ
 無効ノ制裁ヲ附スルモ用非サルモ有効ナル場合ニ之ヲ用ユルトキ無効ナリトノ規定ヲ爲シタ
 ルニアラサルコト明瞭ナリ唯應即チ用ヒスト記載シ而シテ應即チ用非アルハ聊カ不精確ノ嫌
 ナキニアラスト雖トモ此全ク右調書ノ證據力ニ關スル事柄ニシテ之ヲ採ルト採ラサルトハ事
 實審官ノ職權ニ屬シ調書自體ノ有効無効ニハ關係アルヘカラス故ニ本論旨ハ上告適法ノ理
 由トナラス其第四點ハ原院判決カ藤崎幸太郎ノ證言ヲ採テ斷罪ノ具ニ供シタルハ違法ノ裁判
 ナリ其理由ハ原院ハ藤崎幸太郎ノ陳述ヲ採テ斷罪ノ證トセラレタルトモ右幸太郎ノ配偶者シ
 タハ被告常吉カ實父太野長右衛門ノ妹ニシテシケモ長右衛門モ其實父ハ小出五右衛門ナルコ
 トハ別紙證明書ニ明カナリ故ニ證人藤崎幸太郎ハ刑法第百十四條第五ニ所謂父母ノ兄弟姊妹

及ヒ其配偶者ニ該當スルモノニシテ刑事訴訟法第二百二十三條第二ノ法律ニ違ヒタル不法ノ判決ナリト云フニ在リテ
 ○證明書三通呈出スルモ上告審ハ第二審ヲ經由セシ一件記録ニ就キ事實點ニ關シ調査スルコトナキニアラサルモ新タニ呈出スル證據物ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキモノニアラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十一月十四日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一〇八六號
 明治二十八年十一月十四日宣告

○判決要旨

民事原告人トハ裁判所ニ對シテ私訴ノ申立ヲナシタルモノヲ云フ而シテ第三者ニ私訴ノ提起ヲ委任シタル事實ハ未タ以テ民事原告人ト稱スルヲ得ス

第一審 水戸地方裁判所 第二審 東京控訴院
 被告入 町井作之介

右詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年八月二十七日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理ノ末本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不法トシテ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意被告ハ本案竊木賣買ノ事ニ關係セサルコトハ民事原告人始メ他ノ共犯者ニ於テモ皆認ムル處ナリ然ルニ被告ヲ以テ賣買ノ事ニ加功シタル者トナシ詐欺取財ノ共犯者ナリト爲シタルハ事實ニ反シ法則ヲ不當ニ適用シタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○諸般ノ證據ニ因リ事實ヲ推定スルハ法律上承審官ノ職權ニ屬セシメラレタルヲ以テ原院ノ認メタル事實ヲ批難シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス故ニ上告論旨ハ適法ノ理由ナシ

上告趣意擴張ノ要旨刑事訴訟法第二百二十三條ニ於テ民事原告人ハ自己カ請求スル私訴ノ爲メ被告事件ニ付公平無私ノ陳述ヲ爲サルノ恐アルヲ以テ之レカ證人タルヲ禁シタルモノナリ今本件被告事件ニ付川又午之介ハ豫審ニ於テ證人トシテ二回ノ訊問ヲ受ケタリ其第二回ハ明治二十八年五月四日ナリ而シテ同人ハ同日既ニ鹽見辰四郎ニ私訴申立ノ委任狀ヲ交付セリ故ニ第二回ノ訊問ヲ受ケタル際ハ既ニ私訴ヲ爲スコトヲ第三者ニ委任シタル後ナルヲ以テ同日ノ證言ハ證人ノ資格ナキヲ以テ無効ノ證言ナリ然ルニ原院ニ於テ證人川又午之介ノ豫審調查ノ全部ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリ或ハ曰ハン川又午之介五月四日私訴ノ申立ヲ鹽見辰四郎ニ委任シタルコトハ當日豫審判事ニ知レサル所ナルヲ以テ豫審判事ハ之ヲ證人トシテ取調ヘタルモノナレハ其調書ハ形式上有効ナリ從テ公判ニ於テ之ヲ證人ノ證言トシテ採用スルモ

亦々無効ニアラスト然レトモ此説甚々誤レリ何トナレハ刑事訴訟法第二百三條ハ立法者ニ於テ私訴ノ請求ヲ爲スモノハ公平ヲ圖クモノト爲シ斷然之カ證言ヲ排斥シタルモノナレハ既ニ其私訴ノ申立ヲ爲スコト他人ニ委任シタル後ハ其陳述ハ之ヲ證言トシテ採用スヘカラサルヤ明了ナリ故ニ假令豫審ニ於テ私訴ヲ委任シタル事實ヲ知ラスシテ之ヲ證人トシテ取調ヘタリトスルモ公判ニ於テ其取調ノ際既ニ私訴ノ申立ヲ委任シタル事實一件記録ニ於テ明確ナル以上ハ之ヲ證言トシテ採用スヘカラサルヤ亦明ナリト云フニ在レトモ○法律上民事原告人ト稱スルモノハ裁判所ニ對シ私訴ハ申立ヲ爲シタルモノハ云フ而シテ本案訴訟記録ヲ查閱スルニ川又午之介カ裁判所ニ私訴ハ申立ヲ爲シタルハ明治二十八年五月九日ナリ故ニ同年五月四日午之介カ豫審ニ於テ證人トシテ第二回ハ訊問ヲ受ケルハ同日既ニ第三者ニ私訴申立ハ委任ハ爲シタルニモセロ之ヲ以テ未ダ法律上所謂民事原告人ト稱スヘキモノニアラス從テ午之介カ第二回ハ豫審調査ハ刑事訴訟法第二百三條ニ違背セルモノト云フヲ得サルモノトス故ニ原院カ其調査ヲ採テ本案斷罪ハ資料ト爲スモ違法ハ判決ニアラス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ照シ本案上告ヲ棄却ス

明治二十八年十一月十四日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一一八六號
明治二十八年十一月十四日宣告

○判決要旨

控訴申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘキ法則刑事訴訟法第二百五十四條ハ主タル

控訴ニ適用スヘキモノヨシテ附帶控訴ニ適用スヘキモノニアラス

(參照) 控訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出ス可シ(刑事訴訟法第二百五十四條一項)

控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得(控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控

訴ヲ爲スコトヲ得(刑事訴訟法第二百五十九條)

第一審 浦和地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 伊藤惣次郎 辯護人 鈴木豊次郎

右詐欺取財被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年九月十七日東京控訴院ニ於テ審理ノ末公訴ニ付テハ原判決中被告惣次郎ニ關スル部分ヲ取消シ更ニ同人ヲ重禁錮三年罰金二十圓監視六月ニ處スト言渡シ私訴ニ付テハ本件控訴ハ之レヲ棄却ス控訴費用ハ控訴人ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

公訴上告ノ要旨ハ本件ハ借用金ノ證書ヲ差出シテ金員ヲ借受ケタルモノニシテ竊モ罪ト爲ル可キ罪證ナキニ原院カ詐欺取財ノ罪アリトセラレタルハ不法ナリト云フニ在リテ○原院カ諸

控訴申立書

般ノ證據ニ心證ヲ資リ以テ事實ヲ認定シタルニ對シ漫ニ不服ヲ訴フルニ止マリ上告適法ノ理由ナシ

私訴上告ノ要旨ハ私訴ノ請求ハ被告カ毫モ覺ヘナキ金八十圓ノ證據ヲ被告ノ債務ニ合算シア
ルハ不當ノ請求ナルヲ以テ此請求ニ應スルノ義務ナシ然ルニ原院カ不當ニモ被告ノ負擔ニ歸
セシメタルハ最モ不法ノ判決ナリト云フニ在リテ○是レ亦原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ
非難スルニ過キス上告適法ノ理由ト爲ラス

上告趣意聲明ノ要旨第一點ハ原判決理由中ニ告訴人タル鯨井留五郎ノ住所ヲ記スルニ「茨城縣
北足立郡石立村」トシテ「埼玉縣北足立郡石戸村大字高尾」ト記載セサルハ違法ナリト云ヒ其第二
點ハ私訴判決謄本中鯨井留五郎ノ住所ヲ記スルニ當リ「大字高尾」ト云フヲ記入セサルハ國點ナ
リト云フニ在レトモ○右被害者ノ住所ノ如キハ毫モ本案ニ關係ヲ及ホス可キモノニ非サルヲ
以テ多少誤記等アルモ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス「辯護士鈴木豐次郎カ上告趣意擴張ノ要旨
第一點ハ附帶控訴ニ付テモ刑事訴訟法第二百五十四條ニ從ヒ其中立書ヲ差出ス可キニ本件原
院檢事ノ附帶控訴ニ付テハ其中立書ナシ然ルニ原院カ此附帶控訴ニ依リ第一審ノ判決ヲ被告
ノ利益ニ變更シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○右刑事訴訟法第二百五十四條ニハ控訴
ヲ爲スニハ其中立書ヲ原裁判所ニ差出ス可シトアリテ同條ハ主タル控訴ニ限ルハ規定ナルニ
ト言ハテ、故ニ原院カ檢事ハ口頭申立ニ係ル控訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ變更シタル
ハ決シテ違法ニ非ス」其第二點ハ檢事ノ附帶控訴ニハ申立書ヲ要スルコトナシトスルモ原判決

ハ違法ナリ何トナレハ檢事ノ附帶控訴ハ被告ヲ重禁錮三年ニ處セラレタリト云フニ止マリ第
一審判決ノ重禁錮十月ニ附加スル罰金十圓監視六月ニ付テハ何等ノ申立ナキニ原判決ハ重禁
錮ノ刑期ヲ延長セシメタルニ止マラス罰金ヲ二十圓ニ増加シタルハナリト云フニ在リ○因テ
原院公判始末書ヲ査閱スルニ「檢事曰御訊問ニ先キタテ被告カ原裁判ノ全部不服ニテ控訴シタ
リト申立ル上ハ本職ヨリモ附帶控訴ヲ爲スナリ其理由ハ(中略)原判決ハ被告ニ對シ僅カニ重禁
錮十月ニ處シタルハ其所爲ト刑期ト權衡相合ハス故ニ此被告ニ對シ重禁錮三年ニ處斷アリ度
本職ヨリ附帶控訴ヲ爲ス所以ナリトアリテ其重禁錮三年ニ處セラレタリトハ檢事カ附帶控訴
ヲ爲スノ一理由ニシテ該附帶控訴ハ被告カ主タル控訴ト同シク第一審判決ノ全部ニ對スルモ
ノナルコトハ前掲ノ如ク本職ヨリモ附帶控訴ヲ爲スナリト一般ニ陳述シ別ニ制限ヲ加ヘアラ
サルニ依テ明白ナリトス故ニ原判決カ第一審判決ニ比シ刑期金額ヲ共ニ増加シタルハ違法ニ
非ス」其第三點ハ原判決ハ其理由冒頭ニ「被告ハ木下福次郎外三名ト共謀シ鯨井留五郎ヲ欺罔シ
金二百三十圓ヲ騙取シタリト斷シ次ニ其願末ヲ細叙シテ先ツ右福次郎ハ留五郎ト職合ヒナル
ヲ以テ云々金五圓借受度旨申欺キ金五圓ヲ騙取シ續テ被告ハ前後三回ニ金四十五圓百圓八十
圓ヲ騙取シタルモノナリト認定セリ此ノ如ク一方ニ被告ハ金二百三十圓ヲ騙取シタリトシ他
ノ一方ニハ内金五圓ハ木下福次郎カ騙取シタルモノニシテ爾後ノ二百二十五圓ハ被告カ同人
等ト共ニ騙取シタルモノト爲セシハ事實理由ノ阻斷ニシテ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ
○右金五圓ハ木下福次郎カ單獨ニ騙取シタルモノト認メタルニ非スシテ被告等五名共謀ノ上

騙取シタリト認メタルモノナルコトハ辯護士カ陳述シタル如ク原判決理由ノ冒頭ニ被告ハ木下福次郎外三名ト共謀シ銀井留五郎ヲ欺罔シ數回引續キ金貳百參拾圓ヲ騙取シタル者トアルニ依テ明白ナリトス故ニ原判決ノ理由ニ阻斷アリト論スルコトヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件公訴私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

明治二十八年十一月十四日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○放火ノ件

明治二十八年第一二〇六號
明治二十八年十一月十四日宣告

○判決要旨

清野者ノ供述ヲ參考トシテ徵憑ニ採容スルハ法律ノ禁スル所ニアラス

(參照) 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考

ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得(刑事訴訟法第百二十三條第)

左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ(刑事訴訟法第百二十四條第)

第三、清野者(同條第)

第一審 福岡地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 中園鶴吉

右放火被告事件ニ付明治二十八年九月二十一日長崎控訴院ニ於テ檢事ノ控訴ヲ審理ノ末原判決ヲ取消シ被告鶴吉ヲ有期徒刑十二年ニ處ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意第一點原判決中被告鶴吉ハ云々同夜十二時過キ頃イ子方家族ノ熟睡ニ乘シ同家ヲ忍ヒ出テ石炭油ニ浸シタル竹ヲ其ノ隣家ナル村田茂作居室ニ接近スル小家ノ軒ニ挿ミ之レニ摺付木ヲ以テ火ヲ點シ燒燬ニ至ラシメタリト云フニアレトモ此レハ唯々判官ノ認定何ニ依テ斯ノ如キ事實ヲ證明スルヲ得ンヤ證據ノ採否ハ如何ニ裁判官ノ職權内ニアリト云フモ以上ノ事實ヲ舉證ス可キ證據悉モ無之ヲミナラス第一審廷ニ於テ參考人竹家イ子及ヒ其家族等カ供述シタル調書ニ依リ被告カ同夜中外出セサルコトハ事實明確ナルニ法則ヲ不當ニ適用セラレシハ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○原院ハ原判決ニ列記セル諸般ノ證據ニ據リ事實ヲ推定シタルモノナルハ該判文ニ於テ明瞭ナリ此點ハ要スルニ承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ判斷事實ヲ推定ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ適法上告ノ理由ナシ

其第二點原院ハ安武茂四郎ノ豫審調書ヲ取テ證據トセラレタルモ右茂四郎ノ如キハ清野者ニシテ無能力者タルノ供述ナリ然ルヲ以テ斷罪ノ證據トセラレタルハ違法ナリト云フニ在レトモ

○原院ハ該判文ニ於テ明瞭ナリ此點ハ要スルニ承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ判斷事實ヲ推定ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ適法上告ノ理由ナシ

書トシテ探リタルニアラサルノミナラス豫審ニ於テモ固ヨリ参考人トシテ取調ヘタルモノナ
リ而シテ法律ハ暗喑者ニ對シテモ参考人トシテ其陳述ヲ聽クコトヲ許シタルモノナレハ原
院カ之ヲ探テ徹底トナシタルモ決シテ不法ニアラス

其第三點原院ハ被告ニ利益トナルヘキ證據提出方ヲ告知セサルノミナラス最終ノ辯論ヲ與ヘ
サリシハ是亦刑事訴訟法ニ違背スル判決ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ查閱ス
ルニ間利益トナルヘキ證據アラハ差出スコトヲ得ヘシト明記シアリ而シテ辯論ノ最終ニ被告
ノ陳述ヲ記載シアリ故ニ原判決ハ毫モ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ照シ本案上告ヲ棄却ス
明治二十八年十一月十四日大審院第一刑事部公延ニ於テ岩田武儀立會宣告ス

○謀殺及毆打創傷ノ件

明治二十八年第一二二〇號
明治二十八年十一月十四日宣告

○判決要旨

現行犯ノ場合ニアリテハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以
テ公訴ヲ受理シタルモノトス(判旨第二點)

(參照) 豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アル
コトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タズ直ニ其旨ヲ
通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得
豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ノ規定ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スコトヲ得
(刑事訴訟法第
百四十二條)

前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理
シタルモノトス其調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルコトヲ記載ス可シ(刑事訴訟法第百
書類朗讀ノ省略ニ就テハ檢事ノ意見ヲ徵スルヲ要セス(判旨第五點)
被告人無筆ニアラサルニ判事ノ問ニ對シテ無筆ナル旨ヲ答ヘタルトキハ書記
ヲシテ其氏名ヲ代署セシムルモ不法ニアラス(判旨第六點)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 西尾政吉 辯護人 花井卓藏
兄玉一英

右謀殺及ヒ毆打創傷被告事件ニ付明治二十八年十月二日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理
ノ末東京地方裁判所カ被告ヲ死刑ニ處シタル判決ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ棄却シタル判決ニ對
シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢事長ハ答辯書ヲ差出サス
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

現行犯ノ公訴○書類朗讀ノ省略○氏名ノ代署

上告ノ趣旨ハ原院ハ被告カ謀殺ヲ爲サル事實ニ對シ死刑ヲ言渡シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ被告カ謀殺ヲ爲シタル事實ヲ認メ之ニ相當スル法條ヲ適用シ死刑ノ判決ヲ與ヘタルモノナレハ原判決ハ毫モ違法ノ廉アルコトナシ

辯護士兒玉一英上告趣意擴張ノ要ハ本件ハ豫審ノ提起不明ニシテ完全ニ訴ノ提起アリタルモノニ非ス何トナレハ本案ノ如ク豫審判事カ檢事ノ公訴ヲ待タス直チニ豫審ニ着手シタル場合ニ於テハ豫審判事ハ檢事ニ其旨ヲ通知スヘキモノナルコトハ刑事訴訟法第四百十二條ノ規定スル處ナリ然ルニ此手續ヲ爲サ、リシハ不法ナリト云ハサルヘカラス而シテ檢事ハ豫審判事カ豫審ニ着手シタル日即チ本年五月十八日付ヲ以テ豫審請求書ヲ差出シタルモノ、如ク裝ヒアリト雖トモ其請求書ニ云フ所ノ證據書類目ヲ見ルニ石切斧壹挺小刀壹本トアリテ其受付ノ日ハ二十八年五月二十日トアリ而シテ該證據物ハ豫審判事カ臨檢ノ際押収セラレタルモノナルコトハ檢證調書ニ明記シアルヲ以テ見レハ檢事ハ豫審判事カ五月十八日犯所ニ於テ押収ノ手續ヲ爲シ後二十日ニ至リ集治監ヨリ該物件ヲ檢事ニ送付シタルヲ以テ初メテ此證據目錄ヲ添ヘ豫審請求書ノ日付ヲ溯ラセ十八日トシテ送致シタルモノト云ハサルヘカラス故ニ該豫審請求書ハ當然無効ノモノニシテ本件ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理セラレタルモノナリト云フニ在レトモ○本件ノ檢證調書ヲ閱スルニ東京集治監ヨリノ電話ニ依リ豫審判事安藝哲三郎カ犯所ニ臨檢シタルハ檢事太田義顯ト同行シタルモノニシテ此場合ニ於テハ刑事訴訟法第四百十二條ノ規定ニ依リ豫審判事ハ豫審ニ取掛ルヘキ旨ヲ檢事ニ通知スルハ要ナキモノトス而シテ檢

事ハ起訴ナシト雖トモ豫審判事カ檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノト爲スコトハ同法第四百十三條ノ規定スル處ナレハ明治二十八年五月十八日付豫審請求書ニシテ假令上告論旨ハ如ク不完全ハ處アリトスルモ爲メニ本件公訴ハ受理不受理ニ付毫モ影響ヲ及ボスヘキ所レハ、ア、ラ、サ、レ、ハ、上、告、論、旨、ハ、總、テ、適、法、ハ、理、由、ナ、キ、モ、ハ、ト、ス

辯護士花井卓藏上告趣意擴張書ノ第一乃至第四ノ要ハ原院カ本件ニ付證據トシテ採容シタル調書並ニ書類ノ朗讀ヲ省略シタルハ不法ナリ何トナレハ必要ナル調書其他證據書類ハ必ラス書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシトハ刑事訴訟法第二百十九條ニ於テ明ラカニ規定セル所ニシテ絶テ其手續ノ省略ヲ是認シタル法條アルコトナクレハナリ又強行法ノ規定ハ聽用法ノ規定ト異ナルコト成文ノ法律ハ不文ノ例外ヲ認メストノコト及ヒ契約ハ公法ヲ動カスノ力ナシトノコト等ヨリ觀察スルモ書類省略ノ違法ナルコトハ明晰ナリト云フニ歸着スルモ○原院裁判長ハ本件ニ付證據トナル處ノ記録ノ要部ヲ摘讀シ訊問ヲ爲シ之カ辯解ヲ求メ右ニ付意見アラハ申立ヨト告示シタルコトハ載セテ原公判始末書ニアルノミナラス尙ホ裁判長ハ被告及ヒ辯護人ニ於テ本件ニ付證據トナル處ノ記録ハ總テ朗讀セシメサルモ意見ナキヤト問ヒ被告並ニ辯護人ハ異存ナシト答ヘタルコトハ同始末書ニ明載シアレハ原院カ書類ノ朗讀ヲ省略シタル調書等ヲ以テ本件斷罪ノ證據ニ供セシトテ不法ノ判決ト云フヲ得ス第五ハ右第一乃至第四ノ論旨不相立トスルモ書類朗讀ノ省略ニ付テハ少クモ被告人ノ外檢事ノ意見ヲ徵シ其異議ノ有無ヲ聞クヘキ筋ナルニ原院ハ一方ノ被告人ニノミ意見ヲ聞キ他方ノ原告官ニハ意見ヲ徵セス

判旨第五點

直チニ其手續ヲ省略シタルハ結局原被兩造ノ當事者ヲ認メタル刑事訴訟法ノ精神ニ反スル者ナリト云フニ在レドモ○立會檢事ニ於テ朗讀ハ省略ニ異議アリハ其意見ヲ陳述スヘキ答ナルニ其陳述ナキヲ見レハ會テ異議ナカリシコトヲ知ルニ足レリ故ニ原院カ朗讀ハ省略ニ付檢事ハ意見ヲ徵セサリシトテ違法ト云フヲ得ス第六ハ本件受命判事小林義夫カ開庭前ニ於テ被告ハヲ訊問シタル調書ノ末尾ニ「本人無罪ニ付書記代書シ捺印セシム」ト記載シ書記代リテ其氏名ヲ代筆セリ然ルニ被告本人ノ豫審調書ニハ一々自ラ其名ヲ署シタル事跡明白ナリ抑モ本件ニ付被告本人ノ無罪ニアラスシテ署名セサルハ訊問並ニ供述ノ事柄ヲ承諾セサルカ然ラザレハ訊問並ニ供述ノ事實ナカリシモノナラン要スルニ原院ハ此點ニ付刑事訴訟法第二百三十七條ノ式ヲ適法ニ履行シタルモノニアラス從テ原判決ハ同法ニ依違セシテ直ニ審判ヲ爲シタル不法アルモノナリト云フニ在レドモ○原院受命判事カ作成シタル被告ハ訊問調書ヲ閱スルニ朗讀ミ書キヲ爲シ得ルハ答出來ズトアリ然ラハ則原院受命判事ハ此答ニ基キ書記ヲシテ代署セシムタルモノハナルヘケレハ書記ノ代署ヲ以テ違法ノ調書ト云フヲ得ス從テ原判決ハ刑事訴訟法第二百三十七條ノ式ヲ履行セス直チニ審判ヲ爲シタル不法アルモノニ非ス第七ハ第一審裁判所ハ被告ノ豫審調書被害者三名ニ對スル醫師ノ鑑定書ヲ摘示シ其意見ヲ徵シタル事跡アルモ其他ノ書類ニシテ斷罪ノ料ニ供シタルモノ全體ニ涉ラス然ルニ原院ハ此違法ヲ看過シ被告ノ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レドモ○第一審ノ審理手續ニシテ眞シ上告論旨ノ如キ概統アリシトスルモ第二審ニ於テ適式ノ手續ヲ履行シ審理ヲ爲シタル上ハ第一

判旨第六點

審判決ヲ取消スノ要ナシ故ニ原判決ハ不法ニアラス右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十一月十四日大審院第一判事部公延ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○毒殺未遂ノ件

明治二十八年第一二九八號
明治二十八年十一月十五日宣告

○判決要旨

甲者乙者ヲ殺サント謀リ毒藥ヲ酒中ニ投入シタルニ乙丙諸人誤テ之ヲ飲用シ中毒症ヲ發シタレトモ飲量少キ爲メ死ニ至ラザリシ事實ハ刑法第二百九十八條ニ所謂謀殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル罪ノ未遂犯ナリトス而シテ其主タル被害者乙者ノ併セテ害ヲ被リタルト否ハ毫モ同條ノ適用ニ影響ヲ及サス

(參照) 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス(刑法第二百九十三條)

謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺故殺ヲ以テ論ス(刑法第二百九十八條)

第一審 安波津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告入 若林一耶 辯護人 鳩山和夫 羽田彦四郎

謀殺

右毒殺未遂被告事件ニ付明治二十八年十月二十五日名古屋控訴院ニ於テ本件控訴ハ之ヲ棄却
 スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ及ヒ本院檢事ヨリ付帶上告ヲ爲シタルニ付刑
 事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意書ノ要旨ハ被告ハ決シテ彌惣兵衛ヲ殺害スル如キ意思アリタルニ非ス又決シテ班猫
 ヲ酒中ニ投入シタルコトナシ然ルニ原院ニ於テ事實審究ノ粗漏ナリシハ不法ナリ假リニ原院認
 定ノ如キ事實ナリトスルモ殺意アリトノ點ハ更ニ無之被害者ハ僅ニ三日乃至四日位ノ痛苦ニ
 止マリ藥品ハ單ニ被害者ノ健康ヲ害シタルニ過キサレモノナレハ刑法第三百七條ニ依リテ處
 罰スルハ格別ナルモ刑法第二百九十三條ニ問難スヘキモノニ非ス故ニ原判決ハ擬律錯誤ノ不
 法アリト云フニアリ○然レトモ原判文ニハ「被告ハ彌惣兵衛ヲ殺害セシコトヲ決意シ同日點燈
 頭庫ヲ自宅ノ藥局ニ貯ヘアリシ人ヲ死ニ致スニ足ルヘキ芫菁ト稱スル毒藥量三分程ヲ彌惣兵
 衛カ飲料ニ供スル目的ニテ買求メ當時被告方壺所ニ差置アリシ酒二升ヲ入レタル樽中ヘ密ニ
 投入シ同人ノ飲用セシメテ期シタリ而シテ彌惣兵衛ハ毒ノ投入シアルコトヲ知ラス右二升入
 ノ酒樽ヲ自村ノ別宅ニ持歸リ同月十四日夜同村榎本繁次郎ト共ニ各一合半位宛會飲シ(中略)孰
 ノモ二三時間ヲ經テ中毒症ヲ發シタルモ其飲量ノ少リシ爲メ死ニ至ラザリモノナリトアリテ
 原院ハ被告カ彌惣兵衛ヲ殺サントスル決意アリテ之ヲ殺スニ足ルヘキ毒藥ヲ酒中ニ投入シ而
 シテ彌惣兵衛等ハ之ヲ飲ミタルモ其飲ミタル分量ノ少ナキカ爲メ死ニ至ラザリシ事實ヲ認メ
 タルモノナリ抑モ事實ノ認定ハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ上告裁判所ニ向テ之カ當否ヲ論難

スルヲ得ヘキモノニ非ス而シテ上告論旨ノ前段ハ全ク事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス其後段
 ハ本件ノ事實ヲ以テ原院カ認定シタル以外ノ事實トナシ之ニ對スル法律ノ適用ヲ論スルニ在
 リ果シテ上告論旨ノ如キ事實ナルニ於テハ原院ノ擬律其當ヲ得サルヘキモ原院ノ認メタル事
 實ニ對シテ毫モ不當ノ點ナク從テ該上告論旨ハ適法ノ理由アリトスルヲ得ス

辯護士羽田彦四郎上告趣意書ノ要旨第一ハ刑法第二百九十三條ノ犯罪ヲ構成スルニハ毒
 藥其物ハ必ズ人ヲ死ニ致スヘキ分量ヲ用ユルニ非ザレハ不可ナリ而シテ未遂罪ハ毒殺ヲ爲ス
 ニ足ルヘキ手段ヲ施シタルモ他ノ障礙ノ爲メニ其目的ヲ達セサルトキニ構成スヘキモノナル
 コト當然ナリ然ルニ本件ハ藥品其物ハ人ヲ死ニ致ス丈ケ分量ヲ用非タルニ非スシテ單ニ健康
 ヲ害スルニ止マル丈ケノ分量ニ過キサレコトハ原院カ斷罪ノ證據ニ供シタル鑑定書ニ依リテ
 明瞭ナリ加之被告カ當時所持セシ芫菁ハ八分ニシテ内四分ハ之ヲ「バツポー」ニ用イ殘品ノ二分
 ハ現存ノ上證據トナリ而シテ之ニ試驗ニ用イタル量ヲ加ブレハ殆ト殘品ナシ左スレハ所有ノ
 芫菁中ヨリ酒中ニ投入シタリトスルモ頗ル少量ナラサル可ラス何レノ點ヨリスルモ犯罪ノ物
 件ニ毒殺上ノ能力ヲ有セサルコト明カナリ殊ニ原院カ採用シタル中毒屆書ニ依ルモ犯罪ヲ構
 成スヘキ能力ナキ物件ナルコト明ナリ況ンヤ被告ハ被害者ヲ死ニ致スヘキ惡意アリタルニ非
 サルコト然ルニ原院カ此行爲ニ對シテ刑法第二百九十三條等ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ判決
 ナリト云フニ在リ○然レトモ此論旨ハ結局前項ノ論旨ト同一ニシテ原院カ認メタル事實ヲ非
 難スルニ過キス則チ原院ハ本件ヲ以テ毒殺未遂ノ事實ナリトシ之ヲ明示セシコトハ前項ニ於

テ辯明セシ所ノ如シ故ニ原判決ハ擬律上錯誤アリト謂フヲ得ス同第二點ハ本件被告事件ニ付
 檢事ヨリ豫審ノ請求ヲ爲シタルトモ被告入ニ對シテ拘留狀ヲ發セス直チニ安濃津監獄ニ拘
 禁セラレ被告トシテ取調ヲ受ケタル者ナリ凡ソ禁錮以上ノ刑ニ相當スヘキ犯罪者ニ對シテハ
 拘留狀ヲ發シテ監禁スルハ刑事訴訟法ノ規定スル所ナリ則チ本件ハ法律上ノ手續ヲ履行セス
 シテ豫審決定ヲナシ公判ニ付シ判決ヲ與ヘタルモノナレハ原判決ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ
 タル被告事件ニ對スルモノニシテ全部無効ナリト云フニ在リ○然レトモ一件記録ノ目錄ニハ
 明ニ拘留狀ノ表示アリ且之ニ該當スル枚數ノ處即チ一三二枚ト一三四枚トノ間及ヒ二四八枚
 ト二五〇枚トノ間各一枚ノ不足アルヲ以テ既ニ拘留狀ヲ發シタル事蹟ノ推知スヘキモノアル
 ノミナラズ假令全ク拘留狀ヲ發セザリシモノトスルモ之カ爲メ一旦提起シタル公訴ノ無効
 ナルヘキ理ナキヲ以テ原院カ此公訴ニ對シ判決ヲ下シタルハ決シテ不法ト云フヲ得ス同第三
 點ハ被告カ所持セシ莖菁ハ八分ニ過キサルコト明瞭ニシテ其八分ヲ使用セシ始末ハ第一點ニ
 付キ説明セシ如クナルヲ以テ三分ノ量ヲ酒中ニ投入シ得ヘキ謂ナシ加之一件記録中被告入カ
 三分程ヲ投入シタルト云フ事實ナシ凡ソ毒物ノ分量ノ多サハ被告事件ニ付キ重大ナル關係ヲ
 有スルモノナルニ其取調ノ不十分ナルカ爲メ事實ニ齟齬ヲ生シ無根ノ事實ヲ設ケ法律ニ背キ
 不當ニ事實ヲ確定スルニ至レリ故ニ原判決ハ破毀ノ理由アリト云フニ在リ○然レトモ此論旨
 モ亦事實ノ認定ヲ非難スルニ過キサレハ適法ノ上告理由トスルヲ得ス同第四點ハ巡查吉井五
 郎ノ報告書ニハ所屬官署ノ押印ナキカ故ニ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ反シタル無効ノ書類

ナリ若シ又同條ノ規定ニ依ルコトヲ要セサル書類ナリトセハ何等ノ効ナキ反古同様ノモノナ
 リ然ルニ原院カ之ヲ以テ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ巡查ノ報告書ハ
 即巡查一己ノ書面ニシテ官署ノ事務ニ屬セサルモノナルヲ以テ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ官署
 ノ印ヲ押捺セサル可ラサルモノニ非ス又該條ノ規定ニ從フヲ要セサル書面ナレハトテ法律上
 證據タルヲ得サルノ規定ナキヲ以テ原院カ之ヲ採用シタルモ爲メニ不法ト云フヲ得ス同第五
 點ハ原判決ニハ「豫テ自宅ノ藥局ニ貯ヘアリシ人ヲ死ニ致スニ足ルヘキ莖菁ト稱スル毒藥量三
 分程ヲ彌惣兵衛カ飲料ニ供スル目的ニテ買求メ云々」トアリテ自宅ノ藥局ニ貯ヘアリシモノ、
 外ニ尙ホ彌惣兵衛カ飲料ニ供スル目的ニテ買求メタル莖菁アリテ此内ノ三分程ヲ酒中ニ投入
 シタルト云フニ在リ然ルニ事實ハ之ニ反シテ當時被告ハ證人内山常太郎ヨリ買取リタル莖菁
 ノ外一モ之ヲ所持セサルハ一件調書中著明ナル事實ナリ故ニ自宅ニ貯ヘアリシモノヲ投入シ
 タリトセハ全ク事實ニ齟齬シテ理由ノ不備トナリ若シ又買求メタルモノ、中ヨリ投入シタル
 トセハ被告入カ買求メタル莖菁ハ八分ニシテ其使用高ハ第一點ニ付説明セシ如クナルヲ以テ
 三分ヲ投入シ得ルノ道理ナシ故ニ何レノ點ヨリスルモ原判決ハ事實及ヒ理由ニ齟齬アル不法
 ノ判決ナリ加之原院ノ採用シタル鑑定書ニ依ルモ三分ノ莖菁ヲ二升ノ酒ニ混和シタルモノニ
 テハ到底被害者ヲ死ニ致スヘキ能力ナキモノナリ左レハ原判決カ認定ノ事實ト理由トハ全ク
 反對ノ結果ヲ見ルニ至ルヘシ是前後矛盾セル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○然レトモ原判決
 ニハ「彌惣兵衛カ飲料ニ供スル目的ニテ買求メ」トアル下ニ當時被告方壺所ニ差置キアリシ酒二

升ヲ入レタル樽中云々トアリテ買求メタルトハ酒ヲ買求メタルコトヲ云ヒ莞菁ヲ指シタルモ
 ノニ非ス故ニ酒中ニ投入シタル三分程ノ莞菁ハ全ク藥局ニ貯ヘ置タルモノナルコト明白ナリ
 而シテ貯置キタル莞菁ノ分量ハ果シテ八分ノミナリシヤ及三分程ニテハ死ニ致スニ足ラサル
 分量ナリヤノ如キハ原院ノ特權ヲ以テ認定スヘキ問題ニ屬スルコト既ニ辯明セシ所ノ如シ
 辯護士鳩山和夫上告趣意擴張書第一點ハ毒物ヲ施用シ人ヲ害シタル者ニ對シ謀殺ノ刑ヲ適用
 スルニハ其毒物カ人ヲ殺スニ足ルモノタルコトヲ要ス然ルニ原判決ハ蘆ヲ自宅ノ藥局ニ貯ヘ
 アリシ人ヲ死ニ致スニ足ルヘキ莞菁ト稱スル毒藥量三分程ヲ彌惣兵衛カ飲料ニ供スル目的ニ
 テ買求メ云々トアリテ人ヲ死ニ致スニ足ルヘキトノ文字ハ莞菁ナル毒藥ノ性分ヲ意味シタル
 ニハ相違ナキモ買求メタル三分程ノ莞菁カ果シテ人ヲ死ニ致スニ足ルヤ否ヤ及ヒ其三分位ノ
 分量ヲ酒ニ升ト混和シ而シテ尙人ヲ死ニ致スニ足ルヘキモノナリヤ否ヤノ點ニ對シ何等ノ說
 明ナキハ事實理由ノ不備ナル點點アリ況ヤ飲酒シタル者ニハ大害ナカリシノミナラス鑑定書
 ニ依ルモ莞菁ノ有スル毒質ノ分量ニ付テハ原院ノ認ムル所ニ異ナルノミナラス寧ロ確乎タル
 鑑定ナキニ於テオヤト云フニ在リ○依テ案スルニ前掲判文ノ人ヲ死ニ致スニ足ルヘキトノ文
 字ハ單ニ莞菁ト稱スル毒藥トアル文字ノミニ冠シ即チ莞菁ナル毒藥ハ人ヲ死ニ致スニ足ルヘ
 キ性質ナリトノ意ヲ示スモノナルカ又莞菁ト稱スル毒藥トアル下量三分程トアル文字迄ニ及
 ビ三分程ノ莞菁ハ人ヲ死ニ致スヘキモノナリトノ意ナリヤ此方面ノミニテハ少ク疑ナキニ非
 スト雖トモ其以下二升ノ酒ニ混和シタル始末ヲ掲ケタル上其結末ニ至リ飲料少カリシ爲メ死

ニ至ラサリシモノナリトアルニ依レハ三分程ノ莞菁ハ二升ノ酒ニ混和スルモ以テ人ヲ殺スニ
 足ルヘキモノニシテ即チ混和シタル分量ニ於テハ缺クル所ナキモ其飲ミタル分量ノ少ナキカ
 爲メ死ニ至ラサリシトノ旨趣タルヲ知ルニ足レリ故ニ原判決ハ事實理由ノ不備アルモノト云
 フヲ得ス

附帶上告趣意ハ榎本繁次郎外四名ニ於テ被告カ彌惣兵衛ヲ殺害スヘキ目的ヲ以テ酒中ニ投入
 シタル毒藥ヲ飲ミタルカ爲メ執レモ二三時間ヲ經テ中毒症ヲ發シ其飲量ノ少カリシ爲メ死ニ
 至ラサリシトノ事實ニ對シ原院カ刑法第二百九十八條ヲ適用セシハ疑律錯誤ノ不法ヲ免レンス
 何トナレハ第二百九十八條ハ甲者ニ對シテ謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ乙者ヲ殺シタル場合ニ適用ス
 ヘキモノニシテ本件ノ如キ甲者ヲ害シ併セテ乙者等ヲ害スルニ至リタル場合ニ適用スヘキモ
 ノニ非サレハナリ故ニ本件ノ事實ニ對シテハ法律上罰スヘキ正條ナキヲ以テ宜シク無罪ヲ言
 渡スヘキモノナリ若シ夫レ罰スヘキ正條アリトセンカ其條ハ即チ第二百九十三條ナルヘキヲ
 以テ到底第二百九十八條ヲ適用スヘキモノニ非スト云フニ在リ○然レトモ原院ハ認ムタル如
 ク被告カ彌惣兵衛ヲ殺サント決意シ毒藥ヲ酒中ニ投入シ彌惣兵衛ハ飲用センコトヲ期シタル
 ニ誤テ榎本繁次郎外四名ハ飲用スル所トナリ遂ニ同人等ハ中毒症ヲ發シ而シテ其飲量ハ少キ
 カ爲メ死ニ至ラサリシ事實ナル上ハ刑法第二百九十八條ニ所謂謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺
 シタル者ハ云々トアルニ該當シ而シテ加害ノ目的タル彌惣兵衛ニ於テモ併テ害ヲ被ムルニ至
 リタルト否トハ該條ハ適用ニ影響ヲ及ハスヘキモノニ非ス故ニ原院カ右ノ事實ニ對シ該條

か適用シ且未遂ナルヲ以テ刑法第百十二條ヲモ適用セシモハニシテ法律上毫モ不法ハ點ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ本件上告及ヒ檢事ノ附帶上告ハ刑事訴訟法第百八十五條ニ依リ共ニ之
ヲ棄却ス

明治二十八年十一月十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治二十八年第一二三〇號
明治二十八年十一月二十一日宣告

○判決要旨

郵便局ニ差戻スコトヲ委託セラレタル書狀ヲ開披シ其封入ニ係ル送金手形ヲ

竊取シタル所爲ハ竊盜罪ナリトス

(參照) 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
(刑法第三百六十六條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 宮本 種實

右竊盜被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年十月四日東京控訴院ニ於テ東京地方裁判所カ被告ヲ
重禁錮一年監觀六月ニ處スト旨渡シタル判決ヲ相當ト認メ控訴棄却ノ判決ヲ爲シタルニ對シ
被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告趣意ノ要旨ハ凡ソ竊盜ノ構成條件ハ少ナク他入ノ占有ニ存スル物件ヲ其ノ意ニ反シテ
我が占有ニ移スコトヲ要ス若シ或ル正當ノ理由ニ依リ其物件カ占有ニ在ラシカ之ヲ棄毀消費
スルモ爲メニ竊盜罪ヲ構成スルコトナシ今本件ノ事實ハ「アール、エス、シラー」宛ノ郵便物書翰カ
誤テ「アスビール」ニ配達セラレ「アスビール」ヨリ差戻方ノ依頼ヲ受ケ被告ニ於テ其手續ヲ爲スニ
當リ其封皮ノ破レテ送金手形ノ出テタルニ乘シ其手形ヲ以テ三井銀行ヨリ金圓ヲ受取リタル
モノニシテ此手形モ亦依リ托ヲ受ケタル物ノ一部ナレハ被告ノ占有ニ存セシモノナルハ勿論ナ
リ故ニ之ヲ以テ金圓ヲ受取リタリトテ竊盜罪ヲ構成スルノ理由之アルコトナキニ原裁判所カ
刑法第三百六十六條ニ該ルモノトナシ控訴ヲ棄却シタルハ不當ニシテ破毀ヲ免レサルモノナ
リト云フニアントモ ○原判決ハ認ムル所ニ依リ「アスビール」ハ單ニ封緘ハ書狀壺通テ郵便局
ニ送戻ス爲メ之ヲ被告ニ委託シタルニ在リテ手形其物ヲ委託シタルニアラサレハ該手形カ正
當ニ被告ノ占有ニ歸セシメラレタリト謂フヲ得サルナリ然ルニ被告ハ手形在中ナリトハ推察
ヲ以テ竊カニ其封ヲ破リ金百四拾圓ノ送金手形ヲ取出シタリト云フニアレハ即チ竊取ノ事實
ニシテ之ニ對シ原院カ刑法第三百六十六條ヲ適用シタルハ相當ニシテ濫律錯誤ハ不法アルニ

ア、ラス、

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却ス

明治二十八年十一月二十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

〇詐欺取財ノ件

明治二十八年第一二四九號
明治二十八年十一月二十一日宣告

〇判決要旨

司法官試補ハ地方裁判所以上ノ檢事ヲ代理スルノ權能ナシ

司法官試補ニシテ地方裁判所檢事ノ職務ニ屬スル事件ノ公訴ヲ提起スルハ越

權ノ處分ナリトス而シテ其公訴ハ法律上何等ノ効力ヲ生スヘキモノニアラス

從テ之ヲ受理シテ審判シタル判決ハ不法ナルヲ免レス

(參照) 司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢

事ヲ代理セシムルコトヲ得(裁判所構成法第十八條三項)

第一審 長野地方裁判所松本支部 第二審 東京控訴院

被告人 佐藤傳次郎
傘木今朝松

右傳次郎今朝松カ詐欺取財被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年九月二十一日東京控訴院ニ於テ
長野地方裁判所松本支部カ被告傳次郎ヲ重禁錮壹年罰金拾圓監視六月ニ今朝松ヲ重禁錮十月
罰金七圓監視六月ニ處ス公訴裁判費用ハ傳次郎今朝松ノ負擔トス又被告傳次郎今朝松ハ民事
原告人請求ノ通り金六拾圓ヲ返還スヘシ訴訟費用ハ被告ノ負擔タルヘシト言渡シタル公訴私
訴ノ第一審判決ヲ相當トシ控訴棄却ノ判決ヲ爲シタルヲ不當トシ被告兩名ヨリ右公訴私訴ノ
判決ニ對シ上告ヲ爲シ民事原告人伊藤源平訴訟代理人辯護士兩角彦六ハ私訴上告理由ナキ旨
ノ答辯ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ
一件、記、録、ヲ、査、閱、ス、ル、ニ、本、案、詐、欺、取、財、事、件、ハ、被、告、佐、藤、傳、次、郎、傘、木、今、朝、松、ニ、對、ス、ル、起、訴、狀、即、チ、豫
審、請、求、書、ハ、貳、通、ヨ、リ、成、リ、其、執、レ、ニ、モ、檢、事、代、理、員、塚、本、之、助、ハ、署、名、ア、リ、而、シ、テ、其、肩、書、ニ、長、野、地、方
裁、判、所、松、本、支、部、ト、ア、ル、モ、同、人、ハ、其、當、時、司、法、官、試、補、ニ、シ、テ、松、本、區、裁、判、所、請、檢、事、代、理、タ、リ、シ、コ、ト
ハ、顯、著、ハ、事、實、ニ、シ、テ、元、來、司、法、官、試、補、ハ、裁、判、所、構、成、法、ハ、規、定、ニ、基、キ、司、法、大、臣、ノ、命、ニ、依、リ、區、裁、判
所、檢、事、ハ、代、理、タ、ル、コ、ト、ヲ、得、ル、モ、地、方、裁、判、所、以、上、ハ、檢、事、代、理、タ、ル、事、ハ、法、律、ハ、許、ス、所、ニ、非、ス、然、ル
ニ、前、頭、ノ、如、ク、同、人、ニ、於、テ、長、野、地、方、裁、判、所、松、本、支、部、檢、事、ノ、職、務、ニ、屬、ス、ル、本、件、ノ、公、訴、ヲ、提、起、シ、タ
ル、ハ、職、權、ハ、處、分、ニ、シ、テ、其、起、訴、ハ、効、ナ、キ、ハ、勿、論、ナ、ル、カ、故、ニ、本、公、訴、ハ、受、理、ス、ハ、キ、モ、ハ、ニ、非、ル、ニ、原
院、カ、之、ヲ、受、理、シ、進、ン、テ、本、案、ハ、判、決、ヲ、爲、シ、タ、ル、ハ、不、法、ハ、裁、判、ナ、リ、ト、ス、其、レ、斯、ノ、如、ク、公、訴、ニ、シ、テ

司法官試補ノ權能〇越權ノ公訴

成立セサル以上ハ之ニ附帶スヘキ私訴ノ成立スルノ理ナキコト勿論ナルニ付之ヲ受理審判シタル原判決モ亦不法ナリトス此點ニ於テ原判決ハ破毀ヲ免レサルニ付被告ノ上告論旨ニ對シ特ニ說明スルノ要ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第百八十六條第二項同第二百八十六條同第二百八十七條ニ則リ原院公訴私訴ノ判決全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

公訴及私訴被告人

佐藤傳次郎

同

森木今朝松

民事原告人

伊藤源平

右訴訟代理人辯護士

阿角彦六

第一審公訴私訴ノ判決各第一點被告傳次郎今朝松ニ關スル部分ハ之ヲ取消ス被告傳次郎今朝松ニ對スル公訴ハ之ヲ受理セシ

公訴裁判費用ハ國庫ノ負擔トス

民事原告人ノ訴ハ之ヲ却下ス

訴訟費用ハ民事原告人ノ負擔トス

明治二十八年十一月二十一日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○詐欺破産ノ件

明治二十八年第一二二〇號
明治二十八年一月廿二日宣告

○判決要旨

被告人ノミノ控訴ニ對シ第一審ニ於テ一罪ト認メタル事件ヲ二罪トシテ處斷シタル判決ハ被告人ノ不利益ニ變更シタル不法ノ裁判ナリ(明治二十八年第八一號公文書製造行使等ノ件第二卷二百十二頁登載及明治二十八年第一二〇二號詐欺取財ノ件第三卷百五十六頁登載參看)

(參照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス(刑事訴訟法第二百六十五條)

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 佐々木清水 辯護人 高木益太郎
乾松太郎

私訴被上告人 川島幸十郎
柏原壽祇

右清水及ヒ松太郎ノ詐欺破産被告事件ニ付明治二十八年九月十四日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ服セス被告兩名ハ上告ヲ爲シタルニ依リ裁判所構成法第四十九條ニ從ヒ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士高木益太郎ノ辯論檢事廳當廳ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

被告清水辯護士高木益太郎ノ公訴上告趣意辯明書第一點ハ本件ノ第一審判決ニ依レハ被告ノ

増罪ノ裁判

所爲ハ一罪ヲ犯シタルモノト認メ之ニ刑ヲ適用シタルニ過キス然ルニ原判決ハ檢事ノ控訴ナ
 キニモ拘ハラス洩然ニ罪俱發ト認メテ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルヲ以テ違法ナ
 リト云フニ在リ○依テ第一審第二審ノ判決ヲ對照査閱スルニ原判決ハ上告論旨ノ如ク被告ハ
 一ハ控訴ニ對シ第一審ニ於テ詐欺破産ハ一罪ヲ認メ之ニ刑ヲ適用シタル判決ヲ取消シ更テニ
 被告清水ノ所爲ヲ二罪ト認メ刑法第百條ヲ適用シテ重キ一罪ニ依リ處斷シタルモノハニシテ即
 被告ノ不利益ニ第一審判決ヲ變更シタル違法アリトス既ニ此點ニ於テ公訴ノ判決ハ破毀スヘ
 キ原由アリト認メタルニ依リ被告及ヒ辯護士ノ此他ノ上告論旨ニ對シテハ一々説明ヲ要セス
 又被告清水ハ私訴ニ付刑事訴訟法第二百七十三條ノ期間内ニ趣意書ヲ差出サス即不違法ノ上
 告ナルヲ以テ棄却スヘキモノトス被告松太郎ノ上告趣意第一點ハ原判決ニ清水ト松太郎ト共
 犯ノ如キ理由ヲ掲ケタルニモ拘ラス刑法第百四條ヲ適用セザリシハ違法ナリト云フニ在レト
 モ○原判決ニ認メタル所ニ據レハ被告清水ハ詐欺破産ノ罪ヲ犯シタルモノ被告松太郎ハ清水
 ノ有罪行為ヲ助ケタルモノニシテ清水ノ所爲ト松太郎ノ所爲トハ彼此各別ノ犯罪ナルヲ以テ
 原判決ニ刑法第百四條ヲ適用セザルハ當然ナリ第二點ハ民事原告人柏原壽祺ノ證言ヲ斷罪ノ
 證據ニ供シタル原判決ハ違法ナリト云フニ在レトモ○柏原壽祺ハ民事原告人ト爲ル以前ニ證
 人トシテ訊問ヲ受ケタルモノナルコトハ訴訟記録ニ徵シ判然タルヲ以テ其證言ヲ證據ニ採リ
 タル原判決ハ違法ニアラス第三點ハ原判決文ニ金二十七圓十一錢ヲ自宅ニ藏匿シタルトアル
 ハ一件書類ニ矛盾シタル違法ノ判決ナリト云フニ在リテ○原裁判所ノ職權ニ屬スル事實ノ認

定ヲ批難スルモノナレハ以テ上告ノ理由ト爲ステ得ス第五點ハ被告ハ刑ヲ受リヘキ理由ナキ
 ナリテ公訴ニ付帶スル私訴ニ對シテモ辨償ノ義務ナシト云フニ在リテ○是亦畢竟事實ノ認定
 ナリ批難スルニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヘカラス第四點ハ押収ニ係ル金四百二十圓
 二錢四厘ヲ共ニ藏匿シ云々トアリテ被告松太郎ハ其内幾圓ヲ藏匿シ若クハ扱ヒタル者ナルヤ
 ナリ明示セザルハ理由ニ不備アル裁判ナリト云フニ在リ上告趣意辯明書第一點ハ押収ニ係ル金
 二百十圓四厘ヲ民事原告人ニ運給シ云々トアルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○右二點
 ニ掲ケル如キ事項ハ原判決書中ニ記載ナシ第二點ハ民事原告人ノ請求スル金四百二十四圓二錢
 四厘ハ被告清水ト被告松太郎ト分割負擔スルヲ至當トス且松太郎ハ情狀原諒アルヲ豫當ナリ
 トスト云フニ在リ第三點ハ被告松太郎ハ被告清水等ノ雇人ナルヲ以テ清水ト民事共同一ノ
 義務ナシト云フニ在リテ○孰レモ開レナキ苦情ニ過キス固ヨリ以テ上告ノ理由ト爲スヘカラ
 サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條同第二百八十六條ニ依リ判決スル左ノ如シ
 原判決中被告清水ニ對スル公訴ノ部分ヲ破毀シ本件ヲ廣島控訴院ニ移ス被告松太郎ノ公訴上
 告清水及ヒ松太郎ノ私訴上告ハ總テ之ヲ棄却ス
 私訴上告訴訟費用ハ被告兩名ニ於テ之ヲ負擔ス可シ
 明治二十八年十一月二十二日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一三〇七號
明治二十八年十一月二十二日宣告

○判決要旨

鐵道會社ノ社員會社ノ用材購入ニ際シ其請負人ト共謀シ請負價格ヲ増加シ會社ニ對シテハ其増加額ヲ以テ入札ニ付シタルモノ、如ク裝ヒ會社ヲシテ之ヲ誤信セシメ其差金ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財罪ナリトス

(參照) 入札欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第三百九十九條)

第一審 福島地方裁判所白河支部 第二審 宮城控訴院

被告人 西田和協 辯護人 飯田宏一作
長谷川吉次

明治二十八年十月二十三日宮城控訴院ニ於テ右和協芳藏外一名ニ對スル詐欺取財被告事件ノ控訴ヲ審理シ第一審判決ハ之ヲ取消ス被告和協(中略)ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金二十四圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス被告芳藏ヲ重禁錮四月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス押收ノ文書ハ各差出人ニ還付スト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告和協芳藏兩名ハ上告ヲ爲シ原院檢事長大

原盛號ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處芳藏上告趣意ハ原判決既明ノ如ク被告入札詐入札ヲ爲シタリトスルモ是レ賣主ノ適法ニ爲シ得入キ所ニテ適モ犯罪ヲ構成セサルモノナルニ拘ハラヌ原院カ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○犯罪ノ事實ハ判文ニ明示スル所ニシテ之ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ相當ニシテ不當ニアラズ和協上告趣意書第一點ハ相被告芳藏カ他ノ入札人ニ依頼シ通謀ノ上入札シタル事實ニ付テハ自分ハ關知セサルモノナルニ原院カ之レニ反スル認定ヲ爲シタルハ不當ナリ第二點自分カ芳藏ヨリ金員ヲ受クルコトヲ約シタルハ報酬ノ爲メナルコトハ一件記録ニ依テ明カナルニ原院カ之レニ反スル認定ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○裁判官ノ職權上ノ行爲ニ對シ徒ニ批難スルニ止マリ固ヨリ上告ノ原由トナラス同辯護士飯田宏作上告趣意擴張趣旨ハ原判決ハ上告人カ邊見芳藏ヲシテ枕木一挺ニ付金二十一錢ニ受買ハシムルコトヲ内約シナカラ表面上入札ニ付シ同人ヲシテ最低入札人ノ如ク仕做シタリトノ事實ヲ欺罔ノ手段トシテ明示サレタリ然レトモ此表面の最低入札人ノ如クスルハ事虛偽ニ涉ルト雖トモ是落札セシムルノ一方法ニシテ相當價格以上ニ物品ヲ賣付クルニ當リ虛偽ノ手段ヲ用フルト同一ナリ此ノ如キ場合ニハ物質又ハ勞力ニ虛偽ナキ限リハ如何ナル方法ヲ用フルモ刑法ノ所謂欺罔ニアラサルナリ又原判決ハ或ハ會社ヲシテ專ラ其事ニ任シタル上告人ノ取計ニ出テタルコトナレハ決シテ不當ノ事アルマシト信シ承諾ナサシメタルノ事實アルカ故ニ通常ノ表面の入札ト異ニシテ欺罔ナリトノ意ナルヘシ是又欺罔ノ事實ト云フヲ得ス蓋シ欺罔

トハ犯罪入ノ行為ヲ要スルハ勿論ナリ若シ上告人ニシテ實有セサル位地ヲ詐稱シテ信セシメタルノ行為アラハ格別ナリト雖原判決文ハ上告人カ實ニ有スル所ノ位地ヨリシテ會社カ信シタリト云フニ過キス其豈欺罔ノ手段ナランヤ加之元來詐欺取財ハ虛偽ノ手段ヲ使用シテ虛無又ハ過實ノ利益ヲ得ヘキコトヲ信セシメテ財物ヲ取得スル所ノ行為ナリ故ニ被害者カ期シタル所ノ物品又ハ利益ヲ與レハ假令虛偽ノ行為アリテ且其物品又ハ利益ノ價格ト取得物ノ價格トノ間ニ懸隔アリ即不實ノ點アルモ詐欺取財ニアラス然ルニ原判決ノ認メタル事實ニ依レハ會社ノ期シタル利益即枕木ノ製材運搬ニ付テハ何等虛偽ノ點ナシ只之カ代價相當ノ價格即一旦被告人間ニ内約シタル所ヨリ高價ヲ得ルカ爲メニ表面的入札ヲ爲シタルノミ是レ不廉ノ價格ニテ受買ヲ爲シタルノ事實ニシテ多少ノ虛偽手段ハ不廉ノ價額ヲ承諾セシムル爲メニシテ實際ノ對價物ニ付虛無又ハ過實ノ利益アルコトヲ誤信セシメタルニアラス故ニ詐欺取財ノ行為ト云フヲ得サルニ原判決力之ニ反スルハ擬律錯誤ナリト云ヒ同辯護士岸清一上告趣意擴張書第三點ハ原判決ニ認メタル事實ニ依ルニ請買契約ヲ締結スルノ權ハ被告人ニ於テ有セスシテ東京本社カ之ヲ握有シタルハ明瞭ナリ果テ然ラハ被告人ト請買人邊見芳藏間ニ内約シタル金二十一錢ノ請買内約ナルモノハ會社ト請買人間ニ於ケル請買價格タルノ効ナキモノナレハ被告人ノ所爲ハ本社ヲ欺罔シテ真正ノ請買價格以上ノ金員ヲ詐取シタルモノニアラスシテ取二詐術ヲ用ヒ本社ヲシテ高價ナル請買金ヲ契約セシメタルモノニ過キス而シテ本社ハ其請買價格ヲ決定スルニ就テハ全ク自由判斷ヲ有スルハ勿論ナレハ本件被告人ノ所爲ハ罪トナラザル

モノナリト云ヒ同辯護士長谷川吉次上告趣意擴張書第一點ハ以上兩辯護士ノ論旨ト大同小異ニシテ且曰ク被告和協ハ入札ヲ爲サトルニ入札シタリト詐リタリトスルモ會社ノ成規上入札法ヲ以テ受買ハシムヘキモノトノ事實アルニアラス然ラハ入札ヲ以テスルモ又其見込ニテ入札ナク指名ニテ直ニ受買ハシムルモ差支ナカルヘシ是等ノ事ニ詐リアリトスルモ未タ以テ刑事上ノ詐欺ト云フヘカラスト云フニ在リ○因テ案スルニ原院カ認メタル事實ハ被告和協ハ本案會社ノ爲メ鐵道用枕木製造并運搬ノ役務ヲ帶ヒテ福島縣下ニ出張中右事業ハ受買人カ相被告芳藏ト枕木一樞ニ付金二十一錢ハ割合ヲ以テ受買フ下チ内約シタル後會社ニ對シ其價額ヲ增加シ一樞金二十五錢五厘ト詐リ以テ其差額ハ金員ヲ騙取セント企テ芳藏等ト共謀ハ上表面上入札ニ付シタル體ニ對ヒ遂ニ會社ヲシテ其事ヲ誤信セシメテ目的ハ金員ヲ騙取シタルモノト爲スニ在レハ之ニ對シ詐欺取財ノ刑ヲ科シタルハ相當ニシテ不法ニアラス何トナレハ被告カ右事業ニ關與シタルハ固ヨリ被告ノ受買事業ニアラスシテ全ク社用ノ爲メナレハ右芳藏ト正當ニ締約シタル一樞金二十一錢ハ會社カ當ニ支拂フヘキ金員ナルモ増加シタル四錢五厘ハ被告ノ欺罔即入札ニ付シタルモノノ如ク數ヒタル偽計結果ニ依テ會社ハ支出シ被告ハ騙取シタルモノナレハナリ右ノ理由ニ就キ其本契約ヲ爲スノ權カ東京本社ニ在ルト否又會社ハ成規上入札法ヲ以テ受買ハシムヘキ事實アルト否等ハ事柄ハ本案犯罪ノ構成ニ影響ナキトハ自ラ了解スヘキヲ以テ爰ニ詳説セズ右岸清一擴張書第一點ハ原院ニ於テハ審判及判決ヲ公行セザリシ不法アルヲ以テ其判決ハ違法ナリト云フニ在レニ○原院公判始末書ヲ檢スルニ本件ハ

終始之ヲ公行シタル旨其末尾ニ明記シアリ同第二點ハ原院ニ於テハ被告人ニ利益トナルヘキ證據ヲ遂出スヲ得ヘキコトヲ告知セザリシ不法アリト云フニ在レトモ○公判始末書ニ「問被告入等ハ利益ノ爲メ申立ツルコト又ハ反證トシテ提出スルモノナキヤ答一切ナシト明記シアリテ原院ハ充分ニ其手續ヲ盡シタル事跡アルヲ以テ上告論旨ノ如キ違法アリトセス」同長谷川吉次擴張書第二點ハ原院判決書ニ「明治二十六年九月十七日ヨリ同年十二月二十九日迄ノ間云々ニ於テ云々其送金ヲ騙取シタリ」トアリ九月十七日ヨリ十二月二十九日迄ハ其間日數百三日ナリ此百三日ノ内何レノ日ニ於テ犯罪ヲ爲シタルヤ之ヲ明示セス即犯罪ノ時日ヲ示サ、ル不法アリトス何トナレハ本件ニ付テハ幸ニ期滿免除ニ關係ナキモ若シ本件ノ發覺ヲシテ明治二十年十二月ニアラシメハ期滿免除ト爲リタルモノカ否ヲ知ルニ由ナカルヘシ加之右九月十七日ヨリ十二月二十九日迄ノ間ニ於テ若シ法律ノ改正アリタルトキハ新舊法孰レノ法律ヲ適用シ新舊法比照法ノ適用ハ如何スヘキヤ因是見之犯罪ノ時日ハ最も明確ニ爲サ、ルヘカラサルモノナルニ原判決カ之ニ反スルハ不法ナリト云フニ在レトモ○事實ノ理由ハ其事件ニ付必要ノ「ト」ヲ記載スヘキモノニシテ而シテ本件ハ期滿免除又ハ法律ノ改正ニ關係ナキヲ以テ原判決ハ不法ニアラス即上告論旨ハ不成立同第三點ハ原判決中芳藏代理竹下種長ヲシテ受領セシメ其送金千三十五圓ヲ騙取シタリ」トアリテ芳藏ノ代理人種長ハ之ヲ何人ニ渡シ又假リニ之ヲ芳藏ニ渡シタリトスルモ其分配方法等ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ○被告和協ノ共犯人芳藏代理ヲシテ受取ラシメタル「ト」ノ記載アル上ハ判決ノ理由ハ盡キタルモノニシテ賍

金分配ノ方法等ハ尙モ犯罪構成ニ必要ナキヲ以テ之ヲ詳記セサルモ不法トセス以上上告論旨ハ總テ不成立同テ刑部訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十一月二十二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使詐欺取財ノ件
明治二十八年第七七五號
明治二十八年十一月二十五日宣告

○判決要旨

不動産ニ關スル賣買ノ登記ハ單ニ其事實ヲ公示スルノ一方法タルニ止マリ決シテ所有權移轉ノ効果ヲ生スルコトナシ從テ其所爲ヲ以テ不動産ノ騙取トナスヲ得ス(明治二十八年第七七八七號私印書偽造使用私賣買ヲ證明スヘキ證書ニシテ偽造ニ係ルトキハ之ヲ以テ所有權ヲ移轉スルノ効力ヲ生セス從テ其所有權ハ依然原所有者ニ存ス)

第一審 千葉地方裁判所 第二審 東京控訴院
不動産ノ詐欺(偽造證書)ノ効力

被告人 今井小三郎 辯護人 高木益太郎
野口宗悦

右小三郎外二名ニ對スル私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年五月二十七日東京控訴院ニ於テ被告等ノ控訴及原院檢事ノ附帶控訴ヲ受理シ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被告小三郎ヲ重禁錮四年罰金四十圓監視一年ニ處シ被告菊松宗悦ヲ各重禁錮三年罰金三十圓監視六月ニ處ス押収ノ賣渡證書口演ト題スル書面各一通ハ没収シ其他ノ書面及印頭ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告三名連帶負擔スヘシト旨渡シタル判決ニ服セス被告等ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ裁判所構成法第四十九條ノ規定ニ從ヒ本院刑事部聯合ノ上刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告小三郎上告趣意ハ原裁判所ハ被告共ヲ共謀者トシテ有罪ノ判決ヲ下サレタルモ右共謀者ノ事實ヲ證スヘキ證據ナシ即チ原裁判所ハ架空ニ事實ヲ認定シテ罪ヲ斷シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○右ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ上告適法ノ理由トナラズ同人上告趣意擴張ノ第一點ハ判決書ニ鑑定人大井親吉トアリ鑑定人トシテハ同名ノ者無之答ナリ然ルニ原院ニ於テハ大井親吉ナル者ノ鑑定書ヲ證據ト爲シテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ判決原本ヲ見ルニ「鑑定人大井親吉トアリテ親吉トハ記載ナシ而シテ一件記録ヲ見ルニ大井親ノ鑑定書アルヲ以テ本論旨ノ如キ不法ナシ其第二ハ判決書ニ宗悦ノ住所ヲ茨城縣北相馬郡東文間村福本ト記載セリ然ルニ右東文間村福本ナ

ル所アルナ開カス蓋シ竊木ノ誤リナラン如斯細漏ノ判決書ハ信ヲ措ク能ハスト云フニ在レトモ○右ハ被告小三郎ニハ關係ナキ事柄ナルヲ以テ上告適法ノ理由ト爲ス能ハス其第三點ハ裁判書渡ノ際掛リ判事五名ノ内一名ニ對シテハ刑事判決原本ニハ小林芳郎トアリ又私訴判決原本ニハ小村芳郎トアリ何レカ實名ナルヤ判然セス斯カル不當ノ判決ニ對シテハ服從スルコト能ハスト云フニ在レトモ○原判原本ヲ見ルニ執レモ小林芳郎トアリ其論旨ニ謂フ所チ事實ナリトスルモ謬本ノ誤寫ヲ以テ原判決ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラス其第四點ハ裁判所公廷ニ於テ參考ニ供シタル押収ノ提灯ハ其所有主ニ還付セス又官ニ没収モセス其處分ニ對シ何等ノ旨渡シナキハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決理由中提灯ノ下チ記載セサルヲ以テ其没収スヘキモノナルヤ又ハ還付スヘキモノナルヤ判然セスト雖トモ若被告ニ對シ没収スヘキモノトスレハ本論旨ハ不利益ノ論旨ナルヲ以テ上告ノ理由トナラス又若還付スヘキモノナルトキハ其處分ハ必シモ判決書渡ト共ニスルノ必要ナシ旁本論旨ヨリ上告適法ノ理由トナラス被告菊松宗悦ノ上告趣意ハ被告小三郎ノ上告趣意ト同一ナルヲ以テ更ニ説明スルノ要ナシ被告三名辯護人高木益太郎ノ上告趣意辯明ノ第一ハ偽造證書ハ刑法第四十三條第一號ニ依リ没収ス可キモノニシテ同條第三號ニ依リ沒収スヘキモノニアラス然ルニ原院ニ於テハ本件偽造ノ借用證書賣渡證書口演ト題スル書面各一通ヲ刑法第四十三條第二號ニ依リ沒収シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リテ○本論旨ハ違法ノ理由アリトス如何トナレハ偽造ノ書類ハ刑法ニ謂フ所ノ法律ニ於テ禁制シタル物件ナルヲ以テ之レヲ沒收スルニハ刑法第四十三條第

一號ニ依ラサルヘカラス然ルニ原院カ偽造ナリト認定シタル借用證書賣渡證書口演ト題スル書面ヲ没收スルニ當リ刑法第四十三條第二號ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリトス其第二ハ原院ハ借用證書并ニ賣渡證書及其謄本ヲ偽造行使シタル所爲ハ孰レモ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ該ルモノト判定シタルトモ既ニ證書ノ原本ニ付偽造罪ヲ構成シタル已上ハ其謄本ヲ偽造スルモノ別ニ一個ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラス依テ借用證書賣渡證書ノ謄本偽造行使ノ所爲ハ無罪ノ判決アルヘキモノナリ乃チ原裁判ハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原院ハ借用證書賣渡證書及ヒ各其謄本ヲ作製シタルヲ一團ノ所爲ト認メ之レニ對シ擬律シタルモノナレハ殊ニ謄本ノ作製ヲ一個ノ罪ト認メタルニアラス以テ無罪ノ旨渡ヲ爲スヘキニアラス故ニ原判決ハ本論旨ノ如キ擬律ノ錯誤ナシ其第三ハ原判決書證據列記ノ部ニ單ニ鑑定人犬井親ノ鑑定書ト掲ケアルニ依レハ同人カ上告人三名ニ對スル被告事件ニ付テノ鑑定證據ニ採用シタルモノト見做サ、ルヲ得ス然ルニ同人ハ上告人野口宗悅ニ對スル事件ノ鑑定人ニアラス從テ同人ニ對シテ適式ノ宣誓ヲ爲シタルコトナキハ同人ノ宣誓書ニ徴シ明亮ナリ是故ニ原判決カ大井親ノ鑑定書ヲ上告人野口宗悅ニ對シテモ鑑定人タルノ効力アル證據ト認メテ有罪ノ判斷ヲ與ヘタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○一件記錄ヲ調査スルニ鑑定人大井親カ宣誓ノ上鑑定ヲ爲シタル日即チ明治二十六年三月八日ニシテ其當時ノ被告ニ對シテ適式ノ宣誓ヲ爲シ鑑定シタル已上ハ其鑑定書ハ有効ノ證據タルコト論テ俟タス而シテ其後チ即チ明治二十六年三月十日ニ至リ本件ニ被告宗悅ヲ加フルモ右鑑定書ノ不法無効トナル

ヘキ理由ナキヲ以テ原院カ本件全體ノ被告人ニ對シ有効ノ鑑定書トシテ本案斷罪ノ資料ニ供シタルモ之ヲ違法ト云フヘカラス依テ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ其第五ハ地所ニ對シテ騙取罪ノ成立セサルコトハ猶不動産ニ對シテ竊盜罪ノ存セサルト異ナルコトナシ然ルニ原裁判所ハ性質上ノ不動産ニ對シテモ詐欺取財罪ノ成立ヲ認メタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ況ンヤ地所登記名義ノ變更ハ偽造ノ賣渡證書ヲ登記所ニ提出シタル當然ノ結果即チ偽造證書行使罪ノ結果ニ過キヌシテ之ヲ以テ直チニ地所其物ヲ騙取シタルモノト認ムル能ハサルモノナリ依テ原裁判ハ破毀更正ヲ求ムト云フニ在リ○依テ案スルニ原院ハ認メタル事實ニ依レハ被告等ハ共謀シテ木村キヨヨリ被告小三郎ニ宛タル山林賣渡證書ヲ偽造シ之ヲ佐倉區裁判所ニ呈出シテ右賣買ノ登記ヲ受ケテ山林ヲ騙取シタリト云フニ在ルモ右賣買ノ登記ハ賣買ノ事實ヲ公示スルハ方法ニ外ナラスシテ其目的物タル山林ハ所有權ヲ移轉スルモノニアラス故ニ原院ハ所有權移轉ノ効チ生スヘキ賣買ノ合意アリシコトヲ認メス其賣買ヲ證明スヘキ證書ハ偽造ナリト認ムル已上ハ山林ハ所有權ハ初ヨリ移動スルコトナカク依然木村キヨヨニ存スルヲ以テ騙取ノ事實アルコトナケレハ無罪ヲ旨渡スヘキニ原院ハ山林賣買ノ登記ヲ受ケタルヲ以テ直チニ山林ヲ騙取シタルモノトシ刑法第三百九十四條第一項第三百九十四條ニ間懸シタルハ擬律錯誤ノ裁判タルヲ免カレズ既ニ此論旨ニ基キ山林騙取ノ點ハ罪トナラサルモノトシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト説明スル已上ハ山林詐取ノ點ニ對スル論旨即チ辯明第四ハ特ニ説明スルノ要ナシ其第六ハ原判決方斷罪ノ資料トナシタル木村重太郎ノ上申書布留川多重郎關谷健太郎ノ上

申書ハ刑事上證據ノ効力ヲ有スヘキ文書ニアラス依テ原院カ之ヲ有罪ノ證據トナシタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法中右等ノ書面ヲ證據トシテ採用スルニ付制限シタル規定アルコトナケレハ原判決ハ本論旨ノ如キ不法アルコトナシ其第七ハ原判決ノ理由中「翌十九日被告小三郎ハ右偽造ノ金圓借用證ヲ携帶シ多喜司方ニ立越シ之ヲ同人ニ交付シテ金圓ヲ受取ラントナシタル處多喜司ニ於テハ借主本人キヨ同道ノ上ニアラサレハ金員相渡シ難シト云フニ依リ被告小三郎ハ歸宅ノ上金員ハ小三郎ニ相渡シ吳レ度旨ノ記載アル口演ト題スル明治二十五年十月十九日付木村キヨ名義ノ書面ヲ偽造シキヨノ名下ニハ前掲同一ノ實印ヲ捺捺シ之ヲ携ヘ同日再ヒ多喜司方ニ到リ該偽造書ヲ同人ニ交付シトノ認定ニ依レハ原院モ口演ト題スル文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ小三郎單獨ノ行爲ナルコトヲ認メタルモノト云ハサルヘカラス然ルニ疑律ノ部ニ至リ右文書偽造行使ノ責任ヲ上告人菊松宗悅ニ科シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決理由ノ冒頭ニ「被告三名ハ共謀シテ云々木村キヨノ山林ヲ騙取シ尙同人ノ名義ヲ以テ他ヨリ金員ヲ取出サンコトヲ企テ云々トアレハ其金員ヲ取出スマテノ總テノ行爲ハ皆ナ被告等ノ共謀ニ出テタモノト認メタルコト明カナレハ本論旨ハ原判決文ノ誤解ニ基クモノナレハ上告適法ノ理由ナシ其第八ハ第一審ノ公判始末書中ニ記載アル證人鈴木卯之助今非徳太郎他數名ノ證人ハ其シテ本件ニ付證人タルノ資格アリヤ否ヤ確定セサルモノナリ何トナレハ右始末書中ニハ證人ニ於テ刑事訴訟法第百二十三條ノ關係ナキ旨ヲ答辯シタル事跡ナキヲ以テナリ故ニ原院カ輕ク之ヲ證據ノ効アルモノトシテ右始末書ヲ採テ證據トナシタ

ハ違法ナリト云フニ在レモ○右始末書ヲ見ルニ證人ノ資格ヲ實シ宣誓セシムトアレハ刑事訴訟法第百二十三條ノ各項ニ付訊問シタル處アリテ後宣誓セシメテ證據ヲ聽クニ差支ナキヲ認メタルモノナルコト明カナレハ假令同條ノ關係ナキ旨ノ答辯ヲ記載シアラサルモ證人ノ資格有無ノ確定セサルモノト云フヘカラサルヲ以テ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ其第九ハ原判決文ニ「之ヲ法律ニ照スニ右私印盜用ノ所爲ハ刑法第二百八條第二項第二項第二百十二條ニ該リトアリテ刑法第二百八條第一項ノ適用ヲ欠キタルハ法律理由ノ明示ヲ爲サ、ル違法ノ裁判ナリ何トナレハ單ニ同條第二項而已ヲ掲グル時ハ如何ナル刑期ヨリ一等ヲ減スルヤチ知ルニ由ナケレハナリト云フニ在レモ○既ニ第二百八條第二項ヲ明示セハ同項ニ若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ストアレハ其第一項ノ刑ヨリ一等ヲ減スルモノナルコト明白ニシテ一モ疑點ノ存スルモノナキヲ以テ原判決ハ法律理由ノ明示ヲ欠キタル不法アリト云フヘカラス右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ原判決疑律ノ部分ヲ破毀シ直チニ左ノ如ク判決ス

今 井 小 三 郎
 今 井 菊 松
 野 口 宗 悅

原院ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告等共謀シテ木村キヨ所有ノ阿蘇村米木千八百八十三番字島ヶ谷山林一段四畝廿六歩外九筆ノ地所ヲ騙取シタリトノ點ハ刑事訴訟法第二百二十四

條ニ依リ無罪押收ノ書類中借用證書賣渡證書口演ト願スル書面各一通ハ刑法第四十三條第一號ニ依リ之ヲ沒收ス其他ハ原判決通リ

明治二十八年十一月二十五日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣旨ス

○監守盜公文書變造行使等ノ件

明治二十八年第九二九號
明治二十八年十一月二十五日宣旨

○判決要旨

執達吏ハ官吏ニシテ公吏ニアラス從テ其代理者モ亦タ官吏トシテ處分ス(判旨第六點)

(參照) 執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル(執達吏規則第二十二條)

裁判ハ形式的確定ノ効力ヲ生ス而シテ兩審級ノ裁判ヲ經タル後豫審終結決定書ノ無効ヲ主張スルハ此原理ニ戻リ甚タ謂レナキ論告ナリトス(判旨第七點)

第一審 東京地方裁判所 第二審 函館控訴院

被告人 中村正元 古川阿久里 辯護人 小島忠里 高木益太郎 米田實

右正元ニ對スル監守盜公文書變造行使阿久里ニ對スル受贓被告事件ニ付明治二十八年七月二日函館控訴院ニ於テ原判決中被告正元及ヒ阿久里ニ對スル部分ハ之ヲ取消ス被告正元ヲ重懲役九年ニ處ス被告阿久里ヲ重禁錮十月ニ處シ罰金七圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス被告正元ノ手ニ現在セシ贓金子三百二十五圓ハ執達吏野津芳市役場ニ其他ノ證據物件ハ各差出人ニ還付スト旨渡シタル判決ニ服セス被告等ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ裁判所構成法第四十九條ニ從ヒ本院第一第二刑事部聯合シ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ
被告正元上告趣意上告人ハ債務者代理北村英一郎ヨリ任意辨濟ノ旨ヲ以テ之ヲ書面ニ記載シ且ツ金錢ヲ預リ又其趣意ニテ之ヲ債權者ニ交付シタルモノニテ毫モ罪トナル可キ事實ナシ然ルニ函館控訴院カ此事實ニ對シ有罪ノ旨渡ヲ爲シタルハ不當ニ事實ヲ確定シタル者ニテ裁判ノ理由ヲ闕クモノト信スト云フニ在リテ
○其論旨ノ在ル處甚タ明瞭ナラスト雖トモ要スルニ本件ノ事實ハ罪トナラサルモノナルニ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不當ナリト云フニ在リ然レトモ原院ノ認メタル事實ノ罪トナルヘキコトハ明白ナレハ有罪ノ判決ヲ下スハ當然ニシテ本論旨ノ如キ不當ノ罪アルコトナシ
被告阿久理上告趣意ノ第一ハ原裁判所ハ受贓ノ罪アリトシテ處斷セラレタルモ本件ノ財物ハ告訴狀末尾其他中村正元等ノ豫審調書ニアル如ク百圓札ニテ一万三千七百圓一圓札ニテ十五

執達吏代理ノ資格○裁判ノ効力

圓ナルコト明カナリ然ルニ上告人ノ受ケタル紙幣ハ五圓札ニテ十枚ナレハ贓物ニ非ス云々ト云フニ在レドモ○本論旨ハ原院ノ認メサル事實ニ基キ論難スルニ過キサレハ上告適法ノ理由トナラズ其第二ハ受賍トハ犯罪ニヨリ得タル物件ヲ直接ニ受ルニアラサレハ受賍ト云フヲ得ス本件ノ如キハ既ニ善意ノ占有者大浦則泰安達純吹田四瓦造ノ手ヲ經テ然ル後チ上告人ノ受ケタルモノナレハ之レ受賍犯者ト云フヲ得スト云フニ在レドモ○是又前項ト同ク原院カ認メサル事實ニ基キ論難ヲ試ムルニ外ナラサレハ上告適法ノ理由トナラズ其第三ハ原裁判ハ「竊盜シタル贓金一万三千七百五圓ノ内ナルコトノ情ヲ知リナカラ」ト單ニ說明シ如何ナル事實如何ナル所爲ニ因リ之ヲ知リ得タルヤノ說明ヲ爲サスシテ處斷シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レドモ○既ニ贓タルノ情ヲ知リタルコトヲ說明スル已上ハ其知リ得タル事由ヲ說明セサルモ不法ニアラス

被告兩名辯護人小島忠里上告趣意據張第一點ハ原判決事實理由ノ部ニ「明治二十五年八月十二日午後三時過正元ハ其假差押ヲ爲サン爲メ平八方ニ出張シタルニ當時執達吏タリシ被告古川阿久理ハ既ニ平八方ニ在リテ平八方ニ居ル英一耶ヨリ現金ヲ供託セシムルコトマテ其運ヒテ爲シ被告正元ハ其後ヲ繼キ(中略)供託ノ手續ヲ爲サス之ヲ四瓦造ニ交付シタルモノニシテ」トアルハ供託金ノ事實ナリ「現金一万三千七百十五圓ヲ英一耶ヨリ差押」中村正元カ田中平八方ヨリ假差押ヲ爲シ「トアルハ差押金ノ事實ナリ」抑供託金ト差押金トハ性質ニ大差アリ供託金ハ執達吏ノ職務上取扱フ可キモノニアラス差押金ハ其職務上取扱フ可キモノナリ然ルニ原判決ハ前

圖ノ如ク之ヲ混同記載シテ原判決ノ事實ハ供託金ノ事實カ差押金ノ事實カ之ヲ識別スル能ハサル者ニシテ所謂事實理由ノ混同アル不法ノ判決ナリト云フニ在リ○依テ原判決ヲ查閱スルニ被告正元ハ其後ヲ繼キ有體動産假差押調書ヲ作り英一耶ヲシテ署名捺印セシメ原裁判相被告浦喜一ヲ立會人トシテ之ニ連署セシメ領取證ト題スル證書ヲ交付シテ現金一万三千七百十五圓ヲ英一耶ヨリ差押シ云々トアリテ右金員ヲ取得シタルハ假差押處分ニ基キタルモノナルコトヲ認定セリ而シテ右支詞ノ前段ニ於テ被告阿久理ハ既ニ平八方ニ在リ平八方ニ居ル北村英一耶ヨリ現金ヲ供託セシムルコトニマテ其運ヒテ爲シ「トアルハ右假差押ヲ爲スニ至ルノ事實情況ヲ叙述シ又其後段ニ「執達吏野津芳市役場ニ携ヘ行キ供託ノ手續ヲ爲サス」云々トアルハ假差押ヲ爲シタルモ正當ニ處分セザリシコト即チ民事訴訟法第七百五十條第四項ニ作り供託スヘキヲ擅ニ四耶職ニ交付シタルコトヲ叙述シタルモノニテ右一万三千七百十五圓ハ假差押ノ命令ヲ執行スル爲メ差押タルモノト認メタルコト明確ナレハ原判決ハ本論旨ノ如キ不法アルコトナシ其第二點ハ上告人古川阿久理ニ對シ原判決事實理由ノ部ニ記載シタル事實ニ就キ東京地方裁判所檢察事ノ起訴ナキハ本件記録ニ徴シテ明白ナルヲ以テ原判決ハ訴ヲ受ケザル事件ニ對シ刑ヲ背渡シタル不法ノ判決ナリト云フニ在レドモ○右阿久理ニ對シテ明治二十五年八月十五日附東京地方裁判所檢察事仲小路廉ヨリ豫審判事ニ宛タル豫審請求書アリ其文詞ハ單ニ「右之者吹田四耶職外二名詐欺取財事件共犯者ト思量候條併セテ豫審相成度此段及請求候也」トアリテ原院カ認メタルカ如キ事實ノ記載ナシト雖モ其起訴ノ事實ニ付檢察事ト列事ト見ル處チ

異ニシタルニ過スシテ本件ニ付起訴ナカリシモノト云フヲ得ス
 被告兩名辯護人高木益太郎カ辯明書ノ要旨ハ本案ハ非現行犯事件ナルニ上告人古川阿久理ニ
 對シテハ檢事ヨリ曾テ豫審請求ヲナシタル事跡ナシ然ルニ豫審判事カ同人ヲ訊問シタルハ越
 權ノ措置タルヲ免カレス從テ其調書ハ無効ノモノナルニ原判決カ之ヲ斷罪ノ資料トナシタル
 ハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○其謂ハレナキコトハ小島辯護人上告趣意擴張第二點ニ
 對スル說明ニ依リ瞭然タリ

判旨第六點

同辯護人擴張書ノ要旨ハ執達吏臨時代理ハ公吏ニシテ官吏ニアラス是故ニ原院カ本案監守盜
 公文書竊遺行使事件ニ付明治二十三年法律第百號ヲ適用セザリシハ法律理由ノ明示ヲ闕キタ
 ル裁判ナリト云フニ在レトモ○執達吏規則第二十二條ニ執達吏ハ此規則ニ依ルハ外總テ一般
 官吏ハ例ニ依ルハ公吏ニアラスシテ官吏ナルコト明カナリ隨テ正當ニ之ヲ代理スル者
 モ亦官吏トシテ處分ヲ受ケヘキハ當然ナレハ本件ハ明治二十三年法律第百號ヲ適用スヘキ場
 合ニアラス故ニ本論旨ハ上告適法ハ理由ナシ
 被告阿久理辯護人米田實上告理由擴張ノ要旨ハ上告人古川阿久理カ豫審終結言渡書ニ契印ナ
 キハ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ違背シ其書類ノ効ナク隨テ豫審終結言渡ハ無効ニ屬スヘキ
 モノナリ左レハ本件第一審裁判所カ此無効ナル豫審終結言渡ニヨリ本件ヲ受理審判シタルハ
 受理スヘカラサル公訴ヲ受理シタルモノナレハ之ニ基キ爲シタル第一審第二審判決モ共ニ違
 法ノ判決ナリトスト云フニ在レトモ○總テ裁判ハ形式的確定ハ効力ヲ生スヘキハ當然ナリ故

判旨第七點

ニ本件阿久理ニ對スル豫審終結決定書ハ契印ナキ故ニ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ違背シ
 其書類ハ無効ナルヘキモノトスルモ本件ハ東京地方裁判所輕罪公判ニ移スハ決定ハ異議ナク
 輕罪公判ニ着手スルト共ニ確定スヘキモノトス故ニ既ニ第一審第二審共ニ異議ナク通過シタ
 ル今日ニ至テ豫審終結決定書ノ無効ナルヘキコトヲ理由トシテ原判決ノ違法ヲ唱フルハ最も
 謂ハレナキコトトス
 右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
 本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十一月二十五日大審院刑事聯合部公廷ニ於テ檢事應當廳立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一〇八八號
 明治二十八年十一月二十八日宣告

○判決要旨

養嗣子離縁ノ事實アルモ戶籍ニ登録セラル、間ハ法律上離縁ノ効力ナシトス
 從テ之ヲ以テ離縁ト認定セシニハ別ニ相當ノ理由ヲ付スルヲ要ス

(參照) 婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁權令相對熟談ノ上タリトモ双方ノ戶
 籍ニ登記セサル内ハ其効ナキモノト看做スヘク候條右等ノ届方等閑ノ所業無之權籍々

離縁ノ効力

御説諭可致置此旨相違候事(明治八年太政官)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 西澤東松 辯護人 熊倉 巖 富塚 政馬
關部 米吉

右東松外二名ニ對スル詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年九月九日東京控訴院ニ於テ公訴ニ付新潟地方裁判所カ犯罪ノ證據十分ナリト認メ刑法第三百九十條第三百九十四條ニ依リ被告東松ヲ重禁錮一年六月罰金十圓監視六月ニ被告雄太郎ヲ重禁錮二年六月罰金三十圓監視六月ニ被告米吉ヲ重禁錮八月罰金五圓監視六月ニ處シ公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トシ押収書類ハ各送出入ニ還付スト言渡シ私訴ニ付被告ハ原告請求ノ杉罎筒壹棹外九十五點執達吏執行調書附屬目錄ノ各物品ヲ速ニ返還スヘシト言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ爲シタル控訴ヲ受理シ審理ノ末木件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告米吉辯護人熊倉巖上告趣意擴張第一點ハ原院ノ判決理由中ニ被告東松ハ親族ト協議ノ上西澤家ヲ離縁シタル者ナリ然ルニ被告東松ハ其後自己ノ戶籍面カ依然西澤家ノ養嗣子トナリ居ルチ奇貨トシ其遺產ヲ詐取セント企テ云々トアリ之レ法則ヲ適用セサル不法ノ裁判ナリ原院認定ノ如ク被告東松カ協議上西澤家ヲ離縁シ其後西澤家ノ遺產ヲ詐取セント企テタリトスルモ斷シテ詐欺取財ノ罪ヲ構成セス被告東松カ西澤家ノ親族ト離縁スルコトテ合意シタリト

スルモ双方ノ戶籍ニ登記セサル間ハ其効ナキモノト看做ストハ明治八年太政官達第二百九號ニ明定スル處ナリ然ラハ被告東松カ西澤家ヲ離縁シタリトスルモ法律上無効ノ離縁ナリ東松カ西澤家ヲ離縁スルノ合意ヲ爲シタル際ハ前戶主タル養父死亡シ東松ハ西澤家ノ當然ノ戶主ナリ戶主カ其家ヲ廢シ又ハ實家ヘ復籍ノ場合ニハ其地方廳ヘ届出テ許可ヲ受クヘキハ明治十年太政官達第六十號ノ明定スル處ナリ本案被告事件ニ於テハ被告東松ハ養父死去ニ際シ單ニ親族ト離縁ノ合意シタルニ止マリ一モ法律上有効ノ離縁ヲ爲シタル者ニ非ラサル已上ハ西澤家ノ遺產ハ被告東松ノ財產ナリ被告東松カ自己ノ財產ヲ以テ虛偽ノ賣買ヲ爲スモ決シテ罪トナラス此ノ虛偽ノ賣買ハ何人チモ害セス又西澤家チモ害セス東松ハ西澤家ノ戶主タレハナリト云ヒ被告東松辯護人熊倉巖上告論旨擴張第一點ノ要旨ハ原判決ハ被告親族協議ノ上西澤家ヲ離縁シタルモノナリトテ事實ヲ認定シタルモ民事上行政上離縁ニ必要ナル送籍ノ手續等ノ完了シタルヤ否ヤハ審モ之ヲ問ハサルノミナラス未タ是等ノ手續ノ完了セサル者ナル事ハ明白ナル事實ナリ然ルニ原判決ハ單ニ實體上ノ離縁ノ事實ヲ認ムルト同時ニ直チニ民法上ニ於ケル財產上ノ權利ノ所在ヲ斷定シタルハ不當ニシテ即チ理由ヲ缺キタル裁判ナリト云ヒ被告雄太郎辯護人富塚政馬ハ相辯護人ノ論旨ヲ引用スル旨申立タリ○依テ按スルニ原院ハ被告東松ハ親類ト協議ハ上西澤家ヲ離縁シタルモノナリト認定シアルモ其戶籍面カ依然西澤家ノ養嗣子トナリ居ル事チモ認めアリ若シ戶籍面カ以前西澤家ノ養嗣子トナリ居ル事實ナル已上ハ明治八年太政官達第二百九號ノ規定ニ依リ離縁シタルモノト認ムルコト能ハサルカ故ニ此點

ニ付キ特ニ相當ノ理由ヲ付スルニアラサレハ前後ノ認定ヨリ結局ヲ異ニスルモハナルヲ以テ
原院判決ノ事實理由ハ其必要ナル點ニ於テ缺欠アルヲ免カレシテ全部破毀ノ理由アルモハ
トス既ニ此點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘキ理由アリト認ムル以上ハ他ノ上告論旨ハ一々
説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ依リ原控訴判決全部ヲ破毀スヘキモノトスル已上ハ之ニ基キ曾渡シタル原私訴判
決モ共ニ破毀ヲ免カレサルコト當然ナレハ私訴判決ニ對スル上告論旨ハ一々説明ヲ與ヘス
右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件公訴私訴ニ對スル原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移送
ス

明治二十八年十一月二十八日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○偽證教唆ノ件

明治二十八年第一二四八號
明治二十八年十一月二十八日宣告

○判決要旨

詐言ハ刑法第二百二十五條ニ所謂其他ノ方法ニ包含ス

(參照) 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐欺ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者
ハ亦偽證ノ例ニ同シ(刑法第二百二十五條)

偽證ノ囑託ハ宣誓ノ方式ニ依リ消滅セス

第一審 青森地方裁判所弘前支部 第二審 東京控訴院

被告人 唐牛撫四郎 辯護人 岸本辰雄

右ニ對スル偽證教唆被告事件ニ付キ明治廿八年十月九日東京控訴院ニ於テ本院ノ移送ニ依リ
本件ヲ受理シ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被告撫四郎ヲ重懲罰三月ニ處シ罰金十五圓ヲ附加
ス公訴費用ハ被告ニ於テ負擔スヘシ押収書類ハ各差出人ニ還付スト曾渡シタル判決ニ服セス
被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ
被告撫四郎上告趣意ハ要スルニ原院ノ認メタル事實ハ其基礎一モ存セサルノミナラス證據ニ
背馳セシモノナリト云フニ在リテ○原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定非難ニ過キサレハ上
告適法ノ理由トナラス

辯護人岸本辰雄非本常次上告趣意擴張第一點ノ要旨ハ原判決理由中ニ決シテ即トハ爲ラヌ故
トノ詐言ヲ構ヘタリトノ事實ハ何等ノ證據ニ基キタリシヤ更ニ之ヲ觀出スルニ由ナシ此根據
ナキ事實ヲ附加シテ上告人ヲ遮斷シタルハ法律ニ違背セシ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ
○右ノ事實ハ原院カ其判決文ニ明示セシ各證據ニ依リ認定シタルモノナレハ之ニ對スル不服
詐言○偽證

ハ即チ原承審官ノ職權ニ對スル非難ニ外ナラサレハ上告適法ノ理由トナラス其第二點ノ要旨ハ原判決ヲ閱スルニ許言ヲ構ヘ囑託シトアルノミニテ法律ニ定メタル賄賂其他ノ方法ニ屬スル事實ノ存在ヲ認メタルナシ況ンヤ其許言トスル所ノ決ノ罪トハ爲ラヌ故ノ一層ハ架空ノ事實ナルニ於テオヤ而シテ原裁判ノ採リタル証人須藤茂第一回豫審調書ニハ偽證ヲ爲スコトニ付茂ハ淺井元猪股幸次郎ノ兩人ヨリ約定證ヲ取リテ承認ヲ與ヘタリトノ事實確然タリ故ニ原院ノ判決ハ理由ヲ付セサル不法アリト云フニ在レトモ

○原判決ヲ見ルニ被告ハ云々茂ニ對シ御前ハ何モ知ラヌカラソノ心配スルモ決シテ罪トハ爲ラヌ故心配セヌ高杉等ノ申ス通り申立矣レト詐言ヲ構ヘ云々トアリテ即チ許言ヲ構ヘ茂ヲシテ安心セシメ遂ニ囑託ノ趣旨ヲ遂クルニ至リタル事實ヲ認メアレハ原判決ハ本論旨ノ如キ囑託ノ方法ニ屬スル事實ノ存在ヲ認メス隨テ理由不備ノ裁判ナリト云フヲ得ス其三點ノ要旨ハ原院カ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシメタル證憑ハ証人須藤茂ノ豫審第一回調書須藤茂及須藤七郎左衛門ト被告入トノ對質調書及對質摸據書等ニ過キス証人高杉常五郎及被告入ノ各豫審調書ハ悉モ取調ヲ爲サス故ニ是等ノ證憑ニ對シテハ被告入カ意見ヲ申立ツルノ餘地ナク隨テ公判始末書ニモ其迹ナシ且ツ本件ニ付被告入カ利益ノ證據トシテ明治二十七年受任訴訟事件ヲ記載シタル手帖一冊豫審訊問中既ニ提出シ爾來管轄各裁判所ニ於テ右證憑物件ヲ被告入ニ示サレ來リシニ原裁判ニ於テハ之ヲ示サス却テ取調ヲ爲サス被告入ノ意見モ問ハサル高杉常五郎ノ調書等證據トシ有罪ノ裁判ヲ與ヘタルハ法則ヲ適用セサル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ

○原院公判始末書ヲ閱スルニ裁判長

問被告入辯護人ニ於テ本件ニ付證據トナル處ノ記録ハ總テ朗讀セシメサルモ意見ナキヤ被告入辯護人等異存ナシトアレハ原院カ證據トシテ明示シタル各調書ニ就キ適式證據調ナカリシモノト云フヘカラス又被告入ノ提出セシ手帖ハ原院ニ於テ證據トシテ採用シ居ラサルヲ以テ之レニ付キ證據調ヲ爲サトルモ適法ニアラス其第四點ノ要旨ハ証人須藤茂ヲ訊問スルニ當リ數多被告入ノ氏名ハ一モ指示シアラス而シテ其宣誓書ニハ「唐半撫四郎等カ偽證教唆云々トアルノミ故ニ該証人ト他被告人トノ刑事訴訟法第二百三條ノ關係如何ハ之ヲ知ルヲ得ス隨テ其證言モ當然無効ナリ然ルニ原院カ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ

○右証人第一回調書ニ依レハ刑事訴訟法第二百三條第二百四條ニ記載セル條件ニ付取糺シタル事實アレハ其當時現ニ被告入トナリ居ル者各ニ付取糺シ其抵觸ナキヲ認メ宣誓セシメタルモノト認ムヘキハ當然ナレハ本論旨モ亦上告適法ノ理由トナラス

辯護人岸本辰雄上告趣意擴張第五點ノ要旨ハ刑法第二百二十五條ニ賄賂其他ノ方法トアル其方法中ニハ詐言ノ如キモノヲ含メタルモノニアラスシテ賄賂或ハ之ニ類スル事項即チ少クモ証人ノ心思ヲ拘束シテ宣誓ニ背クニ至ルヘキ方法ノ存セシテ要ス又或ハ詐言ノ如キモ時ニ偽証囑託ノ一方法トナリ得ヘキコトアリトスルモ偽證ヲナスモ罪トハナラヌト云フカ如キ言語ハ宣誓ノ式ニ因リ當然消滅シテ何等ノ効果ヲ生シ得ヘカラス結局原院ノ判決ハ刑法第二百二十五條ヲ以テ罰スヘキ事實理由ヲ備ヘサル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ

○原院カ認めタル事實ハ刑法第二百二十五條ニ所謂方法ト云フヘキモノハナルコトハ擴張論旨第二點ニ對ス

ル、說明ヲ以テ了解スヘシ、而シテ其囑託ノ方法タル詐言ハ、宣誓ノ式ニ因リ當然消滅セリト云フモ、何カ故ニ當然消滅スヘキカ、現ニ原院ノ認ムル處ニ依レハ、其詐言ヲ信シ遂ニ意ヲ決シ、處爲ハ、證據シタルコト明カナレハ、詐言ヲ構ヘテ囑託シタル効果ハ生シ得ヘカ、ラサルモ、ハナリトハ、最モ理由ナキ論旨ナリトス。

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十一月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財未遂ノ件

明治二十八年第一三二六號
明治二十八年十一月二十八日宣告

○判決要旨

檢事ハ刑輕キニ失スト思料スルトキハ情法相匹敵セサルヲ理由トシ其判決ニ對シ控訴若クハ附帶控訴ニ依リ其變更ヲ求ムルコトヲ得

第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 森本圓平 辯護人 鈴木充美 赤尾彦作

右私印私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治二十八年十月十五日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴並ニ原院檢事ノ附帶控訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮二年六月罰金二十圓暨視十月ニ處シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢事ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
被告森本圓平上告ノ趣旨ハ原院判決ハ犯罪ノ行爲ノ存セサルコトヲ認メナカラ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院文中被告ノ犯罪行爲ノ事實ヲ明示シアレハ原院判決ハ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ

同辯護人鈴木充美上告追加趣意書ノ第一點ハ本件ハ檢事ヨリ詐欺取財ノ點ヲ以テ起訴セラレタルコトナキニ原院カ刑法第三百九十條及ビ之ニ關聯スル法條ヲ適用セラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○共犯者タル奥山太郎右衛門等及ビ被告ノ豫審調査ニ屬スル書類ニ徵スレハ被告ニ對スル起訴申訴欺取財ノ點モ包含セシコト認メ得ヘケレハ原院カ詐欺取財未遂ノ點ニ對シ判決ヲ與ヘタルハ決シテ不法ニアラス其第二點ハ被告圓平ニ對スル原院檢事ノ附帶控訴ハ單ニ第一審ノ刑輕キニ失ストノ一事ニ止マリ他ニ理由ナキ旨ナリシモ斯ノ如キ附帶控訴ハ成立スヘキモノニアラスト云フニ在レトモ○檢事カ公廷ニ立會ヒ法律適用ハ意見ヲ陳述スルハ只其正條ヲ援引シテ其適用ヲ求ムルニ止マラスシテ其正條ハ範圍内ニ於テ相當ノ刑罰金額ヲ指定シ其適用ヲ求ムヘキモノナレハ其判決ニシテ情法ハ相通セサルモハアリト認ムル

輕刑不服ノ控訴

ハハ之ニ對シテ上訴ヲ爲シ得ヘキコト言テ候タス故ニ原院檢事カ第一審ハ刑輕キニ失ストハ理由ヲ以テ附帶控訴ヲ爲シタルハ相當ニシテ從テ原院カ該控訴ヲ採用シタルハ決シテ不當ニハカス其第三點ハ本件參考人武川季吉ハ證人トシテ訊問スヘキモノナリニモ拘ハラス參考人トシテ訊問シタルハ違法ナルニ原院カ此違法ナル豫審調書ヲ採テ斷罪ノ證ト爲セシハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人タルノ資格アルモノヲ參考人トシテ取調ヘタリシトテ決シテ違法ト云フヘキモノニアラス故ニ原院カ武川季吉ノ豫審調書ヲ斷罪ノ證料ニ供セシハ不法ニアラス其第四點ハ原院ニ於テ被告森木圓平ノ豫審調書ヲ以テ斷罪ノ證トセラレタルトモ豫審判事ハ豫審監禁ノ期間ナル十日間ニハ少ナクトモ二回以上被告ノ訊問ヲ爲サトルヘカラサルコトハ法律ノ規定スル處ナリ然ルニ豫審ニ於テハ二十日間ノ監禁中僅カニ二回ノ訊問ヲ爲シタルノミナルヲ以テ之レニ依テ得タル被告ノ訊問調書ハ違法ノモノナリ從テ此調書ヲ斷罪ノ用ニ供シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○一件記録ヲ查閱スルニ被告ニ對シ密室監禁言渡書ノ送達ヲ爲シタルハ明治二十八年四月八日ニシテ同月十八日ニ更改言渡書ヲ送達シ而シテ同月二十四日ニ至リ釋放ノ言渡書ヲ送達シタルモノナリ而シテ期間ノ計算ニ付刑事訴訟法第十五條ノ規定ニ依レハ期間ヲ計算スルニ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セサルモノナレハ本件密室監禁ノ期間ハ四月九日ヨリ起算シテ同月十八日ニ至リ十日ヲ算出スヘキモノトス此十日間ニ在リテ被告ノ幾回ノ訊問ヲ受ケシヤ否ヤヲ調査スルニ明治二十八年四月十日ト同月十八日トノ兩回ニシテ法律ノ規定ニ違フタル處アルヲ見ス既ニ被告ノ訊問次數ニシテ

違法ノ原ナキノミナラス假リニ上告論旨ノ如キ違法アルモノトスルモ之カ爲メ該調書ヲ無効ニ歸セシムヘキノ規定アルニアラサレハ孰レノ點ヨリ觀察スルモ原院カ該調書ヲ斷罪ノ證料ト爲シタルハ不法ナリト論訴ハ相立タサルモノトス同辯護人赤尾彦作上告再追加趣旨ノ第一點ハ原院公庭ニ於テ證人藤卷金兵衛米倉國太郎平田啓助ヲ取調ヘタル後其調書ヲ讀ミ聞ケタルコトナク從テ調書ニ署名捺印セシメタルコトナクシテ右三名ノ調書ハ全ク無効ノモノナルニモ拘ハラス原院カ採テ以テ斷罪ノ證料トセシハ不法ナリト云フニ在レトモ○公判庭ニ於テ取調ヘタル證人ノ陳述ハ之ヲ公判始末書ヘ錄取スルヲ以テ足レリトス此場合ニ於テハ刑事訴訟法第三百三十一條ノ規定ヲ適用スルヲ要セス故ニ原公庭ニ於テ該調書ヲ證人等ヘ讀ミ聞ケヌ又之ニ署名捺印セシメサルモ決シテ違法ニアラサレハ原院カ之ヲ以テ斷罪ノ證料ニ供シタルハ相當ノコトナリトス其第二點ハ證人米倉國太郎カ豫審第一回ノ取調ヘテ受ケルニ當リ爲シタル宣誓ハ被告森木圓平ニ對シテハ更ニ宣誓ノ効力ヲ有セサルモノナリ何トナレハ其證言ハ其當時被告ノタリシ奥山太郎右衛門内藤岩吉ニ對シテ證言タル効力ヲ有スルニ止マリ其後共犯人トシテ公訴ヲ提起セラレタル被告圓平ニ對シテハ審モ證言ノ効力ヲ有セサレハナリ然ルニ此無効ナル調書ヲ採テ原院カ斷罪ノ用ニ供セラレタルハ違法ナリト云フ第三點ハ又證人米倉國太郎ハ明治二十八年四月十八日即チ被告圓平カ共犯人トシテ公訴ノ提起セラレタル以後再ヒ證人トシテ取調ヘテ受ケ供述シタリト雖トモ其際米倉國太郎ヲシテ宣誓ヲ爲サシメタル形跡ナシ然ラハ則該證言ハ被告ニ對シ證言タル効力ヲ

有セサルモノナルニ原院カ採テ以テ斷罪ノ用ニ供シタルハ不法ナリト云フニアリ○然レトモ本件記録ヲ查閱スルニ被告圓平ニ對シ檢察カ豫審請求ヲ爲シタルハ明治二十八年三月十八日ニシテ證人米倉國太郎カ豫審第一回ノ取調ヘモ同月同日ナレハ該豫審調ヘハ果シテ被告ニ對スル豫審請求以前ニ係リタルモノト斷定スルヲ得ス而シテ證人米倉國太郎ノ豫審調書ニ添付シアル宣誓書ヲ閱スルニ與山太郎右衛門等私印私書偽造事件云々トアリテ被告ハ此内ニ包含セサルモノト認ムヘキノ反證ナキニ依レハ國太郎ノ第一回豫審ノ取調ヘニ際シテハ被告カ既ニ起訴セラレタル以後ニ係リタルモノト見做サ、ルヲ得ス然ラハ則國太郎カ第一回豫審取調ノ際相被告與山太郎右衛門外一名ノミナラス被告圓平ニ對スル關係ノ有無ヲモ訊問シ其關係ナキヲ認メ宣誓書ヲ爲サシメタルコトハ認知スルヲ得ヘシ然ルカ故ニ原院ニ於テ證人米倉國太郎ノ第一二回ノ豫審調書ヲ採テ被告ニ對スル斷罪ノ證據ニ供シタルハ毫モ違法ノ點アルコトナシ其第四點ハ原院ニ於テ檢察ノ附帶控訴アルニ當リ其附帶控訴ニ付事實ノ取調ヲ爲サヌ又被告入及ヒ辯護人ナシテ更ニ辯論ヲ爲サシメスシテ其附帶控訴ヲ採用シ被告入ニ對シ不利益ナル判決ヲ下シタルハ控訴ハ事實ノ覆審ヲ爲ストノ法則ニ違反シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原告判始末書ヲ閱スルニ原院立會檢察ハ第一審判決ノ刑輕キニ失スルヲ以テ更ニ重禁錮三年以上ノ刑ニ處斷アラント云フト云フトノ附帶控訴ニシテ檢察カ此附帶控訴ヲ爲スハ事實ノ訊問ヲ了リタル後第一審カ言渡シタル刑輕キニ失スルモノト認メ之カ控訴ヲ爲シタルモノナリ如此揚合ニアリテハ殊更ニ同一ノ事實ヲ再ヒ審理スルノ要アラザレハ原院

カ附帶控訴ノアリタル爲メ更ニ事實ノ取調ヘテ爲サ、リシトテ憲法ト云フヲ得ス
右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十一月二十八日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢察岩野新平立會宣誓書

○謀殺ノ件

明治二十八年第一三二四號
明治二十八年十一月二十九日宣誓

○判決要旨

公判々事ハ臨時豫審判事ノ職務ヲ代理スルコトヲ得而シテ臨時代理ヲ命スルハ行政ノ事務ニ屬ス從テ其事實ヲ證明スヘキ書類ハ記録中ニ存在スヘキモノニアラス

第一審 鳥取地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 田中久藏 辯護人 高木益太郎

明治二十八年十月二十四日大阪控訴院ニ於テ右久藏ニ對スル謀殺被告事件ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察長林誠一ハ答辯書ヲ提出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

判事ノ代理

上告趣意書第一點ハ第一審公判始末書ヲ閱スルニ第二回開廷明治二十八年八月二十八日於前
 同趣意書於茲開法廷本案第二回ノ公判ヲ開クトアリテ之ヲ公行シタル旨記載ナシ抑公判ナル
 旨ハ所謂豫審又ハ公判下調ニ對スル意義ニシテ決シテ公判ヲ公行シタリトノ意ニアラサルヤ
 言ヲ俟タス是レ刑事訴訟法第二百六十九條第八ニ背キタル不法ノ裁判ナルニ原院方之ヲ取消
 サスシテ控訴棄却ノ旨渡ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右ハ第一審裁判所ノ審理
 手續ニ對スル批難ナレハ以テ上告ノ理由ト爲スヘカラザルノミナラス第一審公判始末書ハ(前
 署)於公開法廷本按第二回ノ公判ヲ開クト明記シアレハ之ヲ公行シタルコト論ヲ俟タス(第二點
 ハ被告入田中久藏ノ第二、三、四回豫審調書及參考人山下ナチノ豫審調書ニ於テ鳥取地方裁判所云
 ヲトアリ即其調書ヲ作リタル場所ハ記載アルモ判事所屬ノ裁判所ノ記載ナクハ則其豫審判
 事ハ合法ニ該調書ヲ作リタルモノナルヤ否ヲ知ルヲ得ス如此不法ノ調書ナルニ原院方採テ證
 據ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○同調書ヲ閱スルニ於テ鳥取地方裁判所豫審判事臨
 時代理判事三輪秀直トアレハ同人方該調書ヲ作リタル場所即鳥取地方裁判所ノ判事ナルコト
 ハ自ラ明瞭ナルヲ以テ上告論旨ノ如ク違法アリトセス(辯護士高木益太郎上告趣意書第一
 點ハ本件ノ檢證調書ニハ警部桑田安三醫師天野七五三三ノ陳述ヲ錄取シアルニモ拘ハス右兩
 名ヲシテ其陳述ヲ承認セシムル爲メ署名捺印ヲナサシメサリシハ違法ニシテ該調書ハ有効ノ
 モノト云フヘカラザルニ原院方之ヲ採テ斷即ノ資料トナシタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ
 在リ○因テ案スルニ該調書中警部桑田安三及醫師天野七五三三ノ陳述ヲ記載シタル際アルモ

同人等ニ對シ證人鑑定人又ハ參考人トシテ訊問シタルニ非スシテ右ハ只其檢證手續ヲ明カニ
 スル爲メ判事方聽取リタル同人等ノ陳述ヲ記載シタルニ止マルモノナレハ固ヨリ訊問調書ト
 其趣意異ニスルヲ以テ同人等ノ署名捺印ヲ要スヘキモノニアラス即該檢證調書ハ違法ノ原
 キモノトス(第三點ハ參考人田村シマ同トキ山下イヨ等ノ豫審調書ニ鳥取地方裁判所豫審判事
 臨時代理三輪秀直ノ署名捺印アレトモ同人ハ當時公判ノ事ニシテ豫審判事ニアラス又上告人
 ハ同人方豫審判事臨時代理ノ資格アルヘキヲ認メス(依テ相當ノ調査ヲ仰ク)隨テ右調書ハ越權
 ノ處分ニ基キタル違法ノモノナルニ原院方採テ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ
 ○豫審判事臨時代理ノ職務ニ從事スルコトヲ得ヘキ者ハ公判ノ事ニシテ公判ノ事タルハ外尙
 ハ他ニ特別ノ資格ヲ以テ要スルコトナシ故ニ上告論旨ニ於テ三輪秀直ハ公判ノ事タルコトヲ
 認メナカラ豫審判事臨時代理ノ資格アルヲ認メスト云フハ謂レナシ而シテ其臨時代理ヲ命ス
 ルコトハ行政ノ事務ニ屬スルモノナレハ其書類ハ固ヨリ訴訟記録中ニアルヘキモノニアラザ
 ルヲ以テ他ニ反證ナキ限リハ調書ニ記載セル右三輪秀直ハ肩書ヲ以テ正當ハモノト認ムヘキ
 ニ付キ該調書ハ正當有效ハモノトス(第三點ハ刑事訴訟法第四百四條ニ鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ
 云々鑑定ヲナシタル時間ヲ詳記スヘシトノ規定アリ然ルニ本件ノ鑑定書ニハ右時間ノ記載ナ
 シ即違法無効ノモノナルニ採テ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右鑑定時間ヲ
 記載スルハ全ク鑑定費用計算ノ爲メノミナルヲ以テ之ヲ記載ノアルトナキモ其鑑定書ノ効
 カニ影響ヲ及ボスヘキモノニアラス從テ之ヲ斷即ノ證據ニ採用シタルモ固ヨリ不法トセス因

大審院刑事判決録

刑事ノ代理

百四十四

テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十一月二十九日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

大審院刑事判決錄 第五卷

○監守盜及官文書偽造行使ノ件

明治二十八年第一一七二號
明治二十八年十二月二日宣告

○判決要旨

執達吏カ假差押調書ニ虚偽ノ事實ヲ記入シ之ヲ役場ニ備付ケタル所爲ハ官文書偽造行使罪ナリトス(判旨第三點)

執達吏ハ公吏ニアラスシテ官吏ナリ(判旨第四點)

(參照) 執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル(執達吏規則第二十二條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 萩野敬勝 辯護人 宮古啓三郎

右監守盜及ヒ官文書偽造行使被告事件ニ付明治二十八年九月十八日東京控訴院ニ於テ東京地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末原判決ヲ取消ス被告敬勝ヲ重懲役十年ニ處ス
押収ニ係ル證據書類ハ總テ各差出入ニ還付スト言渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告ヨリ上

虛偽ノ圖書○執達吏ノ資格

ノトス然ルヲ以テ原判決ハ失當ニアラス

以上說明セル如ク上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ照ラシ
之ヲ棄却ス

明治二十八年十二月二日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○私印私書偽造行使ノ件

明治二十八年第一二五九號
明治二十八年十二月二日宣告

○判決要旨

事實ノ説明ニ於テ三所爲ト認メナカラ法律ノ適用ニ至リ二所爲トシテ論シタル
判決ハ理由顯露ノ不法アルモノトス

第一審 浦和地方裁判所熊谷支部 第二審 東京控訴院

被告人 野原八十八 辯護人 兒玉一英

右八十八和藏カ私印私書偽造行使被告事件ニ付明治二十八年九月二十六日東京控訴院ニ於テ
浦和地方裁判所熊谷支部檢事ノ控訴ヲ審理シタル末同裁判所ノ判決ヲ取消シ更ニ被告八十八

ヲ重禁錮一年六月罰金拾五圓監視六月ニ處シ被告和藏ヲ重禁錮一年罰金拾貳圓監視六月ニ處
ス偽造ノ印願壹個ハ沒收シ其他ノ押収書類ハ各差出入ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告
兩名ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告兩名辯護士兒玉一英ノ擴張論旨第三點ハ原判決ニ借用證書及贖本并ニ委任狀偽造ノ二所
爲ハ各刑法第二百十條第一項云々トアリ然ルニ事實ノ理由トシテハ金六拾五圓ノ借用證書及
其贖本并ニ登記委任狀又金百九拾五圓ノ借用證書及其贖本ノ五所爲アリ其中孰レノ二所爲ヲ
以テ罪トシテ論セラレタルヤ之ヲ知ルニ由ナシ金六拾五圓ト金百九拾五圓ノ證書委任狀等ノ
偽造行使ハ其時日場所ヲ異ニスルニ拘ラス均シク借用證書及贖本ナルヲ以テ之ヲ總括シテ記
載セラレタルモノトスルモ其借用證書及贖本并ニ登記委任狀偽造ト明記セラレタル上ノ之レ
ノミニテモ三所爲ナルカ如シ然ルニ三所爲ヲ列記シタル下ニ於テ故ラニ二所爲ト明記セラレ
タルヲ以テ孰レノ二所爲ヲ論セラレタルモノナルヲ猶ホ知ルニ由ナク理由不備ナリト云フニ
在リ○因テ原判決ヲ查閱スルニ借用證書及贖本并ニ登記委任狀偽造ハ二所爲ハ各刑法第二百
十條一項同第二百十二條ニ云々トアルニ依レハ則借用證書并ニ贖本偽造ハ所爲ト登記委任狀
偽造ハ所爲トヲ以テ二所爲ト爲シタルモハ如シ然ルニ其前段ノ理由ニ照スニ金六拾五圓ハ
借用證書并ニ其贖本偽造ハ所爲ヲ以テ一所爲ト認メ又金百九拾五圓ハ借用證書并ニ其贖本偽
造ハ所爲ヲ以テ同シク一所爲ト認メ即チ右二個ノ借用證書并ニ其贖本偽造ハ所爲ヲ二所爲ト

辯護人ノ上告申立

六

認めらるるハ、如シ然ラハ即之ニ登記委任状偽造ノ所爲ヲ加ブレハ合セテ三所爲トナルニ付
原判決ハ前後理由ハ顯赫ヲ免カレサルモ、トス故ニ本論旨ハ原判決全部ヲ破毀ス可キ理由ア
ルモノト認めルヲ以テ被告ノ上告趣旨及辯護士ノ他ノ擴張論旨ニ對シテ逐一説明ヲ與フルコ
トヲ要セサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シテ本件ヲ宮城控訴院ニ
移ス

明治二十八年十二月二日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一三二〇號
明治二十八年十二月二日宣告

○判決要旨

辯護人ハ獨立シテ上告ノ申立ヲ爲スノ權ナシ

被告人ヨリ上告ノ申立ヲナシタルトキハ辯護人ノナシタル其申立ハ無効ニ歸

ス

(參照) 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得但被告人ノ明言シタル意思ニ反スル

コトヲ得ス(刑事訴訟法第
二百四十三條)

第一審 浦和地方裁判所熊谷支部

第二審 東京控訴院

被告人 町田太郎吉

辯護人 指田義雄

右詐欺取財被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年十月三十一日東京控訴院ニ於テ審理ノ末原判決
ハ之ヲ取消ス被告太郎吉ヲ重禁錮四月ニ處シ罰金十圓ヲ附加ス押収ノ證書類ハ各差出人ニ還
付シ公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト會渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
刑事訴訟法第二百七十三條第一項ニ上告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出シ且其申立ヲ爲
シタル日ヨリ五日內ニ趣意書ヲ差出ス可シトアリ今本件訴訟記録ヲ査閱スルニ被告ハ明治二
十八年十一月一日上告申立書ヲ差出シタルモ爾後五日內ニ趣意書ヲ差出サハルヲ以テ其上告
ハ違法ニ成立セサルモノトス又原院ニ於テ被告ハ辯護人タリシ指田義雄ハ明治二十八年十一
月二日上告申立書ヲ差出シ同月六日上告趣意書ヲ差出シタルモ辯護人ハ獨立シテ上告ヲ爲ス
ハ權ヲ唯刑事訴訟法第二百四十三條ニ依リ被告人ニ代リ上告ヲ爲スコトヲ得ルニ過キス故
ニ前編ノ如ク本件ニ付キ被告ヨリ上告ヲ申立タル上ハ縱令其上告ハ定期內ニ趣意書ヲ差出サ
サル爲メ不成立ニ歸スルモ右辯護人ノ上告申立ハ到底無効ノモノト爲サハル可カラズ何トナ
シハ被告本人ノ上告申立ト辯護人ノ上告申立ト兩々相對立スルハ法律ハ許ス所ニ非サレハナ
リ因テ右辯護人ノ上告モ亦違法ニ成立セサルモノトス

辯護人ノ上告申立

七

右ノ理由ナルヲ以テ各上告諭旨ニ對シテハ辯明ヲ與ヘス刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本
件被告及ヒ辯護人ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

明治二十八年十二月二日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○官吏抗拒ノ件

明治二十八年第一三三三號
明治二十八年十二月二日宣告

○判決要旨

官吏抗拒罪ノ主體ハ被執行者ト否トテ區別セス

(參照) 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第一百三

第一審 新潟地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 吉田海市郎 辯護人 天野喜之助

右官吏抗拒被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年十月十六日東京控訴院ニ於テ審理ノ末原判決ハ
之ヲ取消ス被告ヲ重禁錮五月ニ處シ罰金七圓ヲ附加ス押収ノ石ハ差押人ニ還付ス公訴裁判費
用ハ全部被告ノ負擔トスト旨渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告要旨ハ刑法第三百三十九條第一項ノ官吏抗拒罪ハ職務ヲ執行ス可キ官吏ニ對シテ其執行ヲ
受リ可キ者カ抗拒シタル場合ニ組成ス可キモノニシテ被執行者以外ノ者カ其執行ヲ妨害スル
モ其所爲ヲ以テ官吏抗拒罪ト見做ス可カラズ然ルニ原院カ被執行者ニアラザル被告カ執行者
ニ暴行ヲ加ヘタル所爲ヲ以テ之ヲ官吏抗拒罪ニ問ヒシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○
苟クモ官吏カ其職務ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ之カ執行ヲ妨害スルハ即チ其官吏ニ抗
拒シタルモノニシテ法律ハ被執行者ト被執行者ニ非サル者トハ區別ヲ立ルコトナシ故ニ原判
決ハ憲モ擬律錯誤ノ原ナシトス

辯護士天野喜之助カ上告趣意擴張第一點ハ被告カ上告趣意ト同一ナレハ別ニ辯明ヲ與ヘス其
第二點ノ要旨ハ被告ハ大醉ノ餘知覺精神ヲ喪失シ是非ヲ辨別セザリシ事ハ一件書類ニ徴シ明
瞭ナルニ原院ハ此最必要ナル事實ノ審明ヲ度外視セルノミナラス被告カ右ノ事實ヲ明確ナラ
シメンカ爲メ證人ノ召喚ヲ申請セシモ之ヲ排斥シ去リ被告ノ所爲ヲ以テ直ニ官吏抗拒罪ニ問
ヒシハ不當ナリト云フニ在リテ○前段ハ原院認定以外ノ事實ヲ提出シ以テ原院カ職權ヲ以テ
爲シタル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス後段ハ證人召喚ノ必要不必要ヲ判定シ其申請ヲ許否
スルハ亦原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院カ被告ノ申請ヲ排斥シタルハ決シテ違法ニ非ス因テ
此諭旨モ亦相立タス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

官吏抗拒罪ノ主體

明治二十八年十二月二日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣誓ス

○官吏賄賂收受等ノ件

明治二十八年第一三六三號
明治二十八年十二月二日宣誓

○判決要旨

官吏收賄罪ハ官吏人ノ囑託ヲ受ケ報酬トシテ金品ヲ收受シ若クハ其契約ヲ爲スニ因テ成立ス故ニ其囑託ヲ受クルニ當リ收受若クハ契約ノ事實ナキ以上ハ事後ニ至リ金品ノ贈與ヲ受クルコトアルモ刑法上罪トシテ論スヘキニアラス

(參照) 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ濫許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二百八十四條一項)

第一審 福岡地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 山本謙太郎

右官文書偽造行使不正逮捕監禁偽證賄賂收受詐欺取財誣告被告事件福岡地方裁判所ノ判決ニ對スル被告及ヒ檢事ノ控訴ニ付明治二十八年十月二十九日長崎控訴院ニ於テ審理ノ末被告ニ對スル原判決中有罪ノ部分ヲ取消シ被告ヲ重禁錮三年附加罰金三拾圓ニ處シ收賄金六百圓ヲ

追徴ス被告カ官文書偽造行使ノ點ニ對スル本院檢事ノ付帶控訴及被告カ詐欺取財誣告ノ點ニ對スル原檢事ノ控訴ハ之ヲ棄却ス押収物件ハ各差出人ニ還付シ公訴裁判費用ハ被告ニ於テ長ハルト連帶負擔スヘシト言渡シタル有罪ノ部分ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ相手方原院檢事長大島貞敏ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂クル處
上告趣意ノ要旨第一點ハ原院カ斷罪ノ證憑ニ供セラレタル證人安武昌夫市原正治野見山俊一ノ宣誓書ニハ單ニ真心ニ從ヒ宣誓スヘキ旨ノ明記アリテ果シテ被告何某ノ如何ナル事件ニ對シ宣誓シタルヲ得テ知ルヘカラス然ルニ原院カ如斯不法ノ宣誓ニ對スル證人調書ヲ採テ有罪ノ證憑ト爲シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○右各調書ヲ查閱スルニ安武昌夫市原正治ノ調書ニハ山本謙太郎カ詐欺取財事件ニ付證人トシテ調ルカラ宣誓セヨ此時宣誓書ヲ讀聞セタル上署名捺印セシムト記載シアリ又野見山俊一ノ調書ニモ山本謙太郎カ詐欺取財外一罪被告事件ニ付證人トシテ調ル旨ヲ告ケ宣誓書ヲ讀聞セ署名捺印セシメタル旨ヲ記載アリ左レハ其宣誓書ニ特ニ被告ノ人名姓名ヲ記載セサルモ之ヲ不法ノ宣誓ト云フコトヲ得ス隨テ原院カ是等證人ノ供述ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニ非ス

其第二點ハ證人山本龜吉池田岩吉ノ調書ニハ山本謙太郎外二名詐欺取財事件ニ付訊問スヘキ旨明記アリ此時已ニ不法逮捕強訊等ノ起訴アリタルニ拘ハラヌ右二罪ノ點ニ付テハ宣誓ヲ爲サシメテ而シテ其調書ニハ詐欺取財事件以外ノ事項ヲ訊問シ現ニ詐欺取財事件ニ對シ無罪ヲ

官吏收賄罪ノ成立